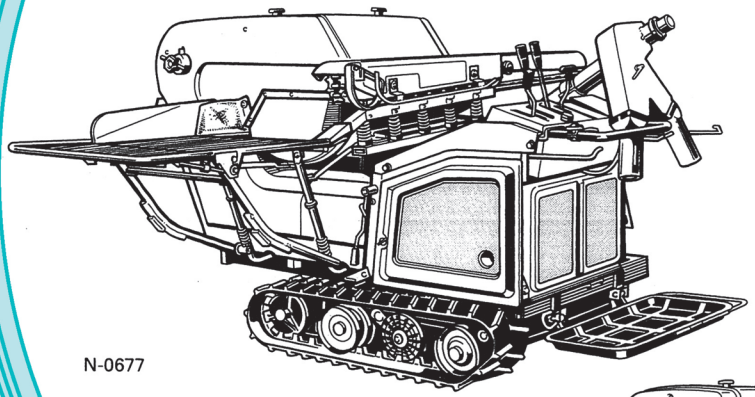
クボタハーベスタ

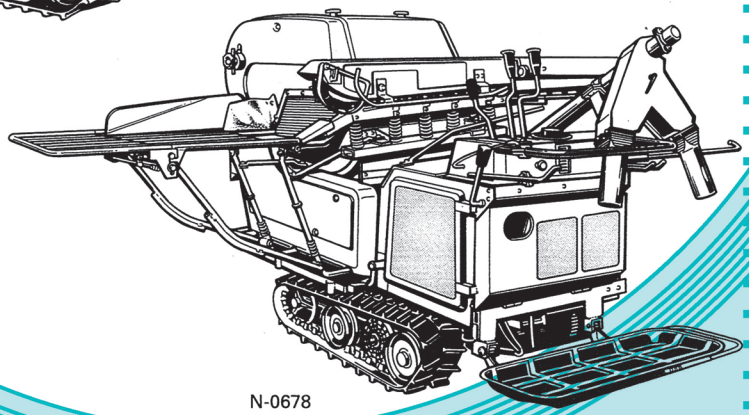
取扱説明書

HS

-51・-61
-451・-651・-751



N-0677



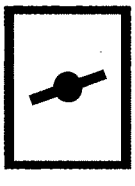
N-0678

Operator's Manual

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。



チョーク（作動）

専門用語の説明

● 1番スクリュ	精選されたこく粒を搬送するスクリュコンベア
● 2番スクリュ	粗選されたこく粒やわらくずを横搬送するスクリュコンベア
●ト　ウ　ミ	選別風を発生させるファン
●こ　ぎ　胴	脱こくするドラム
●フィードチェーン	稲を狭持搬送するチェーンコンベア
●縦スクリュ	精選されたこく粒を機外へ搬送するスクリュコンベア
●ドレーン(プラグ)	エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓，ラジエータの排水栓
●シャトルシフト(主変速)レバー	機体を前進又は後進させるときの操作レバー

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの販売店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危　険**	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警　告**	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注　意**	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重　要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補　足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

5C000-6131-1(カラー)

本製品の使用目的について

本製品は，稲・麦の収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，型式仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確かめの上，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明はHS-751仕様を基本とし，HS-751仕様と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。

- 型式別によって …… “HS-51仕様” “HS-61仕様” （ガソリンエンジン）
  “HS-451仕様” “HS-651仕様” } （ディーゼルエンジン）
  “HS-751仕様”
- 始動方式によって …… “リコイル仕様” “クランクハンドル仕様” “セル仕様”

ハーベスタを安全にしかも上手にご使用していただくため，この取扱説明書は次の手順で構成されていますので，基本操作から収穫作業まで順番に理解習得してください。

まずは安全確保をしましょう

1．**⚠安全作業をするために：**安全な作業をしていただくために基本的注意事項や警告ラベル・注意ラベルの機械への貼付け位置と警告・注意事項を解説していますのでよく読んで理解し，必ず守ってください。

動かす前に諸装置を理解しましょう

2．**諸装置の説明：**諸装置のはたらきをまず理解し，間違った操作をしないでください。

動かす前に機械の健康診断をしましょう

3．**運転前の点検：**作業中のトラブル防止のため，毎運転前の点検内容を理解し，必ず実施してください。

最初にエンジンの安全基本操作を体得しましょう

4．**エンジンの始動と停止：**機体の突然の発進をさせないため，エンジンの始動手順と停止を体得してください。

次にハーベスタの安全走行のための基本操作を体得しましょう

5．**ハーベスタの運転：**

(1)安全に機体を前進・後進・停車させる基本操作を体得してください。

(2)毎作業前に点検を必ず実施してください。

(3)ハーベスタをほ場へ安全に移動させるため，安全装置の取付けや各装置の脱着や固定作業，トラックへの安全な積込み・積降しと輸送方法を理解し，必ず守ってください。

では実際にほ場で刈取作業を始めてみましょう

6．**上手な収穫作業のしかた：**作業前の諸装置の取付け，作物とほ場条件にあった各部の正しい調整，安全で正しい収穫作業を体得してください。

よく働いた機械をいたわりましょう

7．**メンテナンス：**機械を長持ちさせるために，刈取りシーズン前後・長期格納時の注意事項や定期点検の要領を理解・実施し，来シーズンに備えてください。

ハーベスタがもしも不調のときは

8．**ハーベスタの不調と処置：**異常や故障かな？と思われたとき，現象に応じて，処置をしてください。

目　次

⚠安全に作業するために

⚠安全に作業するために …… ⚠-1
1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。 …… ⚠-1
2. ⚠表示ラベルと貼付け位置 …… ⚠-10
3. ⚠表示ラベルの手入れ …… ⚠-14

サービスと保証について

サービスと保証について …… 1
ご相談窓口 …… 1
補修用部品の供給年限について …… 1

装置の名称と取扱い

装置の名称と取扱い …… 3
機体方向説明 …… 3
装置の名称と各部のはたらき …… 4
スタータスイッチ【セル仕様】 ……7
デコンプノブ【451リコイル仕様】 ……7
デコンプレバー【クランクハンドル仕様】 ……7
スタート(クランク)ハンドル【クランクハンドル仕様】 ……8
エンジンスイッチ【リコイル仕様】 ……8
リコイルスタータ【リコイル仕様】 ……8
ジェットスタート【451・651・751】 ……8
シャトルシフト(主変速)レバー ……9
副変速レバー ……9
サイド(操向)クラッチレバー ……9
脱こくクラッチレバー …… 10
アクセルレバー …… 10
チョークレバー【51・61】 …… 11
フューエルコックレバー …… 11

運転前の点検

運転前の点検 …… 12
日常点検項目 …… 13

エンジンの始動と停止

エンジンの始動と停止 …… 14
エンジンの始動と停止のしかた【51・61】 …… 14
始動のしかた …… 14
停止のしかた …… 17
エンジンの始動と停止のしかた【451・651・751】 …… 19
始動のしかた …… 19
停止のしかた …… 23

ハーベスタの運転

ハーベスタの運転 …… 25
新車時の扱いかた …… 25
初期のならし運転 …… 25
移動走行について …… 25
走行のしかた …… 25
停車のしかた …… 27
トラックへの積込み・積降し …… 27
輸送時の注意 …… 28

上手な収穫作業のしかた

上手な収穫作業のしかた …… 29
ハーベスタが作業できる作物とほ場の状態 …… 29
作物の条件 …… 29
ほ場の条件 …… 29
作業前の準備 …… 30
補助袋受け棒の引出し …… 30
もみ袋の取付け …… 30
供給台のセット …… 31
排じん筒の取付け・取扱い …… 32
排わら装置の取扱い …… 33
ハーベスタ作業のしかた …… 33
ほ場への乗り入れ・あぜ越え …… 34
作業に適した機械の方向 …… 34
脱こくの操作のしかた …… 35
作業に適した調節のしかた …… 38

メンテナンス

メンテナンス …… 41
日常点検と定期点検一覧表 …… 42
点検と処置
(給油(水)・注油・清掃・調整・交換) … 42
点検と処置(調整・交換) …… 43
日常点検 …… 44
燃料の点検・補給 …… 44
エンジンオイルの点検・補給 …… 45
エアクリーナの点検・清掃 …… 46
ラジエータ冷却水の点検・補給 …… 47
ワイヤ・チェーン・プーリ
・テンションアームの点検・注油 … 47
ラジエータ防じんあみ，フィンの点検
・清掃【451・651・751】…… 49
機内，マフラ周りの点検・清掃 …… 49
クローラの点検・調整 …… 50
ベルトの点検・調整 …… 50
定期点検 …… 51
エンジンオイルの点検・交換 …… 51
トランスミッションケースオイルの
点検・交換 …… 52
フューエルフィルタの点検・清掃・交換 … 53
フューエルパイプの点検・交換 …… 55
燃料のエア抜き【451・651・751】 …… 55
ラジエータの点検【451・651・751】 … 56
点火プラグの点検・調整【51・61】 …… 57
バッテリの点検【セル仕様】 …… 57
電気配線とヒューズの点検・交換 …… 59
わら切刃の点検・交換 …… 60
フィードチェーンの点検・調整 …… 60
各部ベルトの張り点検・調整 …… 61
ワイヤの点検・調節 …… 64
クローラの点検・調整 …… 68
長期格納のしかた …… 69
各部の清掃 …… 69
エンジン関係 …… 69
ラジエータ冷却水【451・651・751】 … 70
その他 …… 70
使用者が行なってはいけない修理 …… 71
使用済廃棄物の処分について …… 71

不調時の点検と処置

不調時の点検と処置 …… 72
本機 …… 72
エンジン …… 74
警笛が鳴った場合【451・651・751】 … 76

付　表

付　表 …… 77
主要諸元 …… 77
付属部品 …… 80
別途購入アタッチメント一覧表 …… 81
ラジエータの用品 …… 82
不凍液 …… 82
ラジエータ洗浄剤 …… 82
消耗部品（純正部品を使いましょう） … 83
本機部 …… 83
脱こく部 …… 86
クボタ純オイル …… 88

⚠ 安全に作業するために　　必ず読んでください。

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。

⚠安全指示順守

■本書及び機械の警告ラベル・注意ラベルをよく読み理解してください。

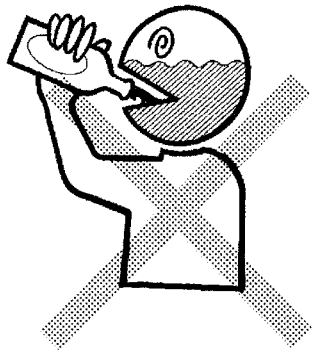
- 警告ラベル・注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。
- 破損・紛失したときは，注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転，作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性をそこなったり，機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても，安全には細心の注意を払ってください。

M-6215

⚠適格者運転

■運転操作には的確な判断が必要です。

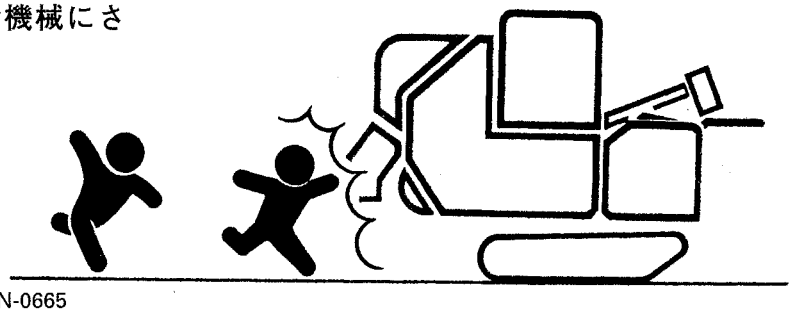
- お酒を飲んでいる方，睡眠不足の方，妊娠中のご婦人，16才未満の方，過労，病気の人は使用しないでください。
- 初めて運転する人は，操作に慣れるまで低速で運転してください。



M-6216

⚠子供が近づくのは危険

■点検・整備中及び収穫作業中，機械に子供を近づけないでください。みえないところで機械にさわったり，かくれたりして危険です。

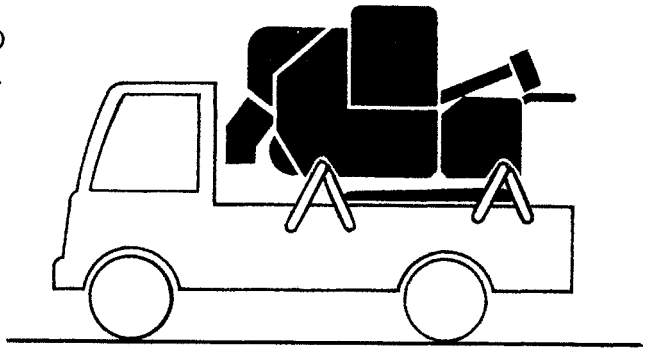


N-0665

⚠ 安全に作業するために

⚠移動走行

■この機械は“道路運送車両法”に適合していないので公道を走ることができません。移動するときはトラック輸送（27ページ参照）してください。

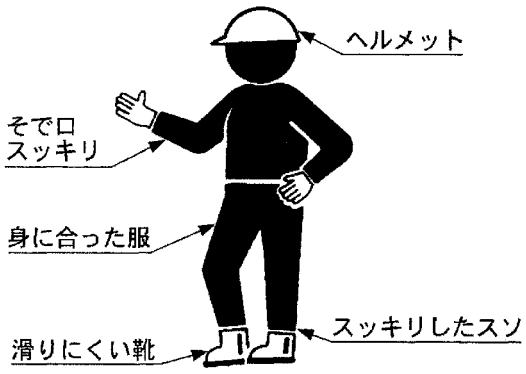


N-0666

⚠安全な服装

■運転者・補助者とも作業に適した服を着用してください。

- レバーや作動部に誤って引っ掛かり，ケガをすることがありますのでだぶついた服は，着用しないでください。
  また，そで口はきっちりと止めてください。
- はち巻き，首巻き，腰タオルの着用は禁止です。



M-6219

⚠排気ガスに注意

■エンジンの排気ガスは有毒です。

- 屋内で運転するときは，適切な換気をしてください。
- 排気管を屋外に延長するか，ドアや窓を開け，外気がじゅうぶん入るようにしてください。

M-8842

⚠燃料の取扱いは安全に—火気厳禁

■燃料は非常に燃えやすく危険です。取扱いにはじゅうぶん注意してください。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めてください。
- 燃料補給中は火気厳禁です。くわえタバコや裸火照明は近づけないでください。
- 燃料タンク規定値を補給してください。
- 燃料やオイルをこぼしたときは，きれいにふきとってください。
- 燃料補給後，タンクキャップは，もれないように，しっかり締めてください。

B-1499

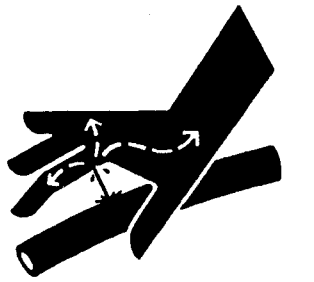
⚠定期点検整備

■1年ごとに定期点検整備を受け，各部の保守をしてください。

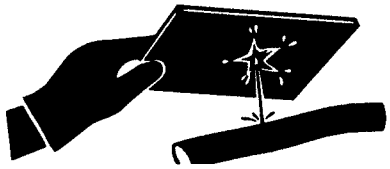
- フューエルパイプ，ラジエータホース【451・651・751】は2年ごとに交換してください。
(55ページ参照)
- 電気配線は毎年点検してください。
(59ページ参照)

■高圧噴油が皮ふに浸入すると危険です。

- 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは厚紙や板などを使って点検してください。高圧噴油に直接，手や体を触れないようにしてください。
もし，高圧噴油に触れた場合，直ちに医者の診断を受けてください。油が皮ふに浸入した場合，数時間以内に取除かないと壊疽(えそ)にかかるおそれがあります。



F-8847



B-1504

⚠作業前点検（日常点検）の実施

■運転の前には点検項目（13ページ参照）の点検をしてください。異常があれば整備してから運転してください。

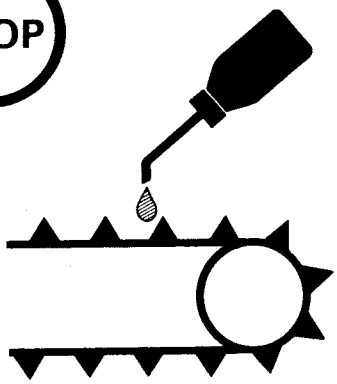
■点検・整備・調整・掃除・給油・グリースアップするときはエンジンを必ず止めてください。

- 脱こくクラッチは“切”にし，シャトルシフト（主変速）レバーを“N(中立)”（ブレーキ）にしてください。
- マフラ部周辺・ベルトカバー内・配線部・バッテリ周辺にわらくずがたまっていると火災の原因となりますのできれいに取除いてください。
- 燃料・オイル・グリースは指定のものを使ってください。

■取外した安全カバー，保護カバーは必ず取付けて作業してください。

M-6220

M-6527



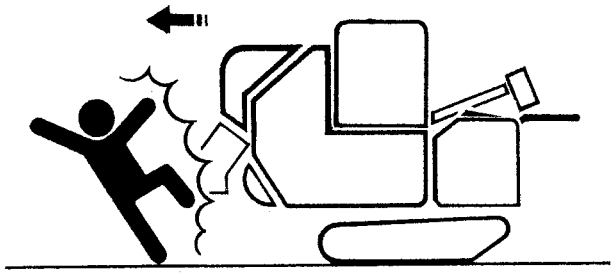
M-6221

⚠ 安全に作業するために

⚠機械を動かす場合は安全に注意

■機械を動かす場合は周囲の安全に気をつけてください。

- エンジンを始動するときは，運転位置に必ず立ってシャトルシフト（主変速）レバーを**“N(中立)”**（ブレーキ）にし各クラッチを**“切”**にして合図をしてください。
- 機械の発進や各クラッチを入れるときは，合図をして，人を機械に近づけないでください。
- 前進・後進・旋回するときは，必ず周囲の安全を確かめてください。



N-0667

⚠安全なトラック輸送

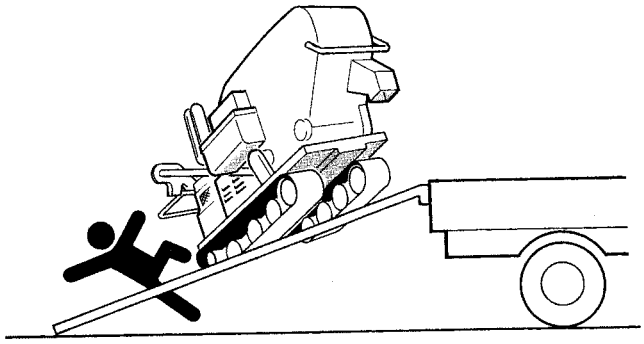
■積込み・積降ろしはトラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。

■トラックへの積込み・積降ろしは，平地を選んで，最低速で行なってください。

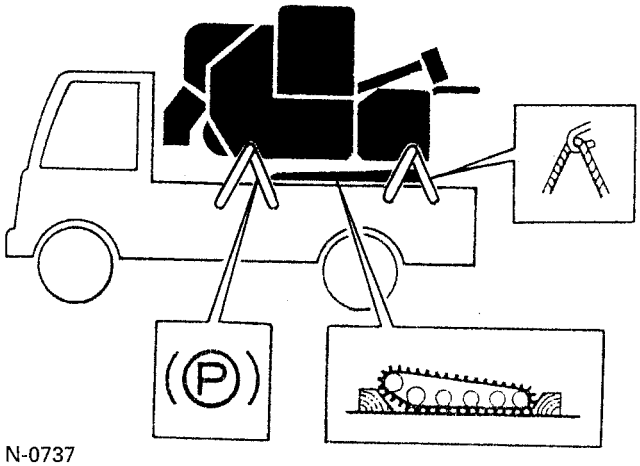
- あゆみ板はフックが付いているものを使用し，トラックの荷台に段差のないように確実に掛けてください。また，あゆみ板は段差の４倍以上の長さで，すべり止めがあり，強度がじゅうぶんある基準に合ったものを使ってください。
- あゆみ板は平行において，安定していることを確認してください。
- 積込みは前進で，積降ろしは後進で行なってください。
- あゆみ板の途中でサイド（操行）クラッチレバー・シャトルシフト（主変速）レバーを操作すると機械が急降下し，落下する危険がありますので操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台にもどって向きを正し，再度やり直してください。

■トラックの上ではシャトルシフトレバーを“N(中立)”位置(ブレーキが作動します)にし，車止めをし，ロープでしっかり床に固定します。

- カバー類が開いていると風圧で破損・脱落のおそれがありますので，必ず閉じてください。
- 輸送中の急発進・急ブレーキ・急ハンドルは積荷が動いて危険ですから，絶対しないでください。



N-0668



N-0737

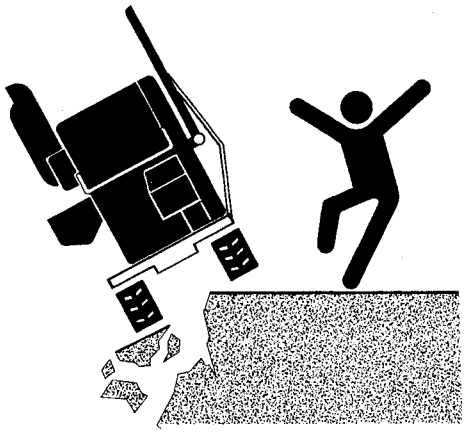
あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	30cm以上
数　量	２枚
強　度	１枚が500kg以上の重量に耐えうる

⚠転倒・転落注意

■転倒・転落は重大事故になります。

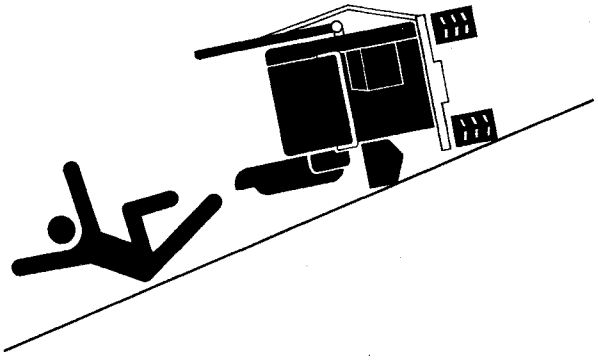
- 溝・穴・土手の近くは路肩が弱いことがあり，機械の重みでくずれる場合がありますので，走行しないでください。
- 道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）で運転を誤まると，転落して死亡事故になることがありますので走行しないでください。



N-0669

■坂道走行・ほ場の出入口・傾斜地作業は転倒・転落の危険があります。注意しましょう。

- 坂道の途中や傾斜地では速度を落としシャトルシフト（主変速）レバー・サイド（操向）クラッチレバーを操作しないでください。
- 坂道・傾斜地で旋回はしないでください。



N-0670

■10cm以上の段差のあるところでは，段差の4倍以上の長さですべり止めがある基準に合ったあゆみ板を使ってください。

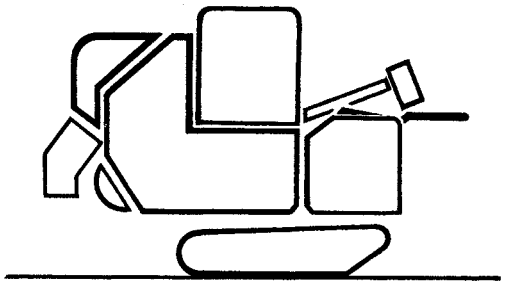
- 低速で段差に直角に進入してください。
- 途中でアクセルレバーをエンジン回転数**“高速”**側への操作はしないでください。

N-0671

⚠安全な駐車のしかた

■駐車するとき(運転席を離れるとき)は，シャトルシフトレバーを“N(中立)”にし，スロットルレバーを“停”の位置まで動かし，スタータスイッチがあるものは“切”にしてください。

- 傾斜地に駐車するときは，車止めをしてください。

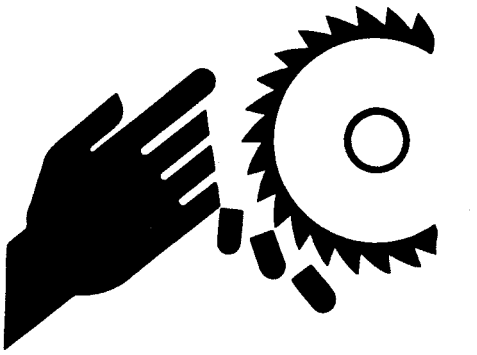


N-0738

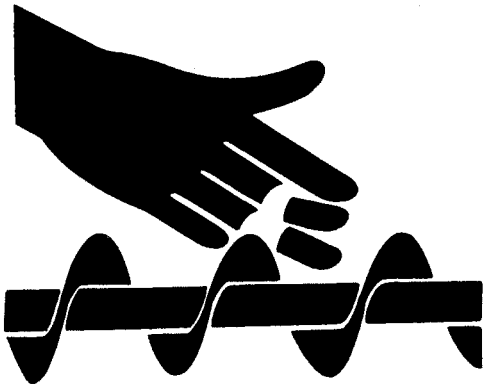
⚠安全な収穫作業

■異常に気づいたらすぐエンジンを止めてください。

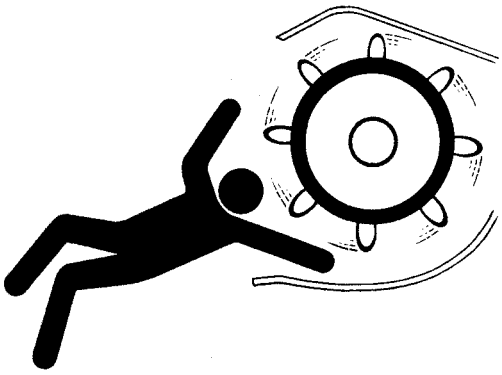
- 危険な作動部が多くありますので運転中にわらの巻付きや詰まりを取除くことはしないでください。エンジンを必ず止めて処置してください。
- 排わら装置やカッタ・結束機にわらが詰まったときは，すぐ各クラッチを切りエンジンを止めて処置してください。
- カッタに詰まったわらなどを取除くときは，厚手の手袋をして，少しずつ取ってください。素手で刃先には触れないでください。
- ベルトカバー・チェーンカバーなどの内部には危険な回転物があります。カバーの下に手を入れたり，カバーを外したままで運転しないでください。
- 各部の掃除口，点検窓の内部には高速回転物があり危険です。掃除口や点検窓を開けるときはエンジンを必ず止めてください。



M-6232



M-6233

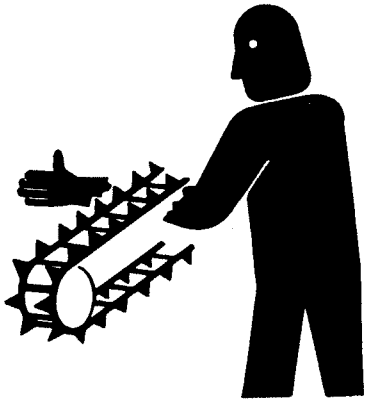


M-6234

⚠安全な手こぎ作業

■ハーベスタの走行部・刈取部を止めて手と腕をチェーンの外側に位置させ，わらを少量ずつ送り込むこと。

- そで口がスッキリした服で，手袋は使用しないでください。

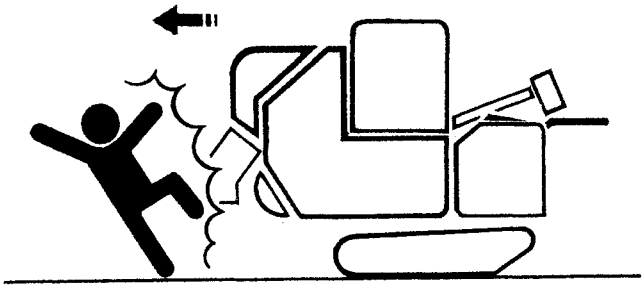


M-6235

⚠共同作業の安全確保

■補助者は運転席からみえにくい位置にいることがあります。補助者の安全にも配慮してください。

- エンジン始動時，各クラッチを入れるときは合図し，補助者のＯＫをもらってください。
- 補助者が機械に近づくときは，運転者に知らせることを徹底させてください。

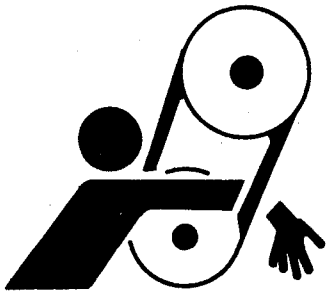


N-0667

⚠安全な点検・整備

■水平で平たんな場所で行なってください。

■エンジンをかけたままでの点検・整備・清掃は危険です。エンジンを必ず止めて，さらにシャトルシフト（主変速）レバーを“N(中立)”（ブレーキ）にしてください。



N-0676

⚠ 安全に作業するために

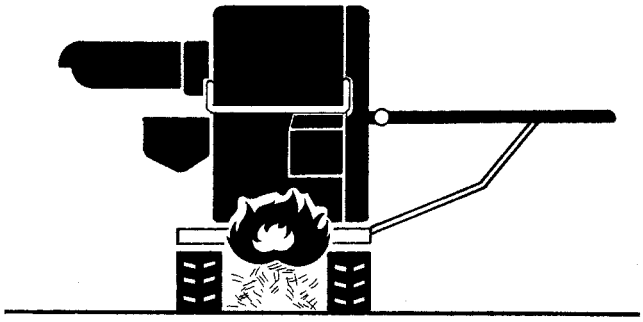
⚠火災防止

■わらくずは燃えやすく注意が必要です。

- エンジン本体・マフラ周辺・ベルトカバー内側配線部・バッテリ周辺にわらくずがたまっていると危険です。作業前，作業後に点検しきれいに取除いてください。
- 運転後わらくずの上や枯れた雑草の上に停車すると，火災のおそれがありますのでさけてください。

■機体にカバー（おおい）をかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

■電気配線の被覆が破れるとショートして火災が発生するおそれがあります。点検をして破れている部分は修理が必要です。



N-0673

⚠バッテリの取扱い注意【セル仕様】

■バッテリのガスは爆発のおそれがあります。

- バッテリの近くに裸火（マッチ，ライター，タバコの火など）を近づけたり，ケーブルのショートによるスパークをさせないでください。

■バッテリは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。

- LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
  すぐにUPPER LEVEL(上限)とLOWER LEVEL(下限)の間に補水してください。(補水可能なバッテリ)

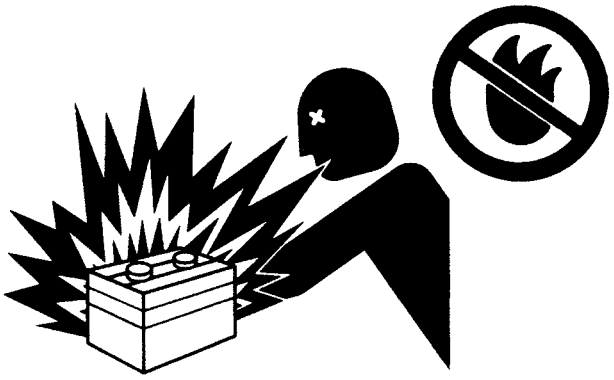
■バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使わないでください。

■バッテリの充電時，交換時は，バッテリの注意ラベルをよく読んでください。

- バッテリを取外すときは，最初にマイナス（⊖）側のケーブルを取外してください。
  バッテリを取付けるときは，最初にプラス（⊕）側のケーブルをプラス（⊕）側の端子に取付けてください。
- 充電は，機械から取外して行なってください。
- 密閉状態で充電を行なうと破裂するおそれがあり危険です。
- 指定外のバッテリは使わないでください。

■バッテリ液（希硫酸）に触れると危険です。

- 目，皮ふ，衣服についたときは，すぐに水でよく洗ってください。
- 目に入ったときは，水でよく洗った後，医師に治療を受けてください。



F-8836

M-6465

⚠ヤケド防止

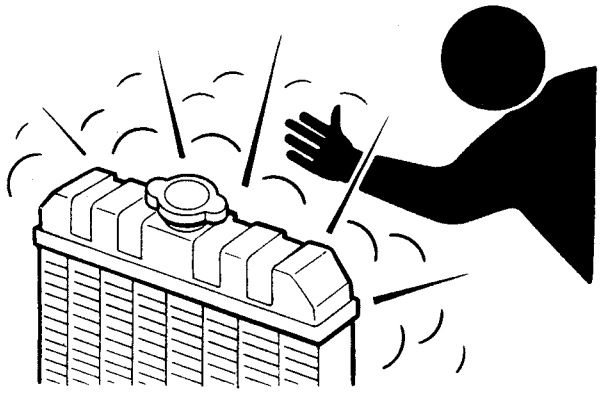
■過熱された冷却水あるいは蒸気が皮ふに触れるとヤケドします。【451・651・751】

- 運転後のエンジン・ラジエータ・リザーブタンク中の冷却水は，過熱，加圧され高温あるいは蒸気になっています。エンジン停止後30分以上経過してからエンジンルームを開け，ラジエータキャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから作業してください。

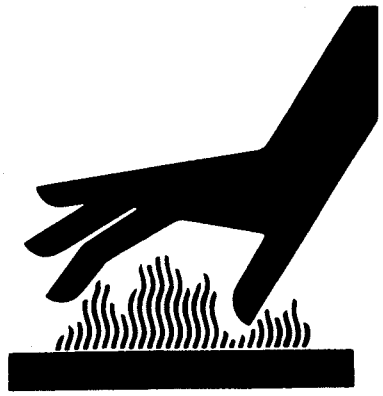
■高温の油が皮ふに触れるとヤケドをします。

- 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管およびその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガのおそれがあるためじゅうぶんに温度が下がつて，残圧がないことを確かめて整備してください。

■エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中及び停止直後は触れないでください。



B-1503



B-1502

⚠この機械を他人に貸すときは

■取扱説明書をよく読んでいただくとともに，取扱い方法・安全な使いかたを説明して，安全な作業ができるように指導を行なってください。

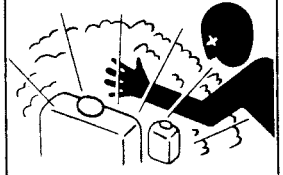
⚠夜間作業はしないでください

■この機械は夜間作業に必要な箇所を照明するための作業灯が付けられませんので，安全のため夜間作業はしないでください。

2. ⚠表示ラベルと貼付け位置

①品番　56431-5219-4【451・651・751】

⚠ 注　意

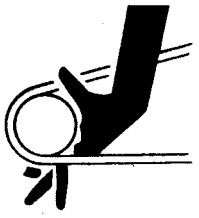


オーバヒートでエンジンルームを開けて点検整備するときは、次の手順を守ること。

1. エンジンを止める。
2. 必ず停止後30分以上経過してからエンジンルームを開けること。

エンジンが冷えていないときは、ラジエータ部・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあります。

②品番　53981-6436-2



⚠ 注　意

1. 回転物に接触するとケガをするおそれがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2. 点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
3. 点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

③品番　5C000-5216-1

⚠ 注　意

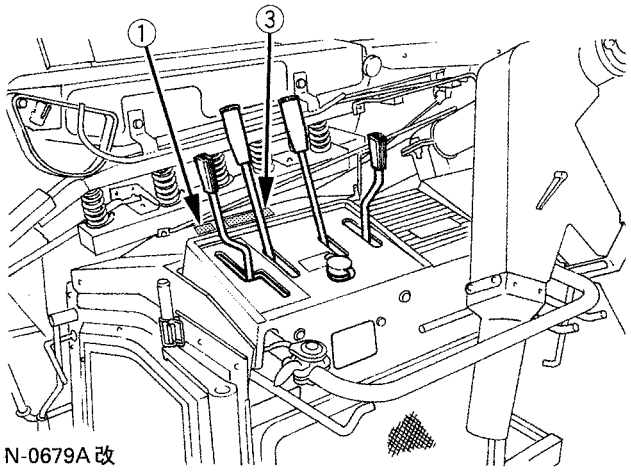
1．作業前
(1) 安全に作業するために、取扱説明書を読んで機械の使いかたを覚えること。
(2) 緊急停止が必要なときは、シャトルシフト(主変速)レバーを「N(中立)」(ブレーキ)の位置に戻すこと。(ブレーキが作動)

2．移動・作業中
(1) 屋内は排気ガスが溜まりやすく、ガス中毒のおそれがあるので換気をすること。
(2) 火災のおそれがあるので、機械を停止するときは切りわらや雑草の上に止めないこと。

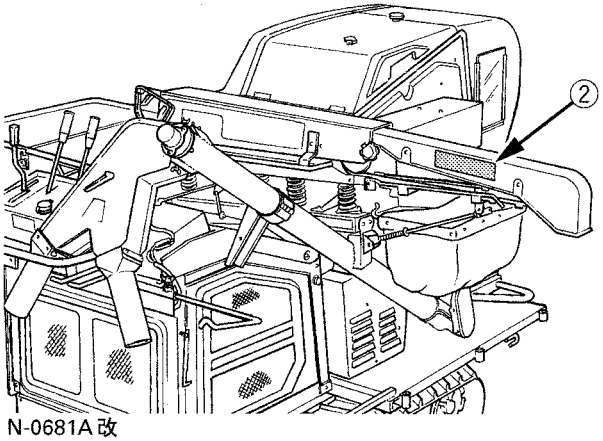
3．積込み・積降し・あぜ越え
(1) 車への積込みやあぜ越えは前進で、車から降ろすときは後進で、エンストしない程度にエンジンの回転を落として下さい。あゆみ板は段差の4倍以上の長さですべり止めがあり、基準に合ったものを使用すること。
(2) あゆみ板の途中でサイド(操向)クラッチレバー・シャトルシフト(主変速)レバーを操作すると機械が急降下し、落下する危険がありますので絶対に操作しないこと。方向を変えるときは、いったん地上又は荷台に戻って向きを正し、再度やり直すこと。

4．作業後
(1) ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整のときは各クラッチを切りエンジンを必ず止めること。
(2) 発進するとき、脱こく部を作動するときは、周囲の安全を確かめ合図して機械に人を近づけないこと。
(3) 走行時は人にあたり、ケガをさせるおそれがあるので供給台・もみ受け台・排わら搬送・排じん筒は収納すること。
(4) 転倒・転落事故の危険があるので、傾斜地・路肩の軟弱な道路・がけ際などは走行しないこと。

5．駐停車
(1) 機械から離れるときは、エンジンを止めてシャトルシフト(主変速)レバーを必ず「N(中立)」(ブレーキ)の位置にすること。また、坂道で駐車するときは、車止めをして暴走を防ぐこと。



N-0679A 改



N-0681A 改

①品番　5C000-5213-1

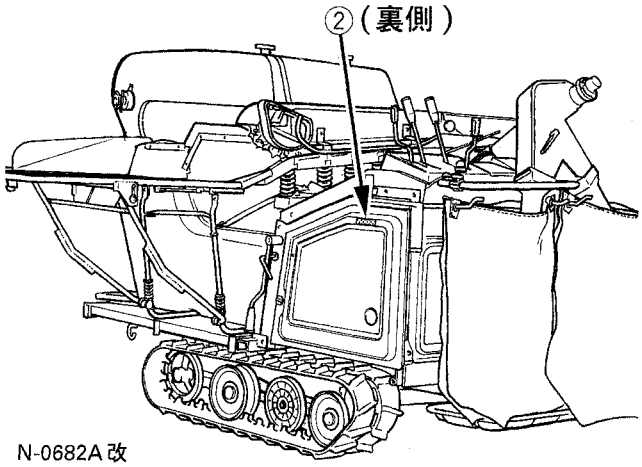
⚠注意	1．もみ受け台に乗らないこと。 2．移動するときは必ず収納すること。

②品番　52320-3159-1

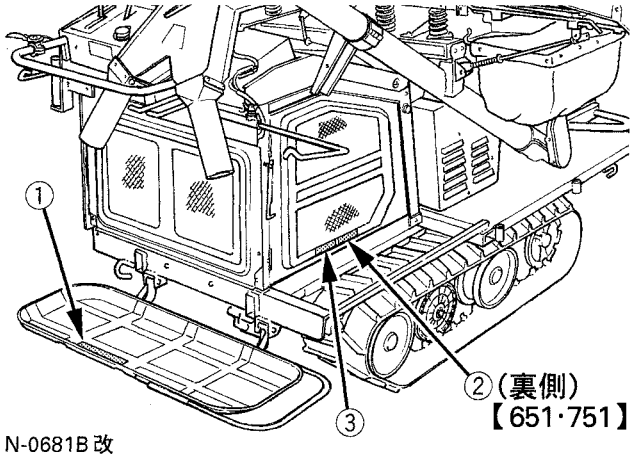
⚠ 注　意	
	マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。

③品番　56421-2613-1
【51】

⚠ 注　意	
	カバーが熱くなることがあります。触れるとヤケドをするおそれがあるので、触れないこと。



N-0682A 改



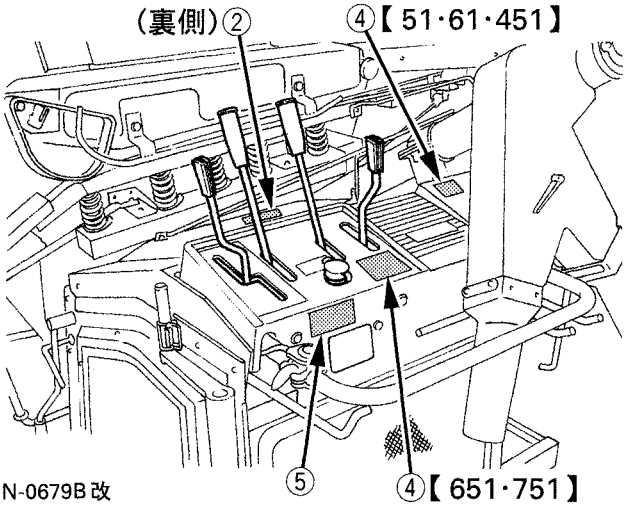
N-0681B 改

④品番　56421-5223-1
【51・61】

⚠ 警　告
火気厳禁
・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること
ガ ソ リ ン

④品番　52166-2575-1
【451・651・751】

⚠ 注　意
火気厳禁
・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること
ディーゼル軽油



N-0679B 改

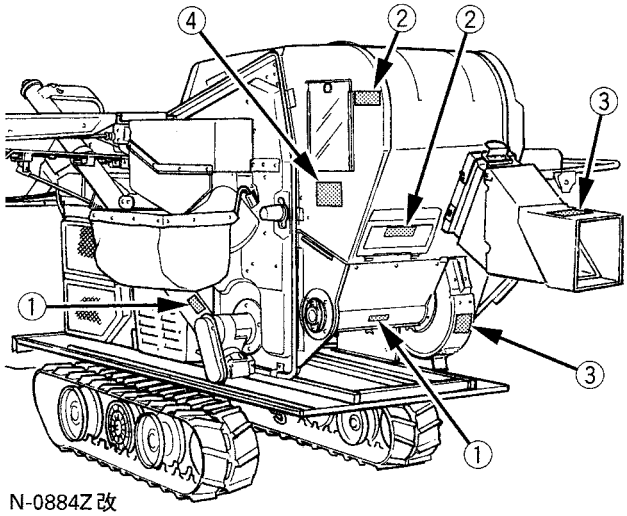
⑤品番　5C000-5219-1

⚠ 注　意
エンジンを始動するときは、シャトルシフトレバーを「中立」にし、脱こくクラッチを「切」にすること。

⚠ 安全に作業するために

①品番　53981-6434-1

⚠ 注意	掃　除　口 中に回転物がありケガをするので、 清掃時はエンジンを必ず止めること。 清掃後はフタを必ず閉じること。



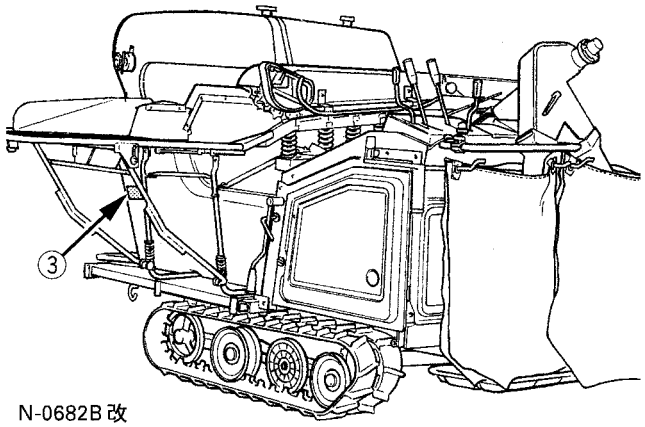
N-0884Z改

②品番　53981-6432-1

⚠ 注　意
中に回転物がありケガをするので、 点検・調整時はエンジンを必ず止めること。 点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

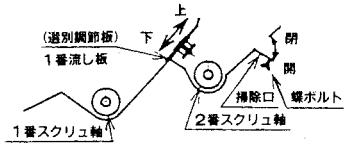
③品番　5K900-6223-1

⚠ 注　意
中に回転物がありケガをする おそれがあるので、運転中は 絶対に手を入れないこと。

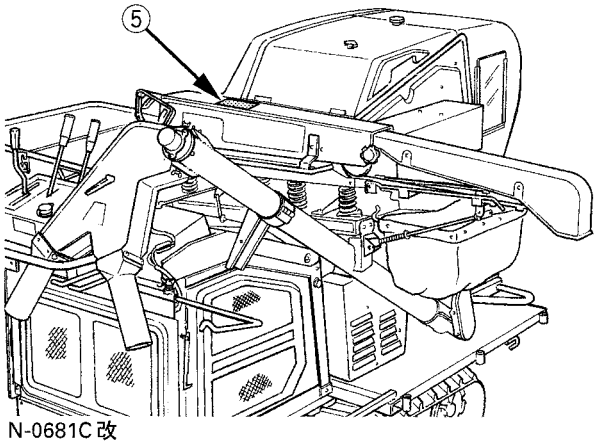


N-0682B改

④品番　53441-6229-2

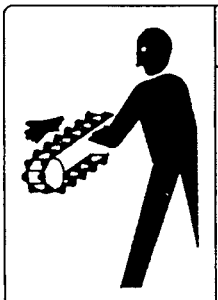
⚠ 注　意
中に回転物がありけがをするので、 1番流し板の調節をするとき必ずエンジンをとめること。
◆調節の仕方 2番掃除口を開き、選別調節板を調節してください。 

上	穀粒の傷みが多い時
中	標準（出荷時）
下	選別が悪く、長ワラが多く入る時



N-0681C改

⑤品番　53441-6219-1



⚠ 警　告
わら等の巻付き・詰り除去のときは、エンジンを必ず止めること。 手扱ぎ作業で、手・腕をチェーンにはさまれてけがをするおそれがあるので、下記を守ること。 1．平坦な所で機械を止めること。 2．手・腕がチェーンに触れないように少しづつ送り込むこと。

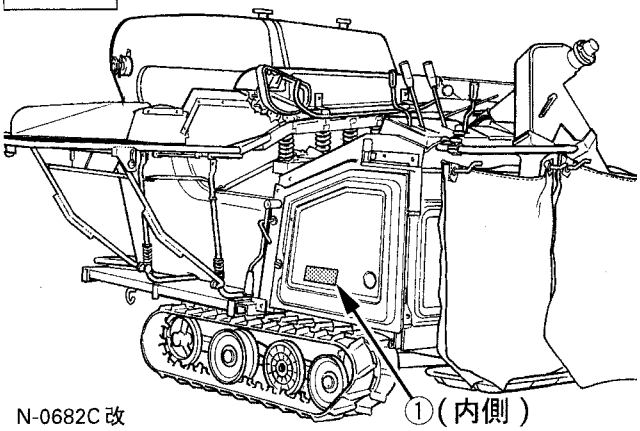
①【セル仕様】

危険！バッテリの取扱いにご注意

取扱いを誤ると引火爆発することがあります。
- ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気は危険です。
- 充電や使用は通風のよいところでおこなって下さい。
- ブースタケーブル使用時には危険のないように取扱い下さい。

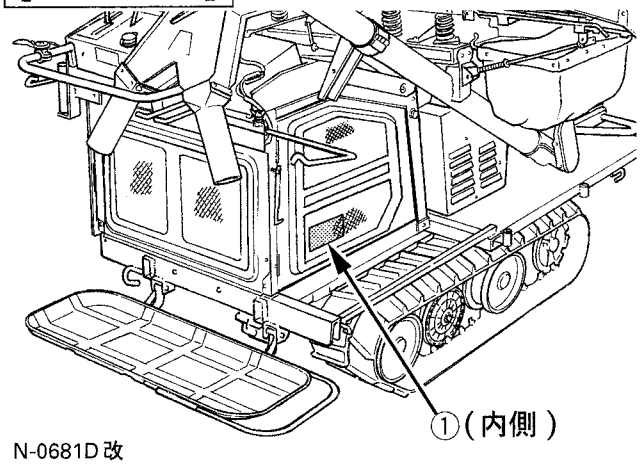
バッテリ液(希硫酸)で失明ややけどをすることがあります。
- 目・皮膚・衣服についたときは直ちに多量の水で洗って下さい。
- なお目に入ったときは水洗い後、医師の治療をうけて下さい。

【451】



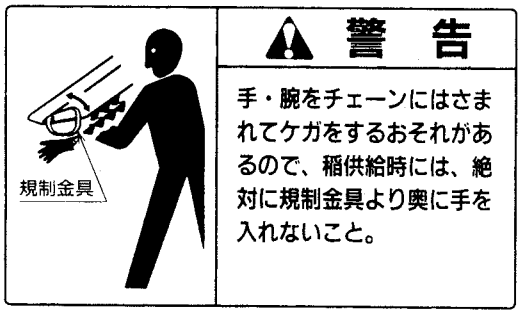
N-0682C 改

【61・651・751】



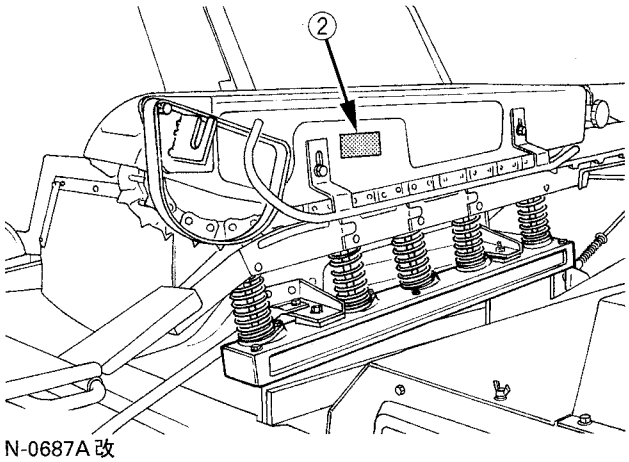
N-0681D 改

②品番　53450-6231-2



⚠ 警　告

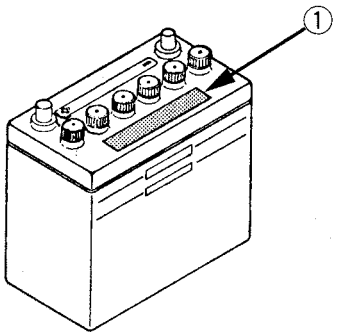
手・腕をチェーンにはさまれてケガをするおそれがあるので、稲供給時には、絶対に規制金具より奥に手を入れないこと。



N-0687A 改

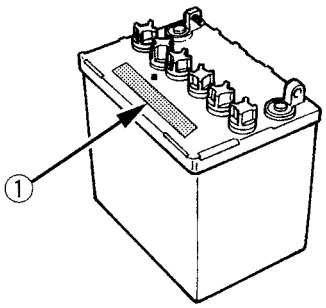
①品番　6A320-5559-1

【451・651・751】



F-1009A 改

【51・61】



P-3561A 改

3. ⚠表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふいてください。
シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。

(2)高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。

(3)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。

(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼ってください。

(5)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいたご購入先にそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際(1)農機型式名・区分と製造番号
(2)とう載機関（エンジン）の型式名と機関（エンジン）番号
をあわせてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，ご購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警 告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

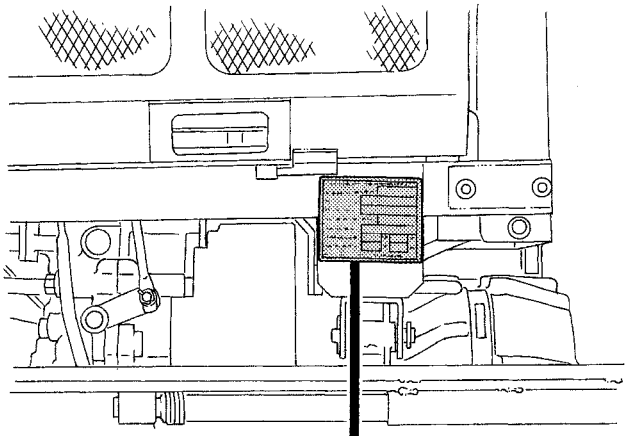
◆安全鑑定番号

クボタRH400(HS-51)…… 917001
クボタRH500(HS-61)…… 917002
クボタRH450(HS-451) …… 917008
クボタRH650(HS-651) …… 917009
クボタRH750(HS-751) …… 917010

■補修用部品の供給年限について

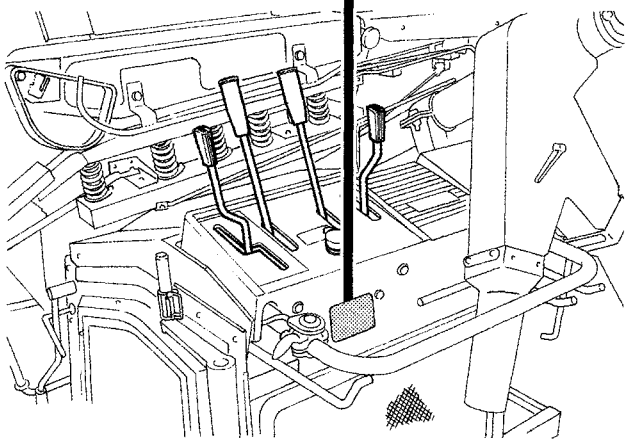
この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後10年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

【51･61･451】



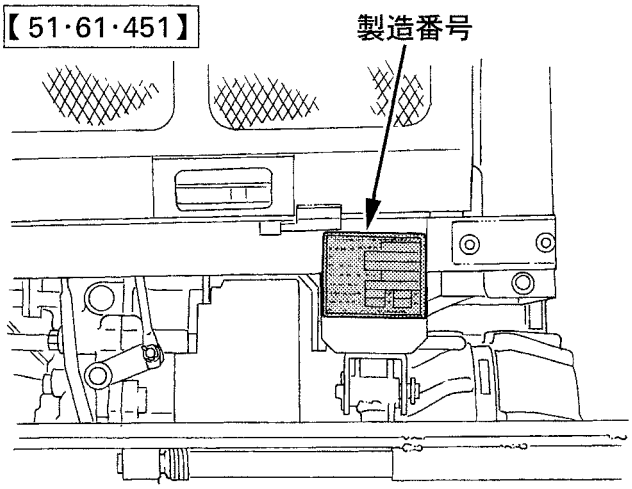
N-0883A

【651･751】



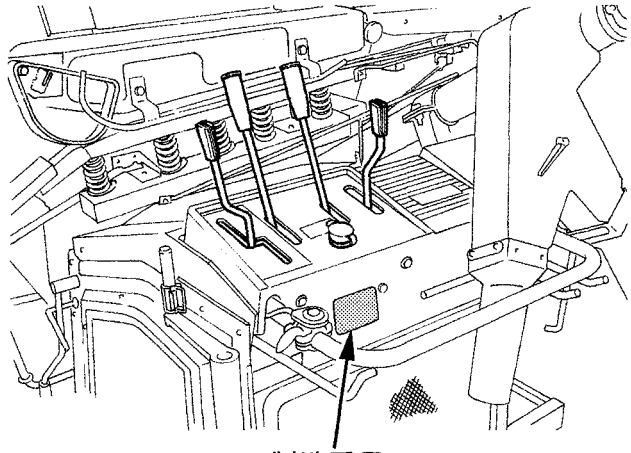
N-0679C

【51･61･451】



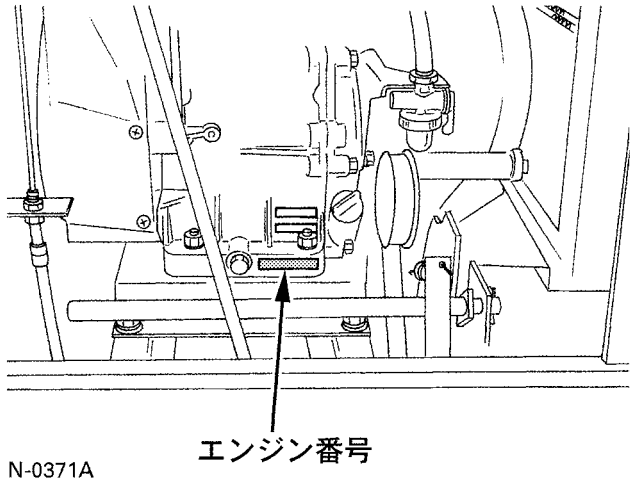
N-0883B

【651･751】



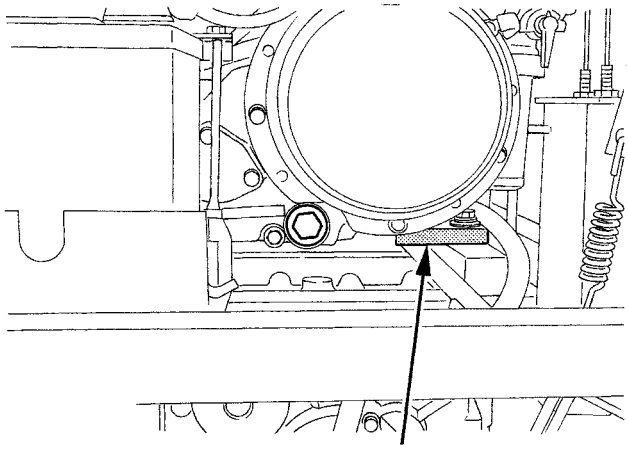
N-0679D

【51･61】



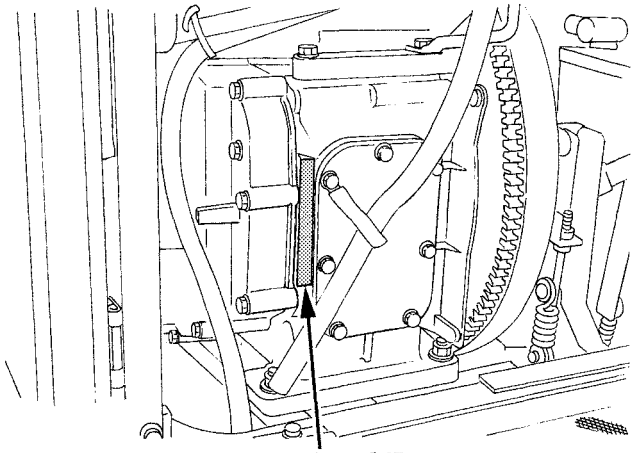
N-0371A

【451】



N-0395A

【651･751】

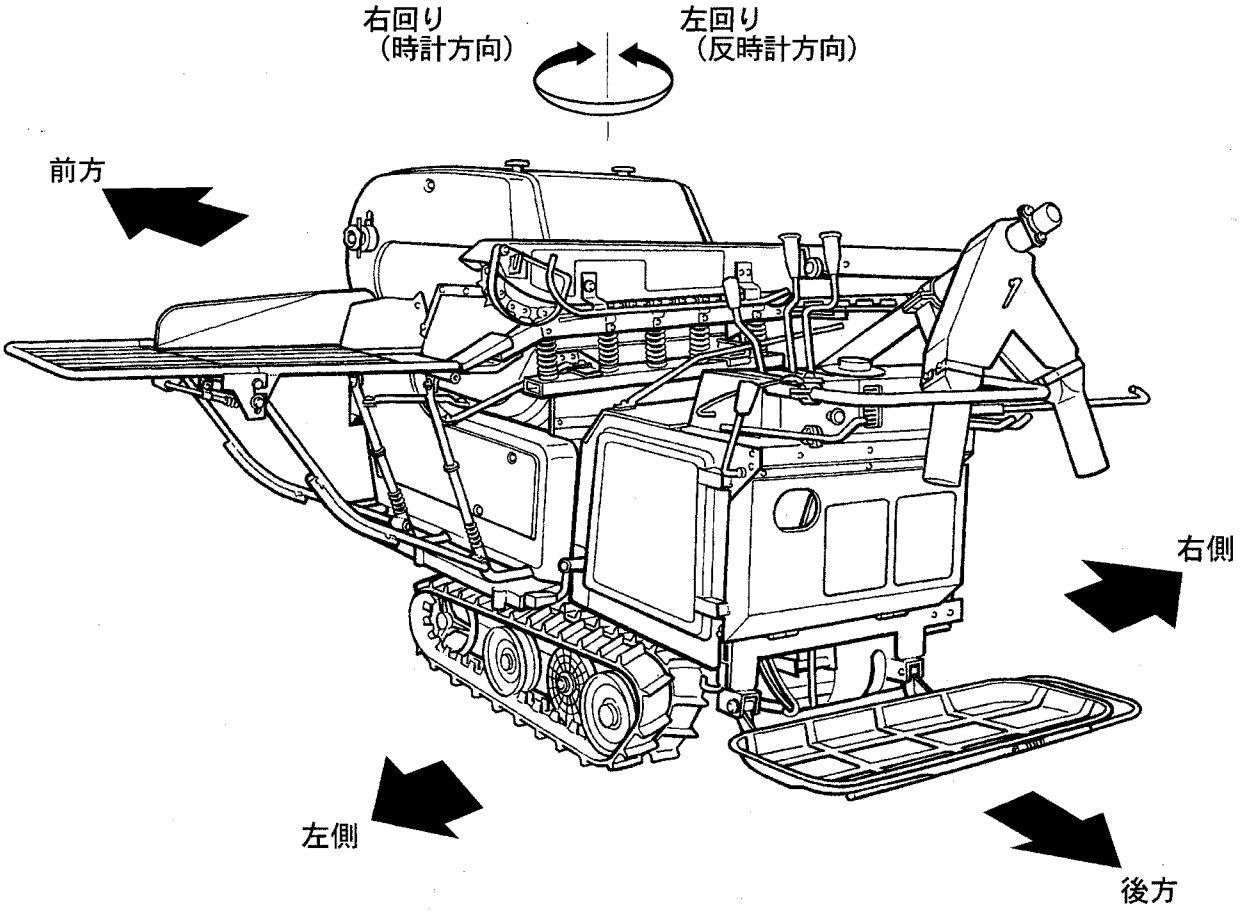


N-0445A

装置の名称と取扱い

機体方向説明

この取扱説明書で使用している**“前後・左右・左回り・右回り”**などの方向は，図示の通りです。

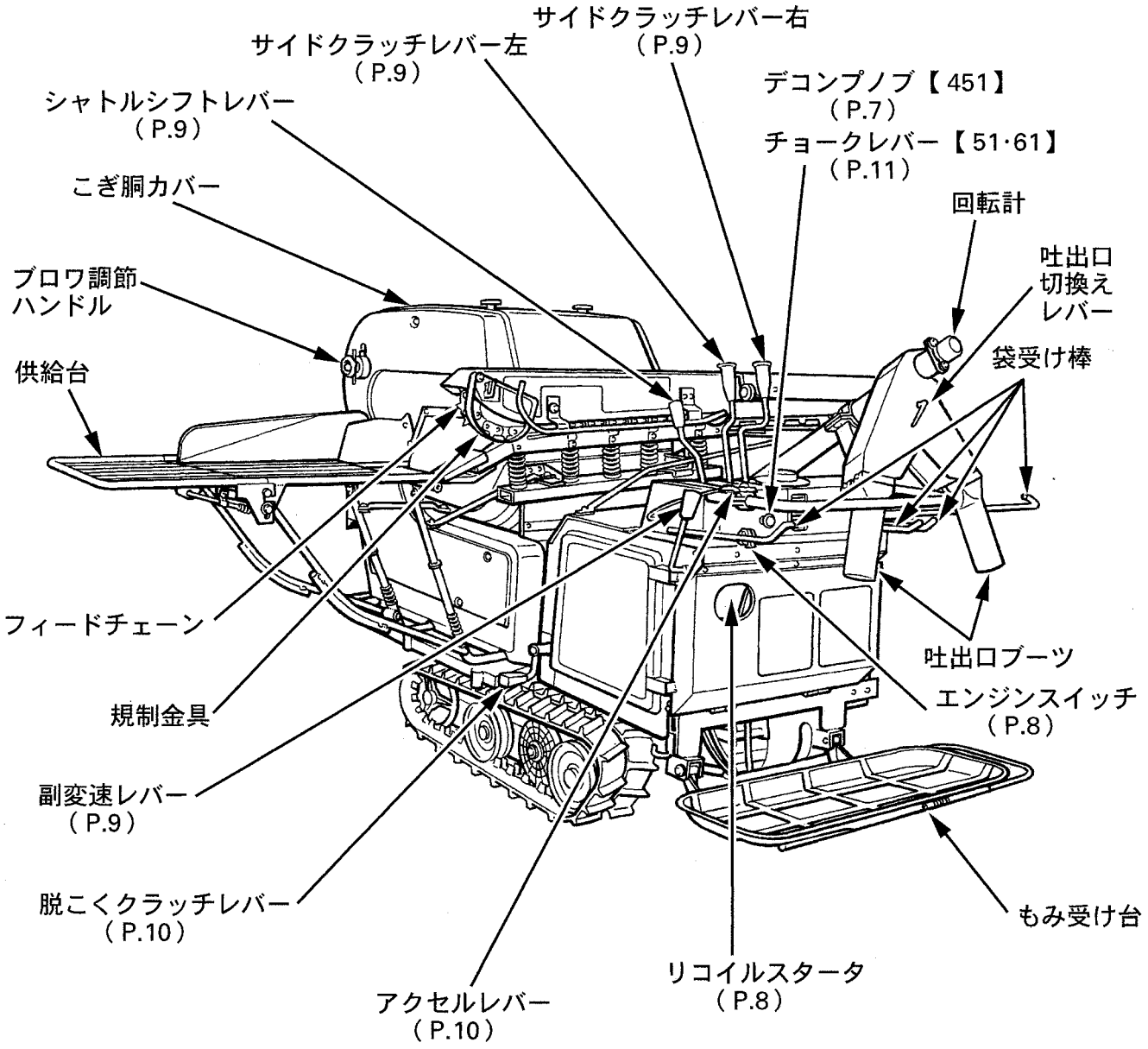


N-0728C

※イラストは 451

装置の名称と各部のはたらき

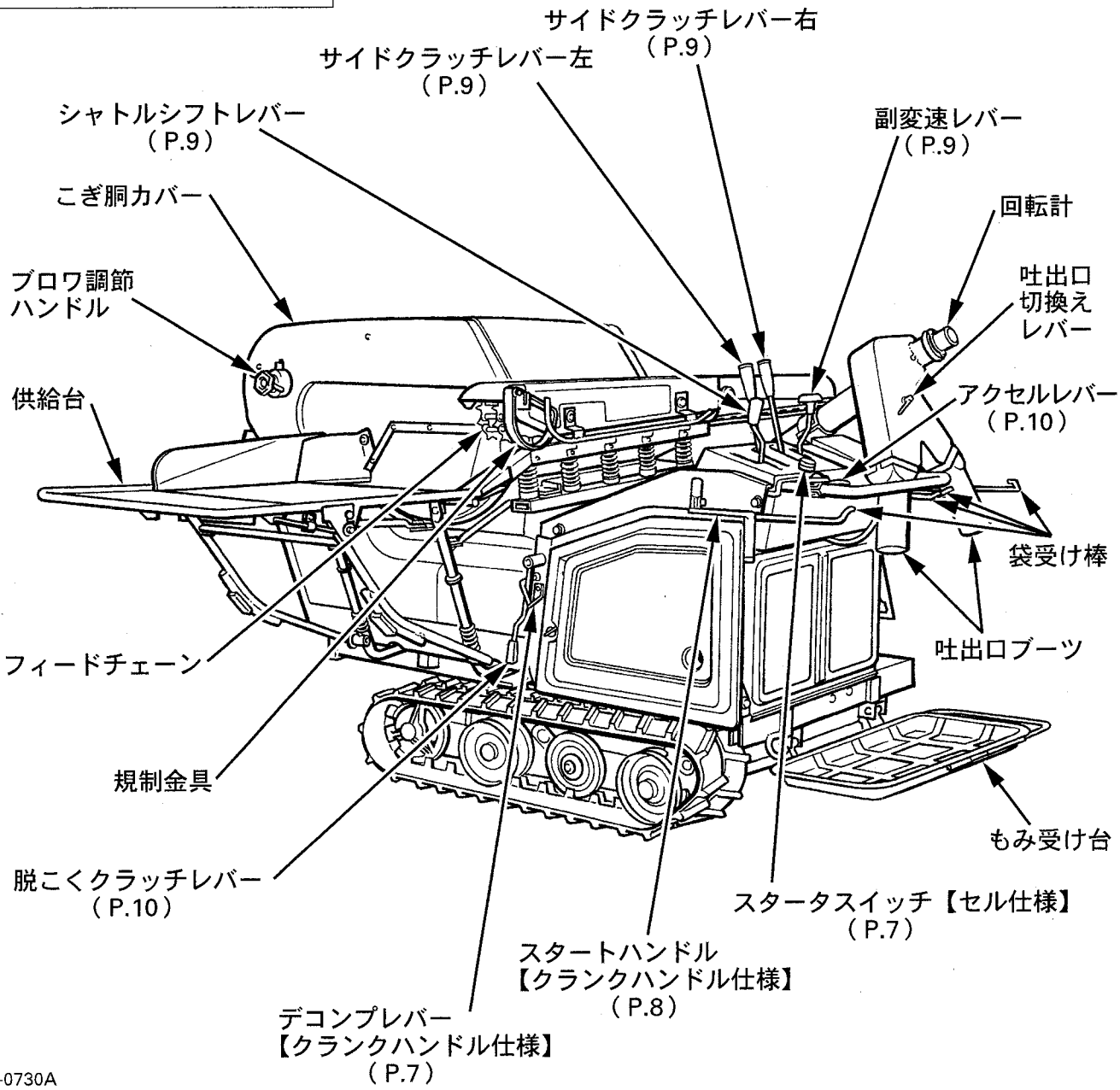
【51･61･451】
【リコイル仕様】



N-0728A

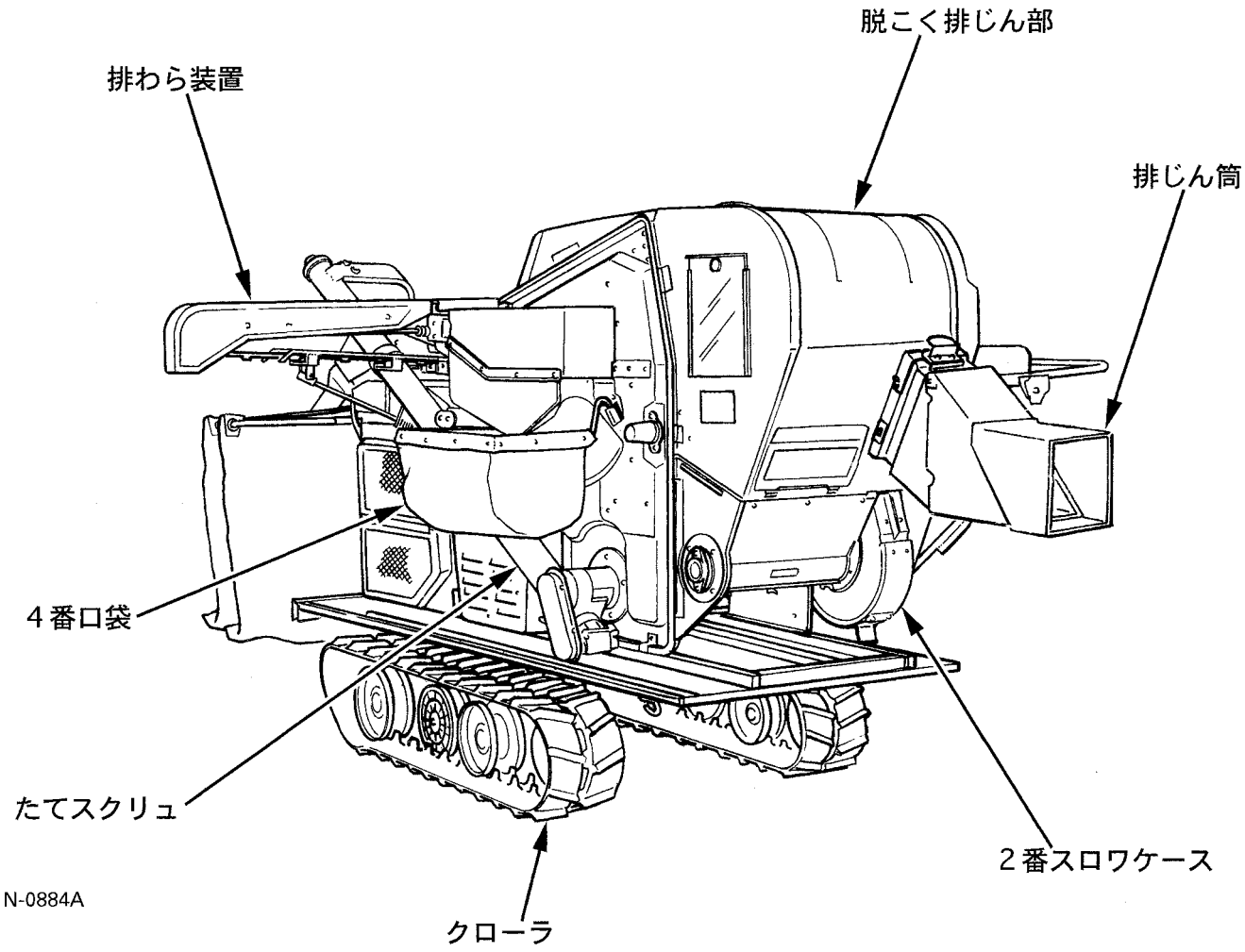
装置の名称と各部のはたらき

【651･751】
【セル・クランクハンドル仕様】



N-0730A

装置の名称と各部のはたらき

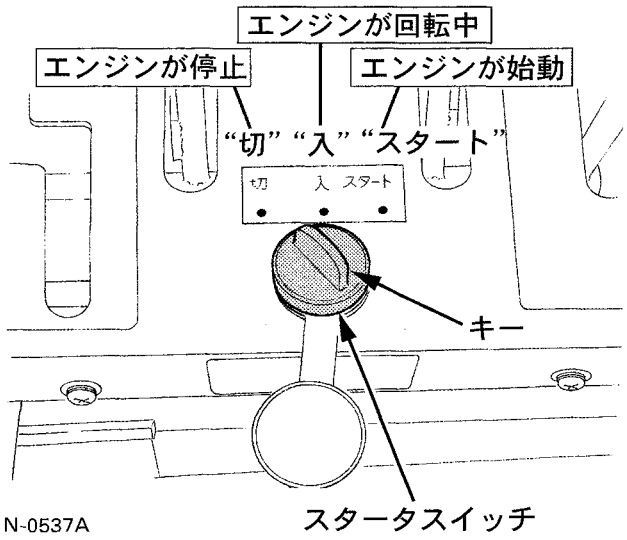


装置の名称と各部のはたらき

■スタータスイッチ【セル仕様】

エンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。

【61･451･651･751】

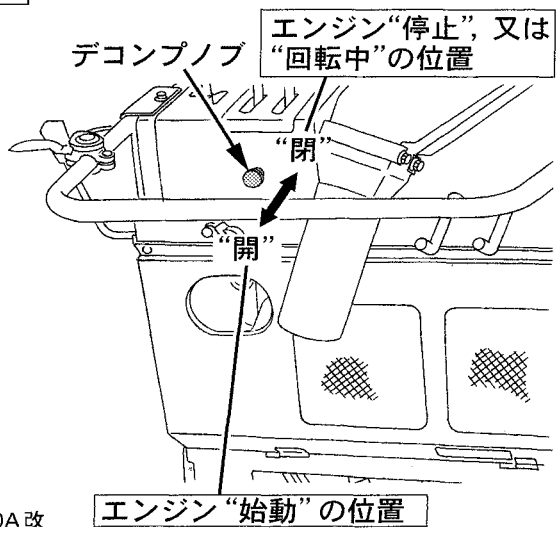


N-0537A

■デコンプノブ【451リコイル仕様】 デコンプレバー【クランクハンドル仕様】

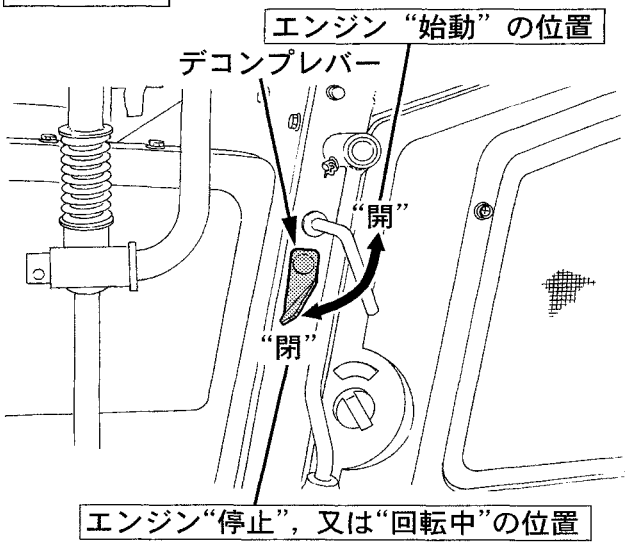
エンジンの始動を容易にする装置です。

【451】



N-0690A 改

【651･751】

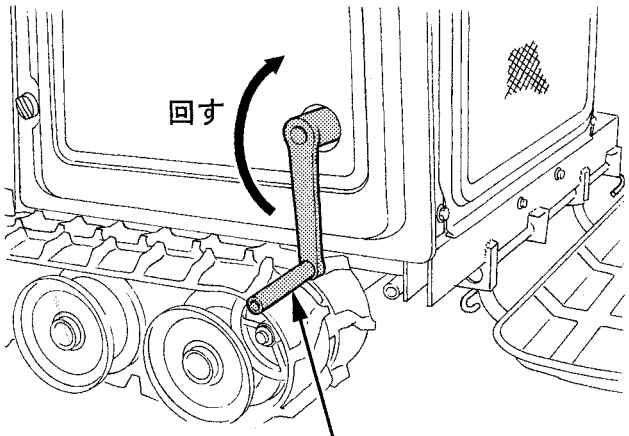


N-0428A

■スタート(クランク)ハンドル【クランクハンドル仕様】

エンジンを始動するハンドルです。

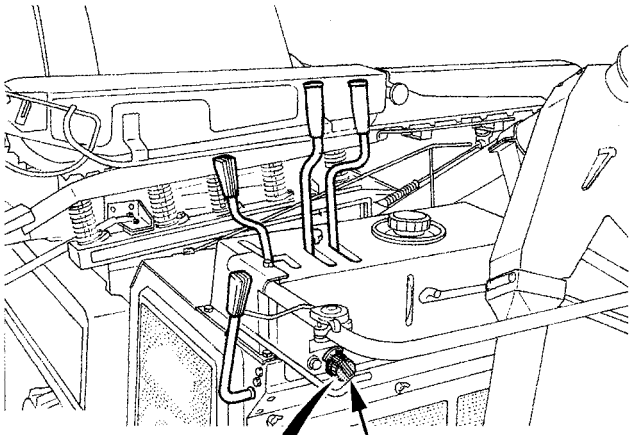
【651・751】



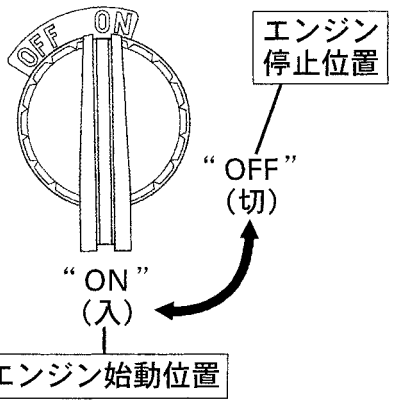
N-0429A

■エンジンスイッチ【リコイル仕様】

【51・61】



N-0688A

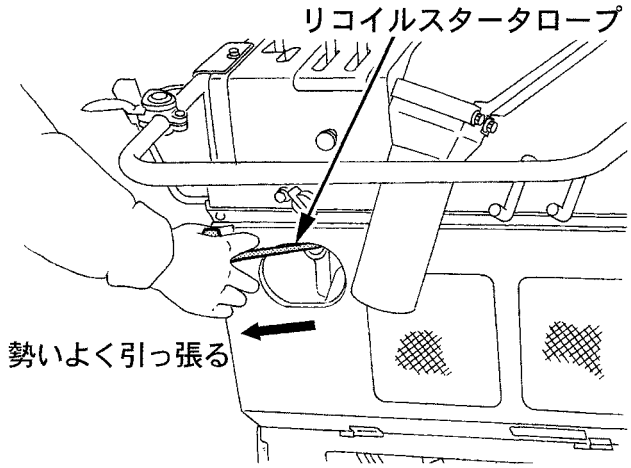


J-1986A

■リコイルスタータ【リコイル仕様】

エンジンを始動するロープです。

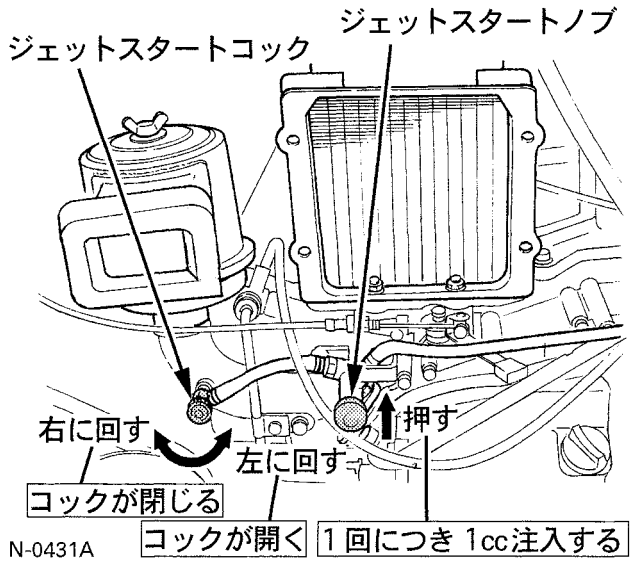
【51・61・451】



N-0690B

■ジェットスタート【451・651・751】

寒冷時にエンジンの始動を容易にする装置です。



N-0431A

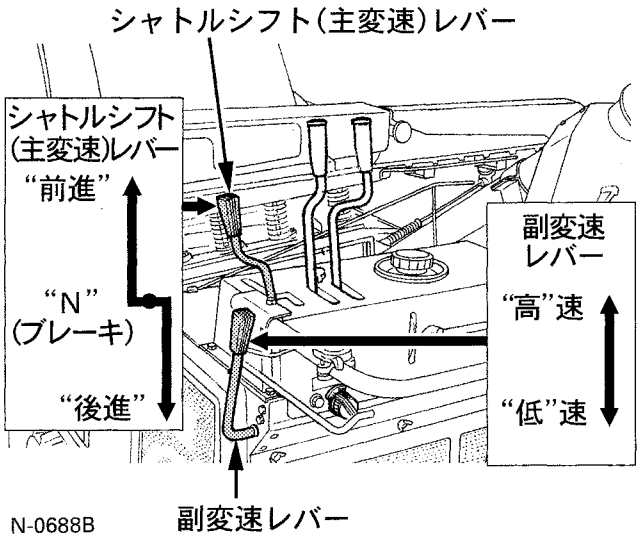
装置の名称と各部のはたらき

■シャトルシフト(主変速)レバー
■副変速レバー

機体の移動走行を行なうレバーです。

51･61･451

前進２段・後進１段の車速が得られます。

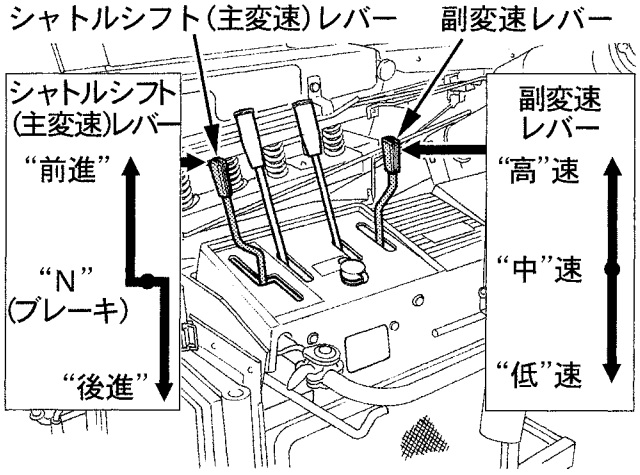


N-0688B

51･61･451

651･751

前進３段・後進１段の車速が得られます。



N-0679E

651･751

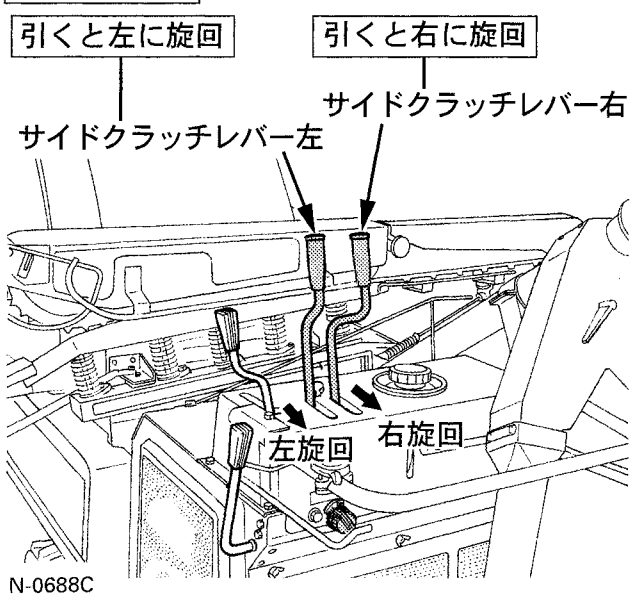
補　足

＊シャトルシフト(主変速)レバーが **“N(中立)”** (ブレーキ)の位置のときに，ブレーキが作動します。

■サイド(操向)クラッチレバー

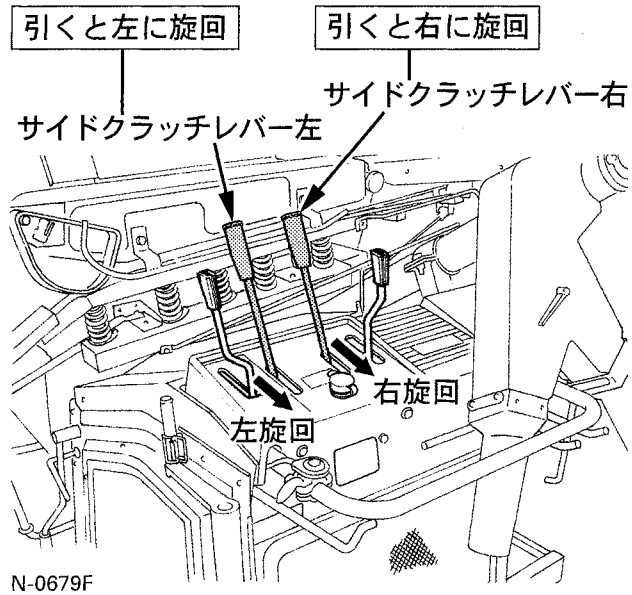
機体の操向操作を行なうレバーです。

【51･61･451】



N-0688C

【651･751】

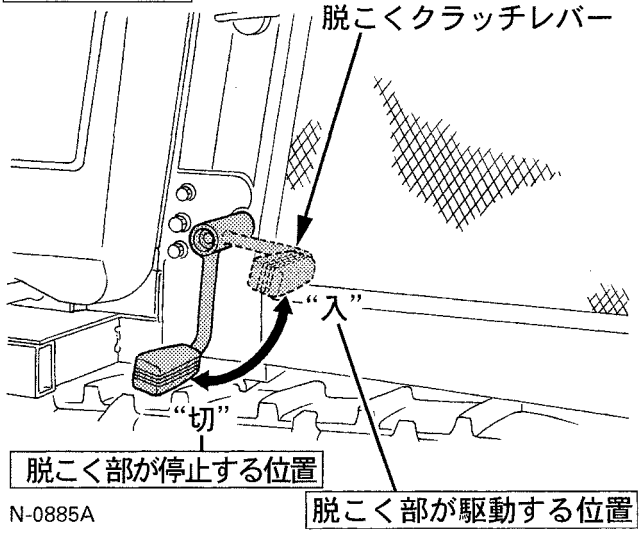


N-0679F

■脱こくクラッチレバー

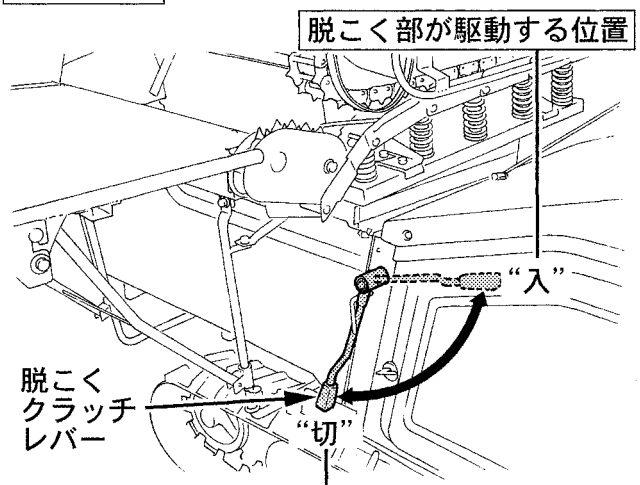
脱こく部の駆動を**“入・切”**するクラッチレバーです。

【51･61･451】



N-0885A

【651･751】

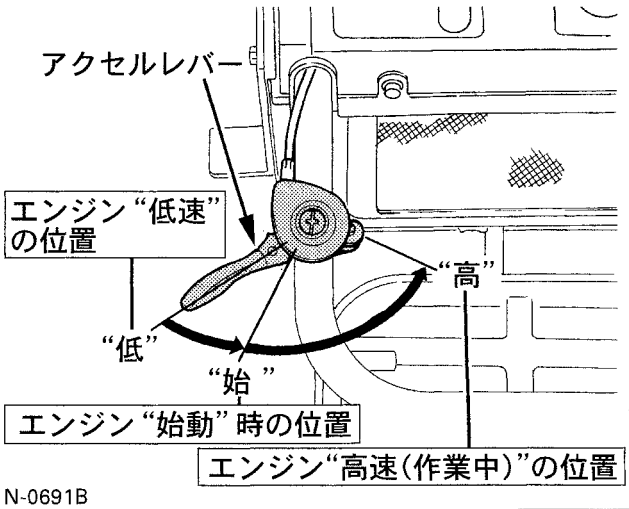


N-0731A

■アクセルレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。

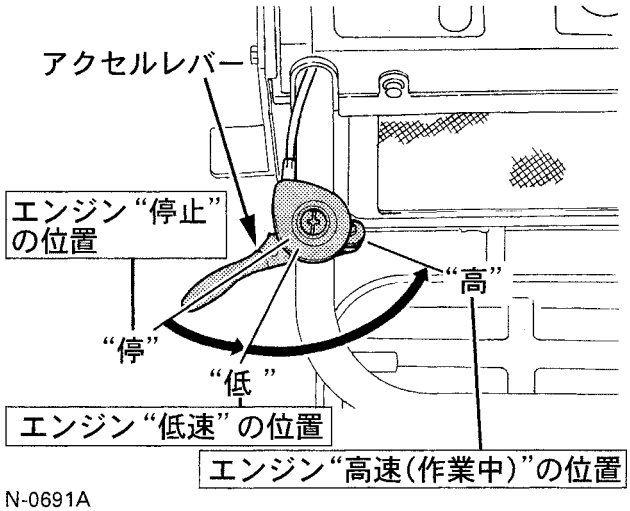
51･61



N-0691B

51･61

451･651･751



N-0691A

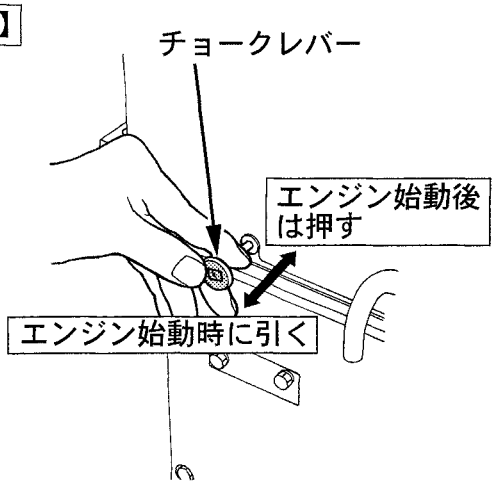
451･651･751

装置の名称と各部のはたらき

■チョークレバー【51·61】

寒冷時にエンジンの始動を容易にするものです。

【51·61】



N-0319A

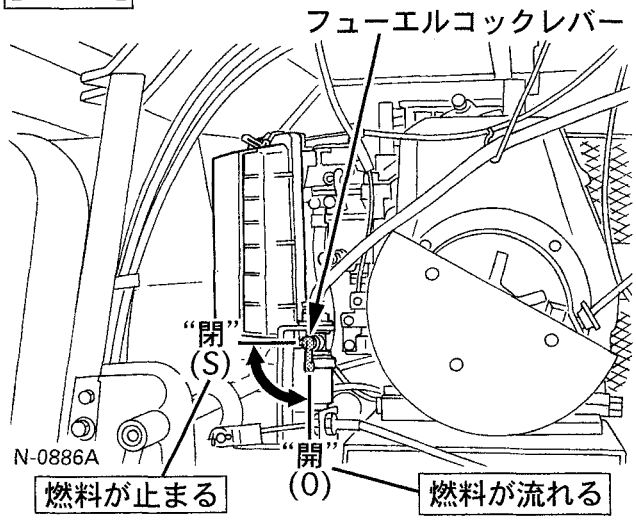
補　足

＊エンジンが暖まっているときは，チョークレバーはそのまま**“押す”**位置で始動してください。

■フューエルコックレバー

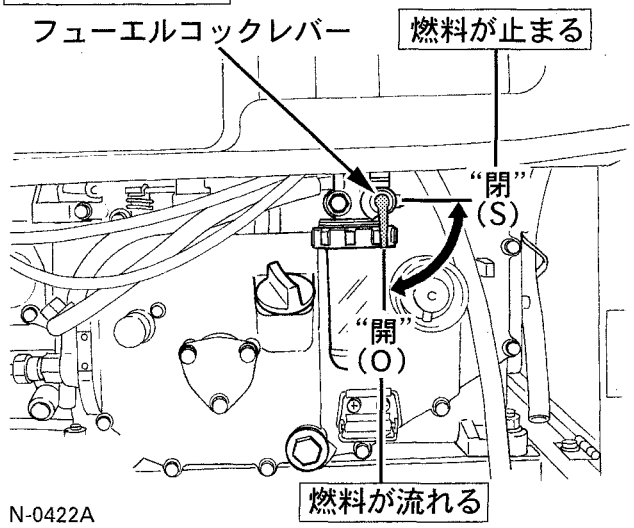
燃料の切換えを行なうレバーです。

【51·61】



N-0886A

【451·651·751】



N-0422A

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は，41ページ参照。）

警　告

＊エンジンは，必ず停止してから行なってください。
＊燃料補給やバッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。
＊取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，必ず取付けてから作業をしてください。

注　意

＊運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊使用前には必ずオイル，燃料を規定量，給油してください。
＊燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊エンジン，マフラ，脱こく機及び結束機のベルトカバー内，バッテリにわらくずがたまっていると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。

日常点検項目

〈ここを〉		〈こうする〉
燃　　料	＊作業に必要な燃料があるか。	＊補給する。 ガソリンエンジン(7.0L) …自動車用レギュラガソリン(無鉛) ディーゼルエンジン(7.0 L) …ディーゼル軽油又はクボタディーゼル重油
エンジン(エンジンケース)オイル	＊オイルゲージの**“上限と下限の間”**に油量があるか。	＊油面がオイルゲージの**“上限と下限の間”**になるまで補給する。
エアクリーナ	＊エレメントにほこりが詰まっていないか。	＊清掃する。
ラジエータ冷却水	＊リザーブタンクの**“FULLとLOWの間”**にあればよい。	＊不足していれば清水を適量補給する。(**FULL以上**に入れないこと)
ワイヤ･チェーン ･プーリ ･テンションアーム	＊錆びの発生や動作異常はないか。 ＊たるみ･摩耗･損傷はないか。	＊注油する。 ＊調整･交換する。
防じんあみ ラジエータフィン	＊防じんあみの目詰まりはないか。 ＊ラジエータフィンの目詰まりはないか。	＊付着しているホコリをブラシなどで,清掃する。 ＊ラジエータフィンは水道水,又は圧縮空気で清掃する。
脱こく排じん部	＊わらくずがたまっていないか。	＊掃除をする。
縦スクリュケース	＊こく粒が多量にたまっていないか。	＊掃除をする。
マフラ回り	＊わらくずがたまっていないか。	＊掃除をする。
クローラ	＊たるみ･摩耗･損傷はないか。	＊調整･交換する。

重　要

燃料・オイル量の点検・補給・交換

＊点検・補給・交換をするときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な燃料・オイル量の点検・補給・交換ができません。

＊使用するエンジンオイル，ミッションオイルは，指定の**“クボタ純オイル”**を必ず使用してください。

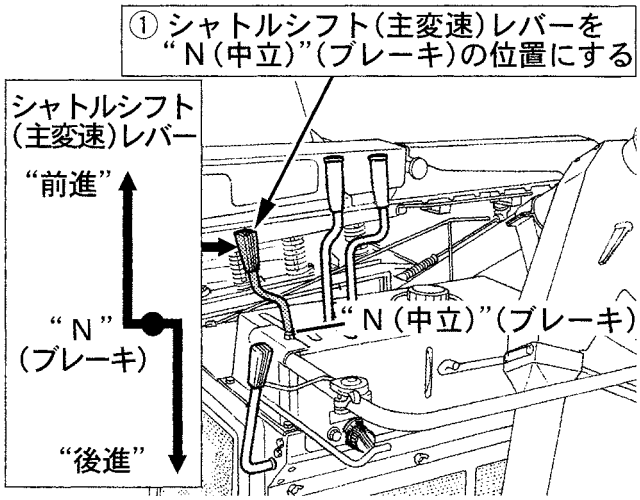
エンジンの始動と停止

エンジンの始動と停止のしかた【51･61】

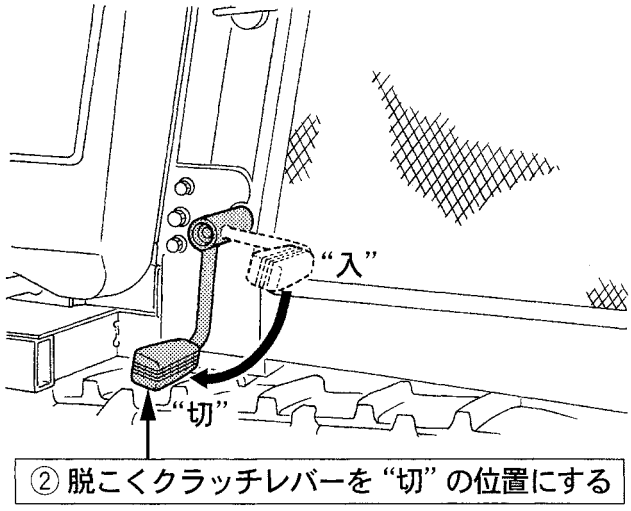
注 意

＊この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。
＊機体各部に貼ってある警告ラベル・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊周囲の人に合図をし，始動操作は，運転位置で必ず行なってください。
＊脱こくクラッチレバーを“切”の位置にし，シャトルシフト(主変速)レバーを“N(中立)”(ブレーキ)の位置にして，始動してください。
＊エンジン排気ガスによる，排気ガス中毒をさけるため，換気が悪い納屋や倉庫でエンジンを掛けないでください。

■始動のしかた



N-0688D



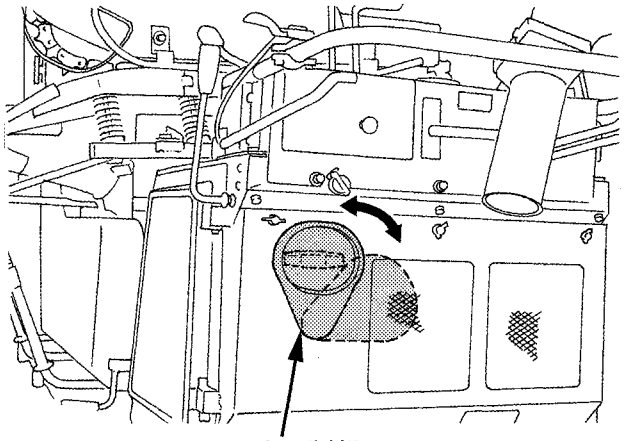
N-0885B

エンジンの始動と停止のしかた【51･61】

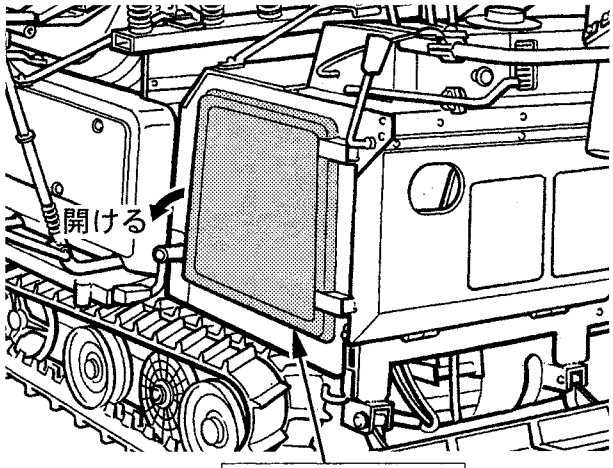
重 要

＊脱こくクラッチレバーは必ず **“切”** 位置にしてください。

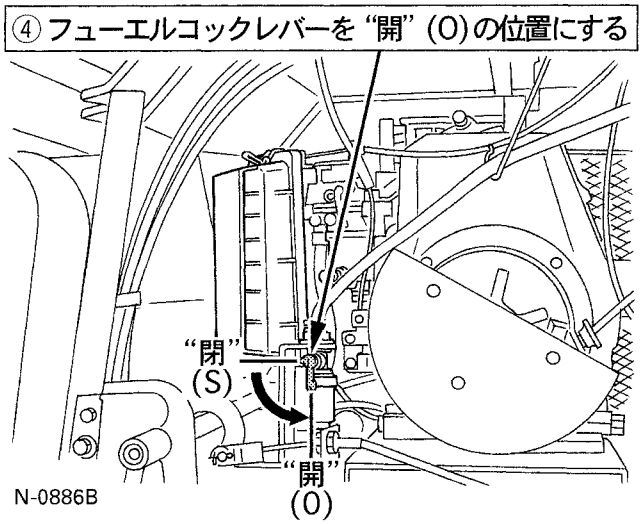
＊シャトルシフト(主変速)レバーが **“N(中立)”** (ブレーキ)の位置で脱こくクラッチレバーが **“切”** の位置にない場合は，エンジン始動安全装置の **“けん制板”** が働いて，エンジンを始動することができません。**【リコイル仕様】**



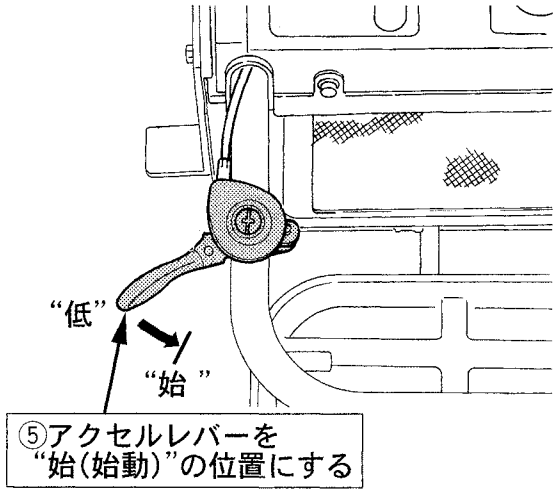
N-0720A



N-0728B



N-0886B



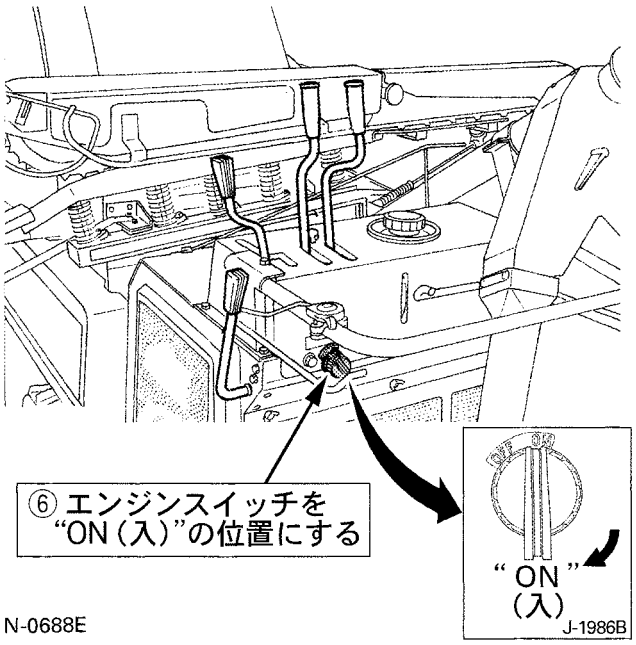
N-0691C

エンジンの始動と停止のしかた【51・61】

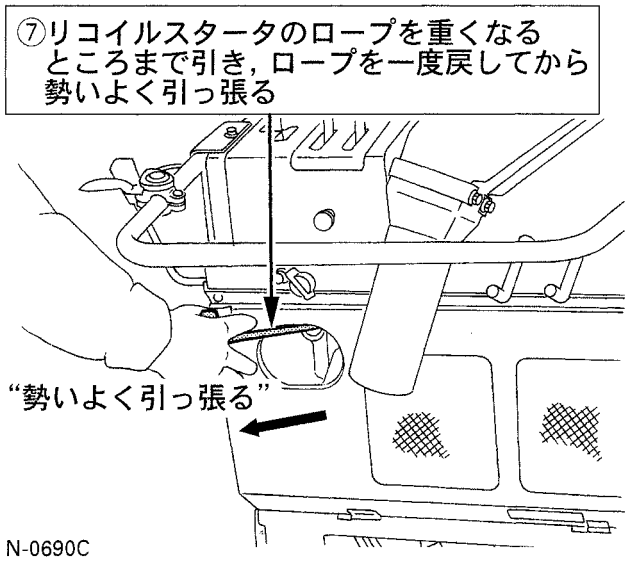
リコイル仕様

注 意

＊リコイルを引っ張る方向に人がいないか，また突起物や障害物がないかを確かめて始動してください。



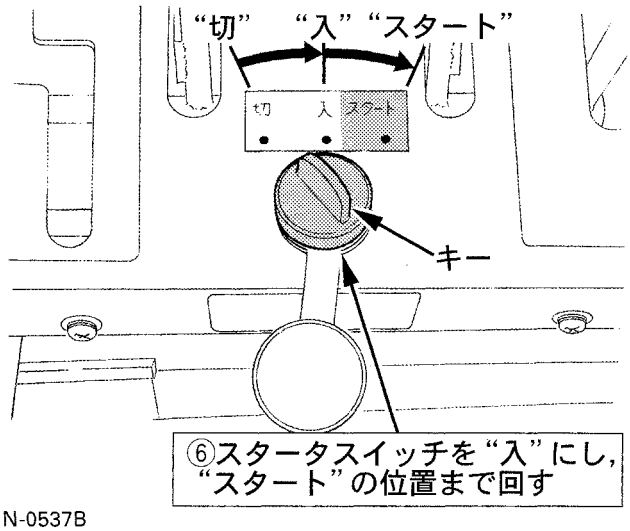
N-0688E



N-0690C

リコイル仕様

セル仕様



N-0537B

補 足

＊エンジン始動後，キーから手を放してください。

重 要

＊スタータスイッチを**“スタート”**にし，10秒たっても始動しないときは，いったんスイッチを切って，30秒ほど休止してから再スタートしてください。
15秒以上の使用は，故障の原因になります。

セル仕様

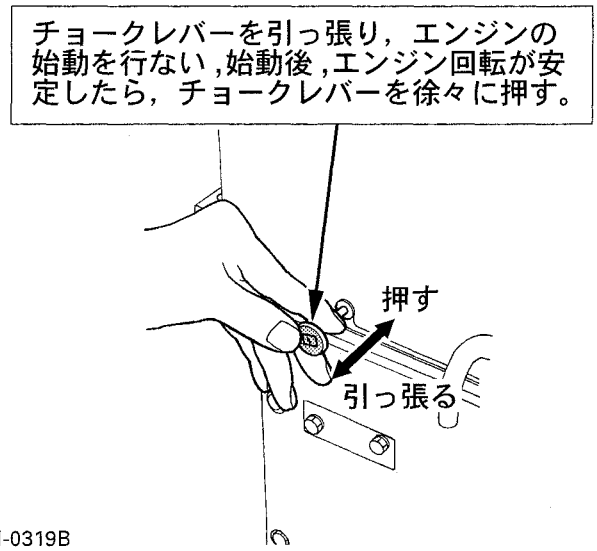
補 足

＊エンジンが始動すれば，約３分間負荷をかけないで暖機運転し，その後作業に入ってください。
＊エンジンの回転速度を上げるときに，アクセルレバーはゆっくりと操作してください。

エンジンの始動と停止のしかた【51･61】

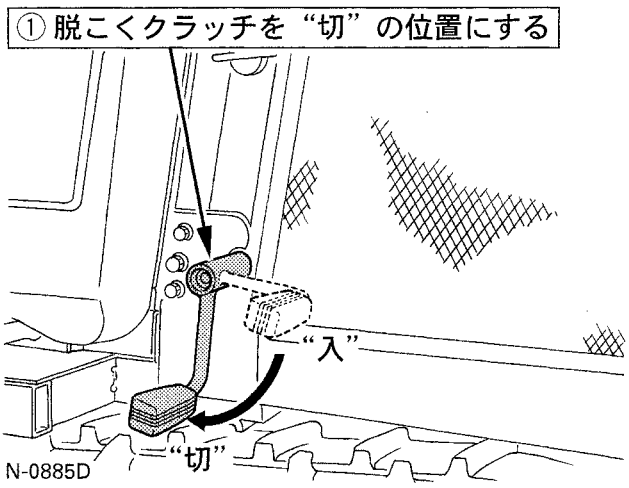
◆寒冷時の始動のしかた

寒冷時にエンジンの始動が困難なときは，チョークレバーを使用してください。

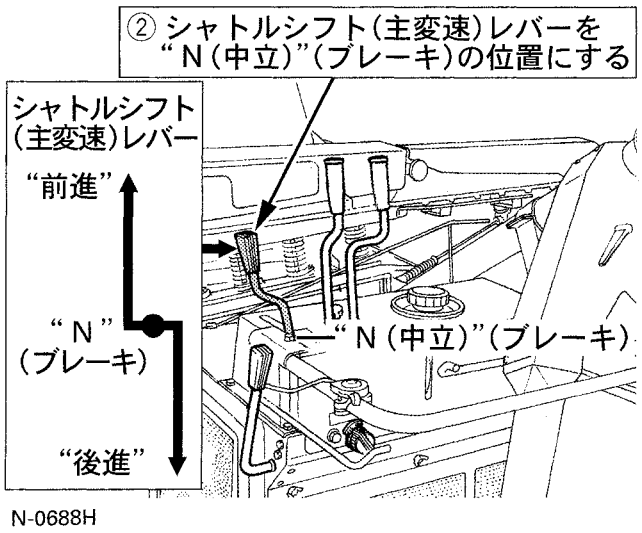


N-0319B

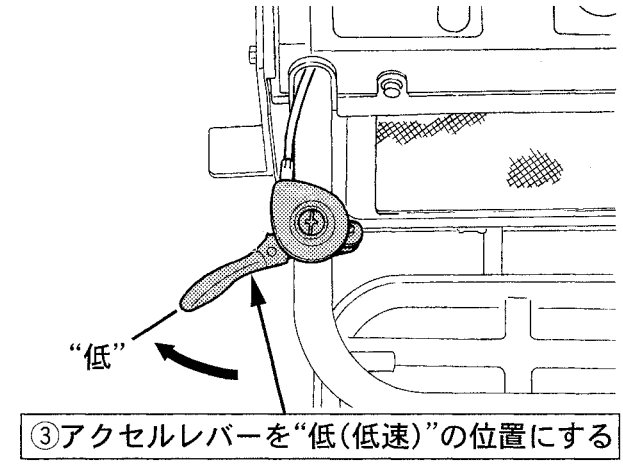
■停止のしかた



N-0885D



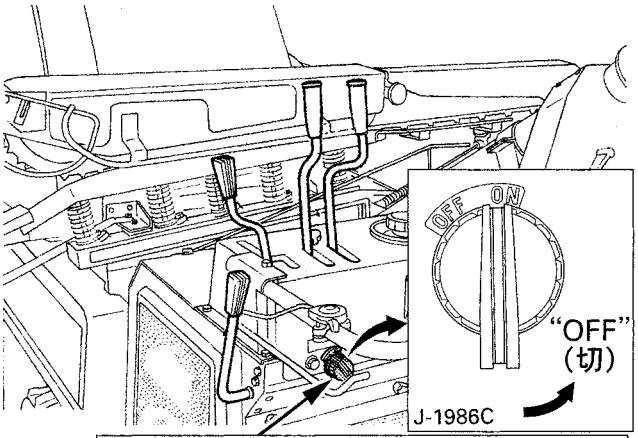
N-0688H



N-0691F

エンジンの始動と停止のしかた【51·61】

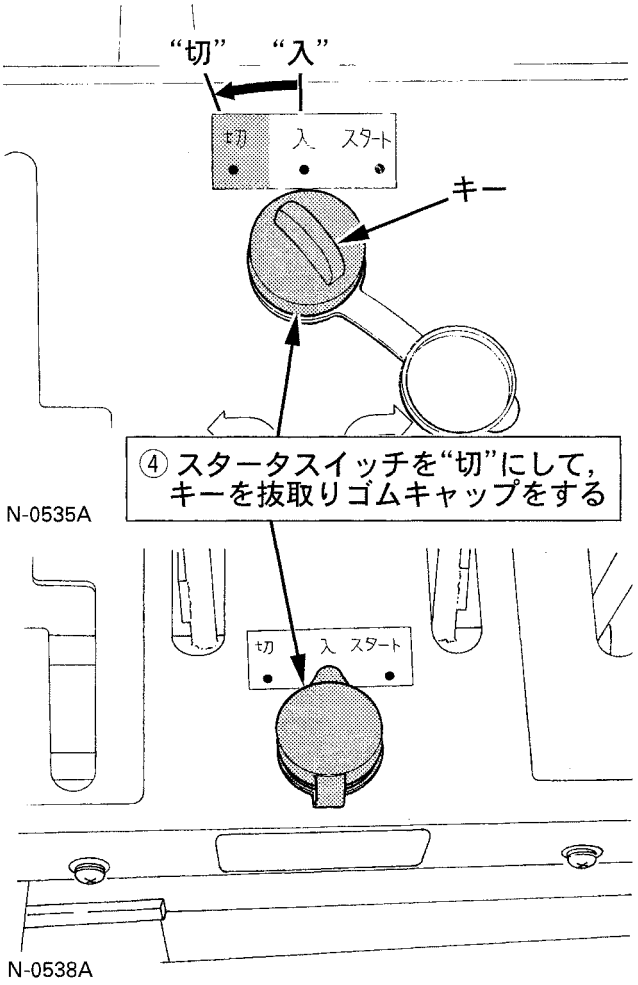
リコイル仕様



N-0688I

リコイル仕様

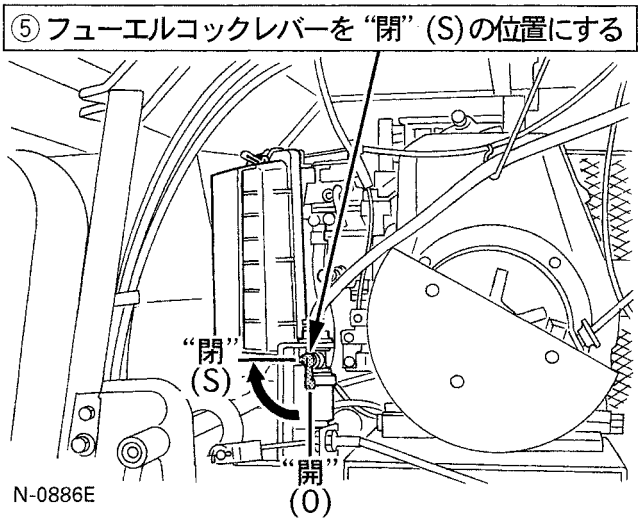
セル仕様



N-0535A

N-0538A

セル仕様



N-0886E

重 要

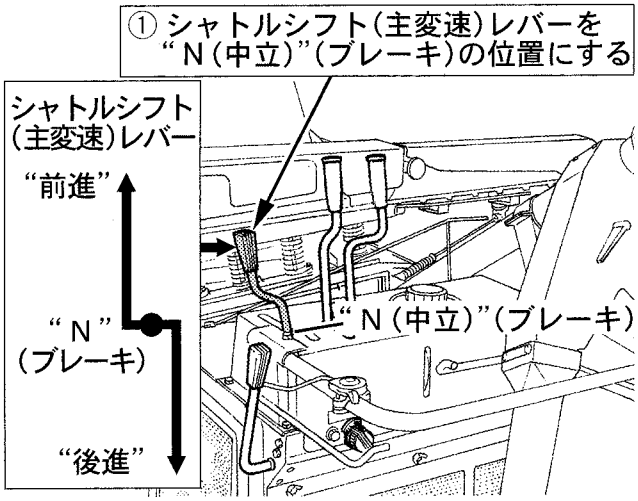
＊高速回転のままでエンジンを停止しないでください。

＊エンジン停止後は，必ずスタータスイッチを **"切"** にしてください。**"入"** で放置すると電流が流れた状態のままとなり，**"バッテリ上がり"** の原因となります。【セル仕様】

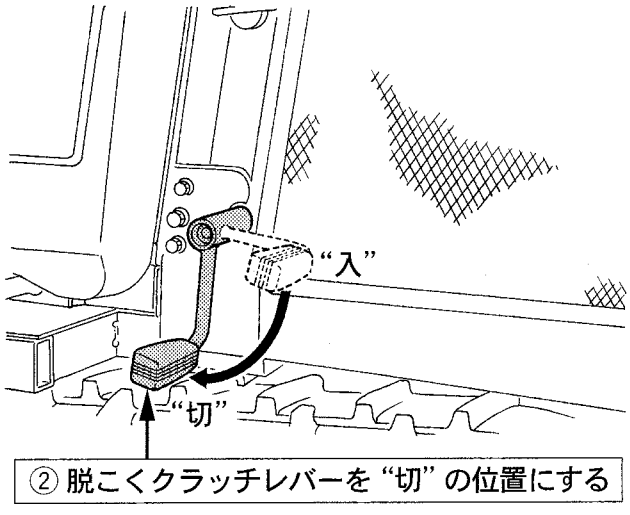
エンジンの始動と停止のしかた【451·651·751】

■始動のしかた

451



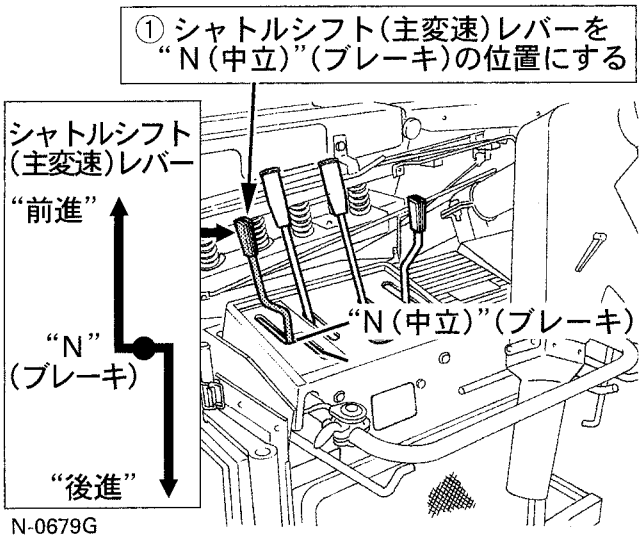
N-0688D



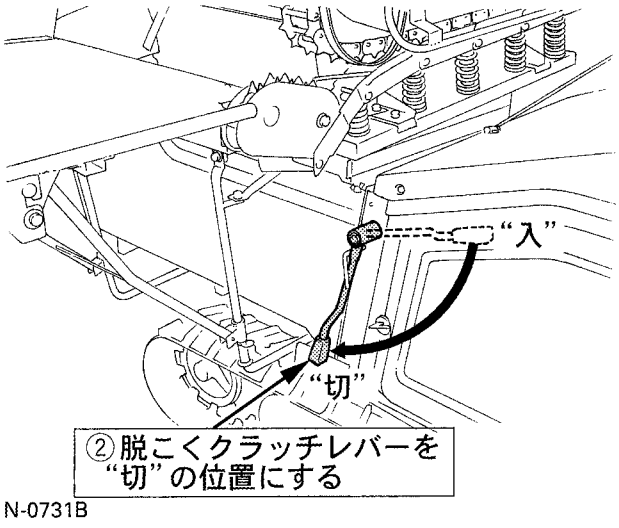
N-0885B

451

651·751



N-0679G



N-0731B

651·751

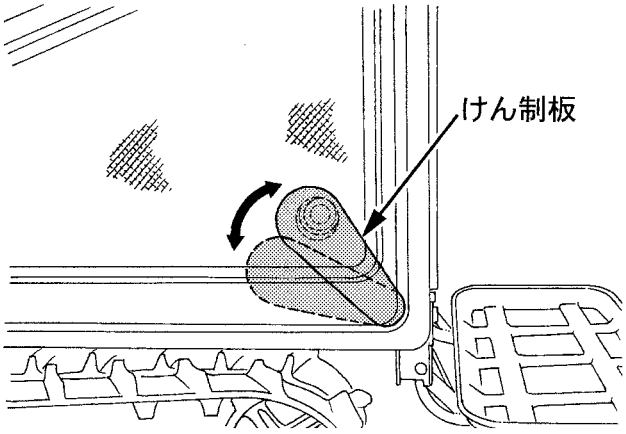
エンジンの始動と停止のしかた【451・651・751】

重 要

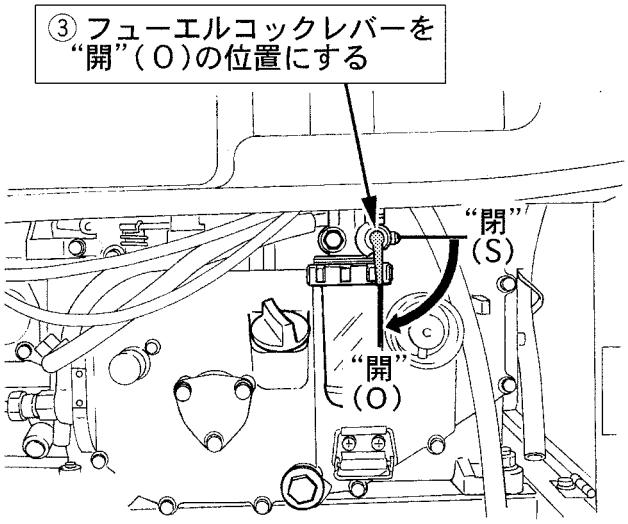
＊脱こくクラッチレバーは必ず **“切”** 位置にしてください。

＊シャトルシフト(主変速)レバーが **“N(中立)”** (ブレーキ)の位置で，脱こくクラッチレバーが **“切”** の位置にない場合は，エンジン始動安全装置の **“けん制板”** が働いて，エンジンを始動することができません。

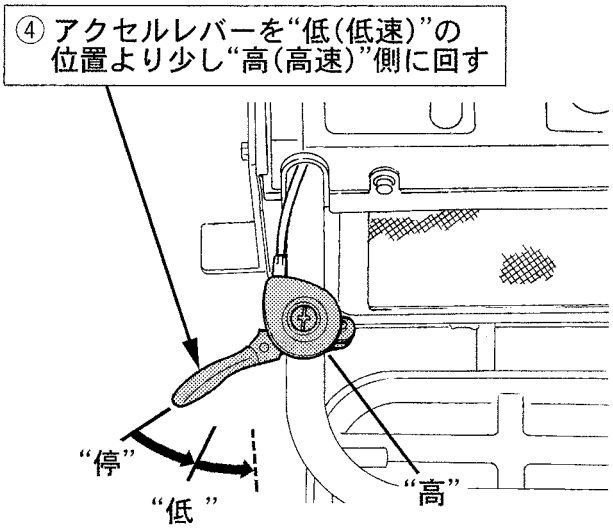
【651・751クランクハンドル仕様】



N-0721A



N-0422B



N-0691D

クランクハンドル仕様【651・751】

注 意

＊スタートハンドルを回す方向に人がいないか，突起物，障害物がないかを確かめてから始動してください。

＊クランク軸のピンにスタートハンドル爪を確実に引っ掛けてください。

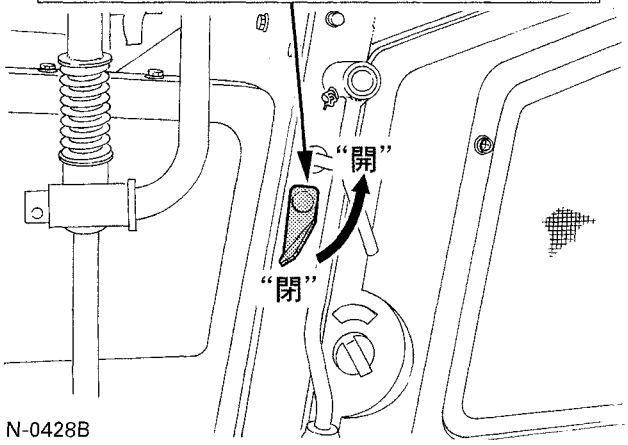
＊圧縮位置は上と下にありますが，下側にあわせて圧縮を越してください。上側にあわせると手首を痛めたり，逆転するおそれがあります。

＊デコンプを放すタイミングは，コン！コン！と噴射音が聞こえたら放してください。燃料が噴射する音です。

＊エンジンが始動し始めると，ハンドルは軸から自然に抜けますので，ハンドルから手を絶対に放さないでください。

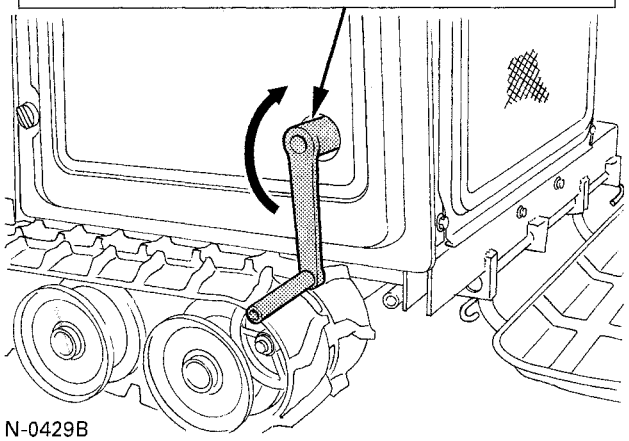
エンジンの始動と停止のしかた【451・651・751】

⑤ 左手でデコンプレバーを“開”にする



N-0428B

⑥ 右手でスタートハンドルをスタート軸に入れ，４～５回空回しして，デコンプレバーを放し，ハンドルが勢いよく圧縮位置を越せば始動する



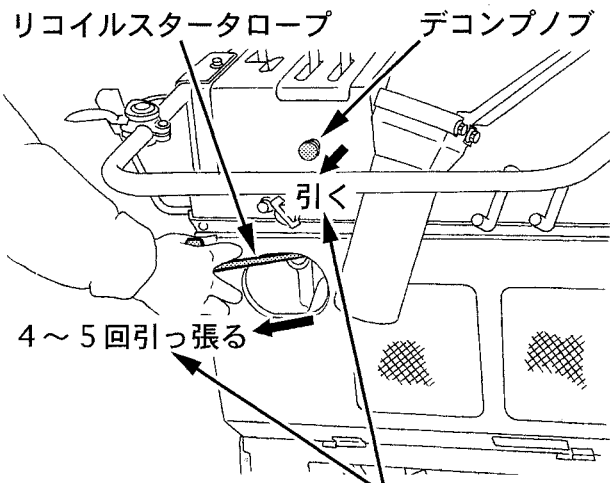
N-0429B

クランクハンドル仕様【651・751】

リコイル仕様【451】

注 意

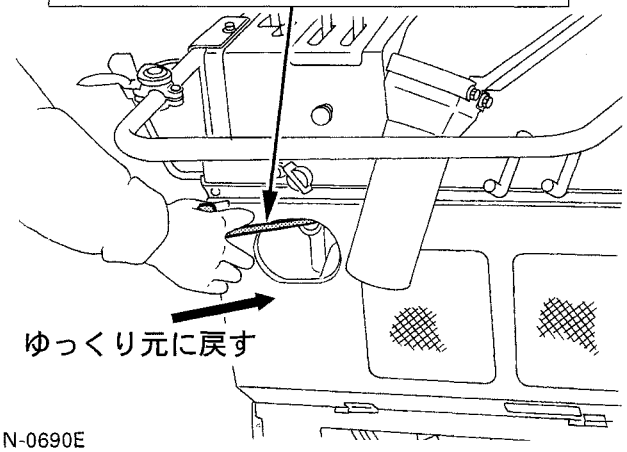
＊リコイルを引っ張る方向に人がいないか，突起物，障害物がないかを確かめて始動してください。



⑤ デコンプノブを手で引っ張った状態で，スタータロープを４～５回引っ張る

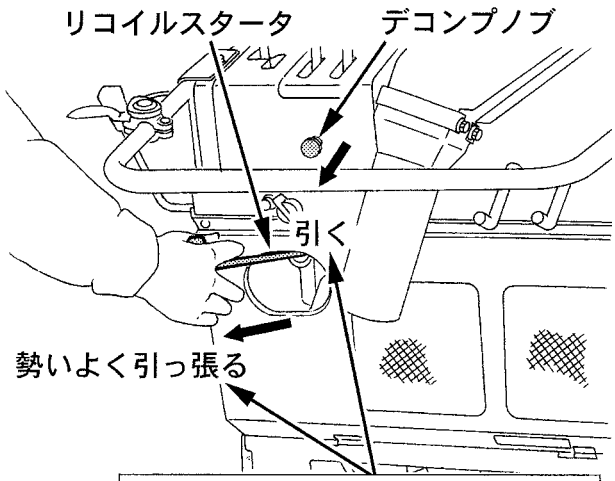
N-0690D

⑥ リコイルスタータのロープを引っ張り，圧縮の位置を確認後ロープをゆっくり元に戻す



N-0690E

エンジンの始動と停止のしかた【451・651・751】

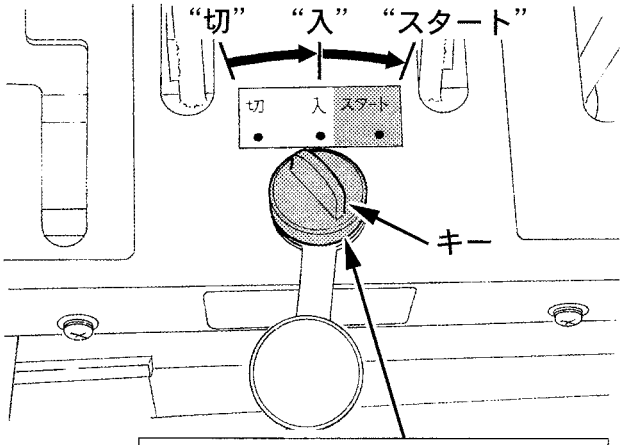


⑦ デコンプノブを引っ張り，リコイルスタータのロープを勢いよく引っ張る。デコンプノブは自動的に戻ります。

N-0690F

リコイル仕様【451】

セル仕様



⑤ スタータスイッチを“入”にし“スタート”の位置まで回す

N-0537D

重 要

＊スタータスイッチを**“スタート”**にし，10秒たっても始動しないときは，いったんスイッチを切って，30秒ほど休止してから再スタートしてください。
15秒以上の使用は，故障の原因になります。

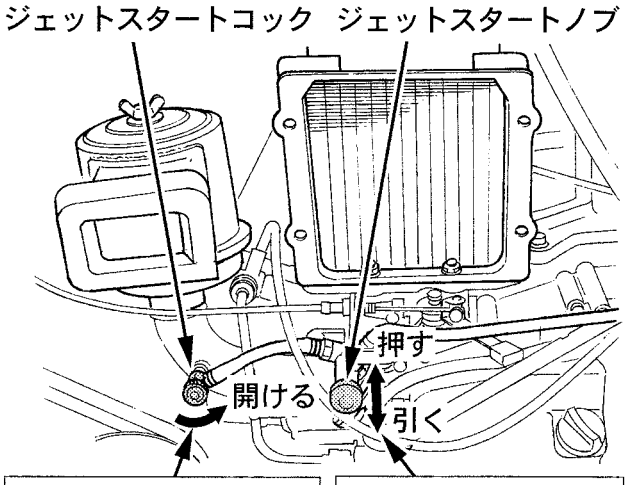
セル仕様

補 足

＊エンジンが始動すれば，約３分間負荷をかけないで暖機運転し，その後作業に入ってください。
＊エンジンの回転速度を上げるときは，アクセルレバーはゆっくりと操作してください。

◆寒冷時の始動のしかた

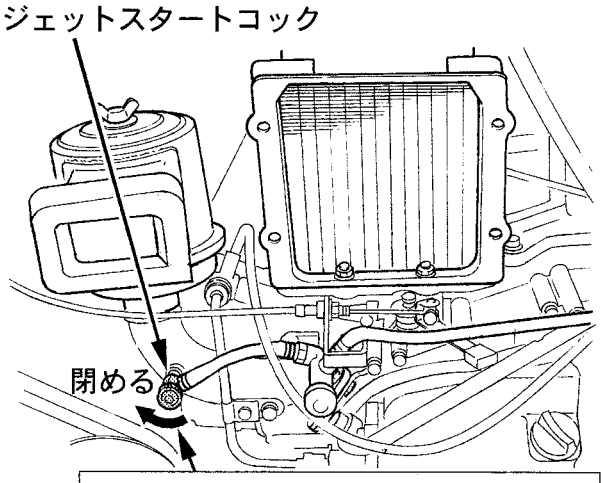
寒冷時にエンジンの始動が困難なときは，ジェットスタートノブを使用してください。



① ジェットスタートコックを左に回して，コックを開ける。

② ジェットスタートノブを４～５回引き押しする。（１回につき1cc注入されます）

N-0431B



③ 燃料注入が終わればコックを元どおりに完全に閉める。コックを開けていると，運転中，燃料を吸込むおそれがあります。

N-0431C

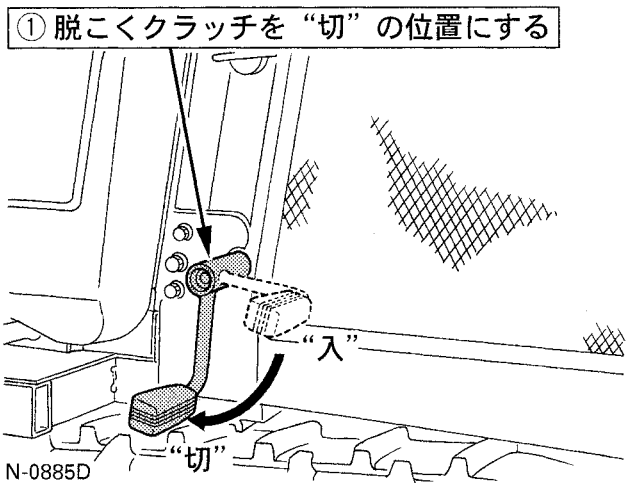
エンジンの始動と停止のしかた【451・651・751】

重　要

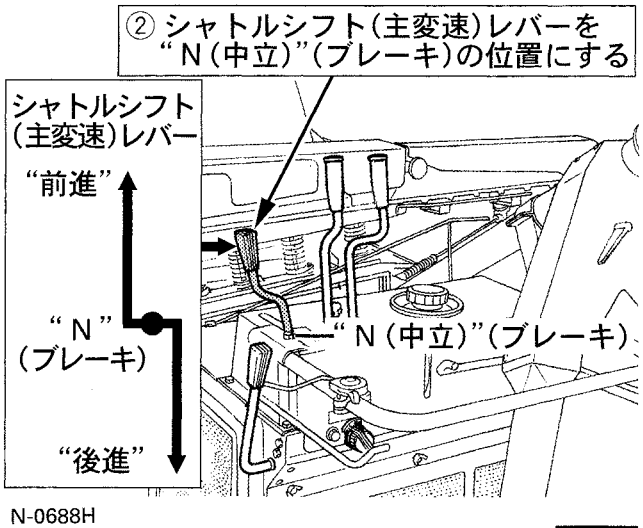
＊運転中は必ずジェットスタートコックを締めておいてください。コックを開けたまま運転を続けると燃料を吸込みエンジンの性能低下や黒煙が出たり，エンジンの回転異常を起こすおそれがあります。
＊始動用燃料は，タンク下部の取出し口からゴムパイプを通りジェットスタートへ吸込まれますが，フューエルタンクの底にごみや水がたまりますと，ジェットスタートの吸込みが悪くなりますから注意してください。
＊ラジエータに熱湯を入れると，エンジンが暖まって始動が楽になります。
＊寒冷時は，エンジンケースのオイルに，指定のクボタ純オイル(ディーゼルエンジン用)D10W30をお使いください。

■停止のしかた

451



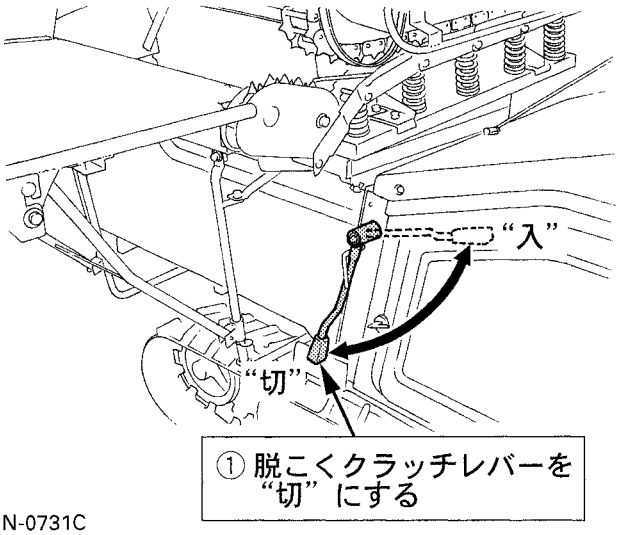
N-0885D



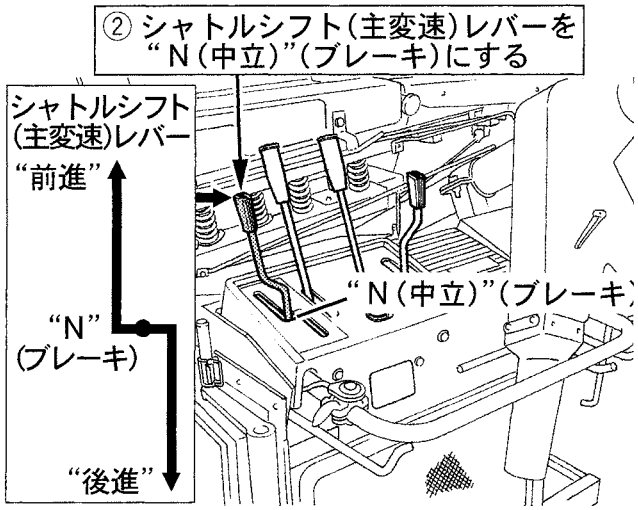
N-0688H

451

651・751

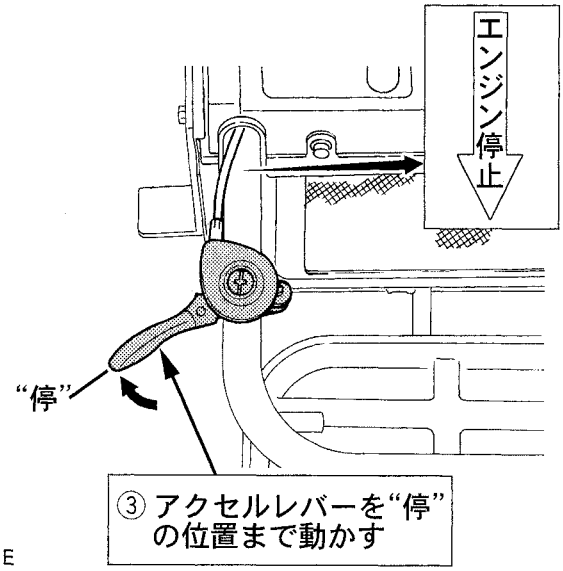


N-0731C



N-0679J

651・751



N-0691E

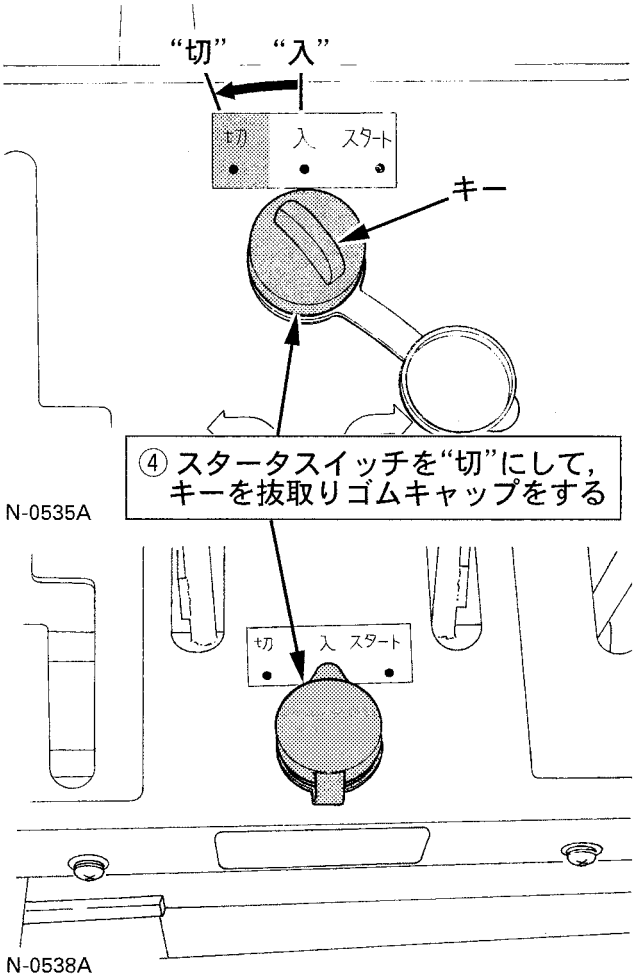
エンジンの始動と停止のしかた【451・651・751】

重　要

＊このときデコンプレバーやデコンプノブには絶対に触れないでください。故障の原因となります。**【クランクハンドル・451リコイル仕様】**

＊**【451】**の各レバーの位置は**【651・751】**と異なりますので，4,5ページを参照してください。

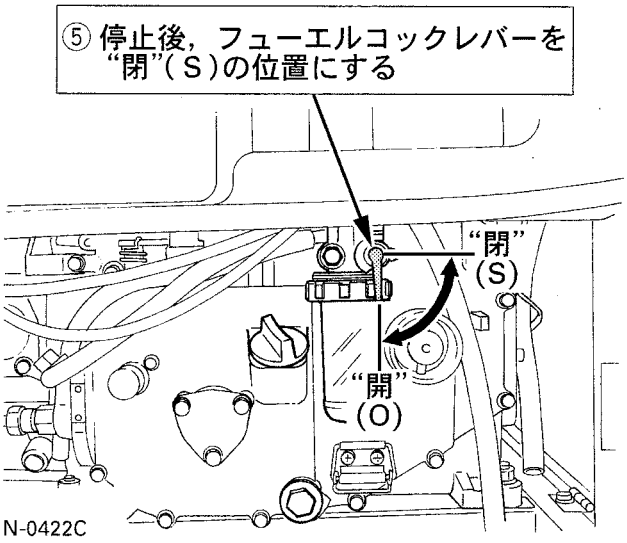
セル仕様



N-0535A

N-0538A

セル仕様



N-0422C

重　要

＊高速回転のままでエンジンを停止しないでください。

＊エンジン停止後は，スタータスイッチを必ず **“切”** にしてください。**“入”** で放置すると電流が流れた状態のままとなり，**“バッテリ上がり”** の原因となります。**【セル仕様】**

ハーベスタの運転

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスが機械の寿命に影響を及ぼします。本製品は厳重な検査のもとに出荷されていますが各部品のならし運転はされていません。ならし運転期間中は各部品がなじむまで走行速度は低速で，過負荷となる作業は避けましょう。
機械の性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正な初期のならし運転が重要です。新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■初期のならし運転

＊急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊エンジンは規定脱こく作業回転数以上で作業をしないでください。
＊高速での脱こく作業はさけてください。
＊整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。
以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

◆油脂・フィルタ類の交換と チェーン・ベルトの張り調整

＊新車時は回転部やしゅう動部の各部品はならし運転中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながるおそれがありますので，油脂・フィルタ類は初期50時間で交換してください。
＊チェーンやベルト類はならし運転中に初期伸びが発生します。初期20時間で張り調整をしてください。（41ページ参照）

移動走行について

注 意

＊この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。
＊機体各部に貼ってある警告ラベル・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊この機械は，“道路運送車両法”に適合しないので公道を走ることができません。移動するときはトラック輸送をしてください。

■走行のしかた

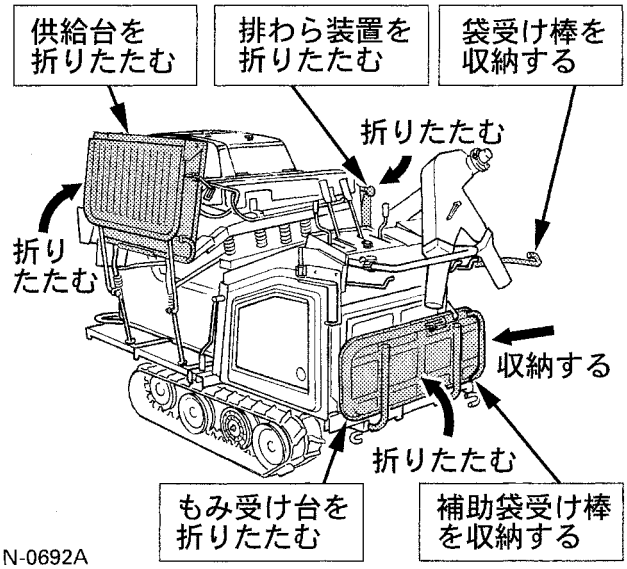
注 意

＊周囲の人に合図をし，始動操作は，運転位置で必ず行なってください。
＊溝・穴・土手の近くは路肩が弱いことがあり，機械の重みでくずれる場合がありますので，走行しないでください。
＊坂道の途中や傾斜地では速度を落としシャトルシフト(主変速)レバー・副変速レバー・サイド(操向)クラッチレバーを操作しないでください。
＊坂道・傾斜地で旋回はしないでください。また，10度を越える傾斜地(15度以上は無理)では，“低速”で走行してください。
＊走行途中でアクセルレバーを“高速”側へ動かさないでください。

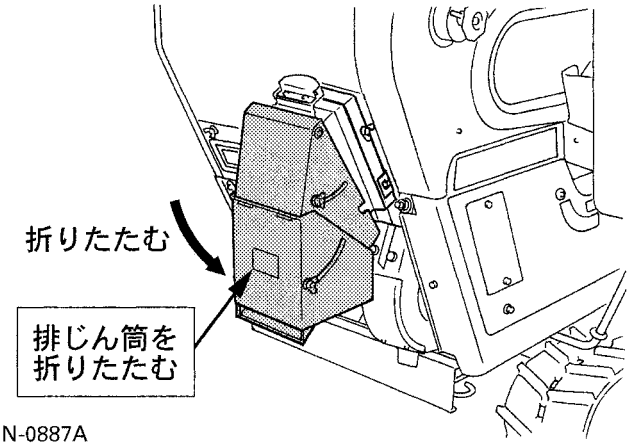
移動走行について

1.各部を折りたたみ収納します。

供給台，排わら装置，もみ受け台，排じん筒を折りたたみ，袋受け棒，補助袋受け棒を収納します。



N-0692A



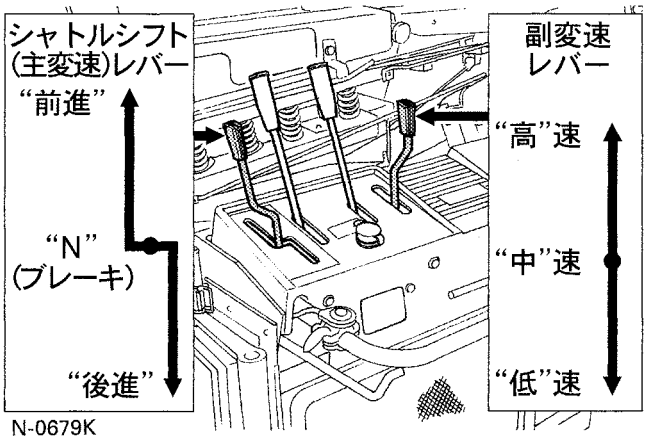
N-0887A

2.エンジンを始動します。

(14,19ページ参照)

3.走行速度を選んで発進します。

副変速レバーを作業条件に合わせた位置にし，シャトルシフト(主変速)レバーを**“前進”**又は**“後進”**に操作します。



N-0679K

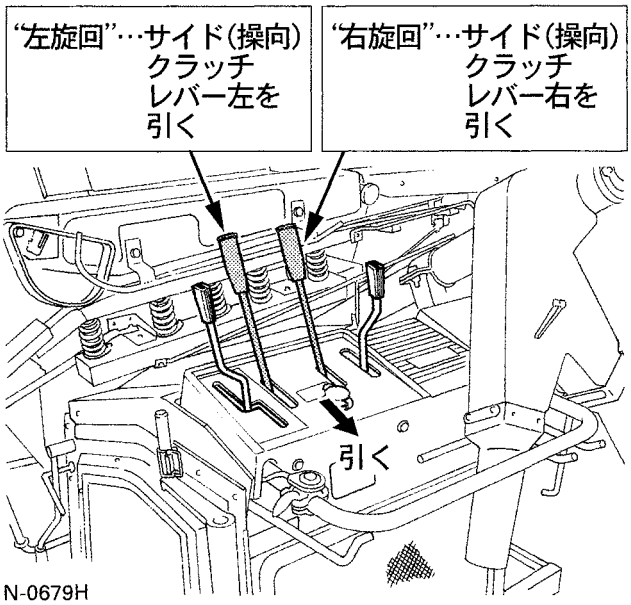
重　要

＊副変速レバーの切換えは，必ずシャトルシフト(主変速)レバーを**“N(中立)”**(ブレーキ)にしてから行なってください。

- **【51・61・451】**…高速←→低速
- **【651・751】**……高速←→中速←→低速

4.操向操作を行ないます。

サイド(操向)クラッチレバーで操向操作を行ないます。



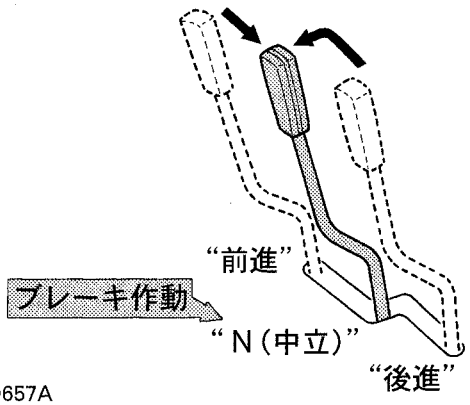
N-0679H

移動走行について

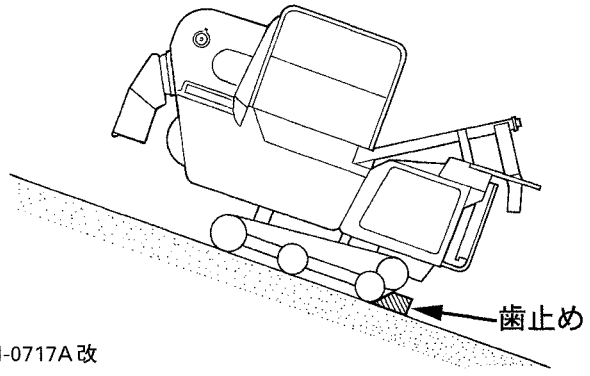
■停車のしかた

注 意

＊停車する場合は，平たんな安定した場所にしてください。やむなく傾斜地に機械を停車する場合は，シャトルシフト(主変速)レバーを“N(中立)”(ブレーキ)にしてください。“N(中立)”(ブレーキ)にするとブレーキが働きます。さらに駐車する場合は，木片などで“歯止め”をして暴走を防いでください。
＊運転後わらくずの上や枯れた雑草の上に停車すると，火災のおそれがありますのでさけてください。



N-0657A



N-0717A改

1. シャトルシフト(主変速)レバーを“N(中立)”(ブレーキ)にします。
2. エンジンを停止します。(17,23ページ参照)

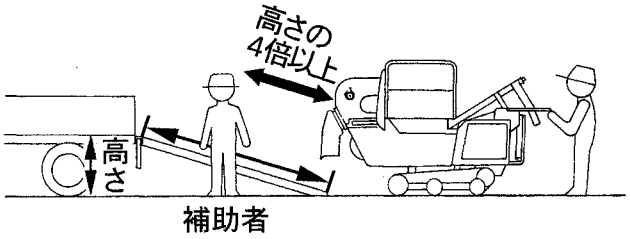
トラックへの積込み・積降し

注 意

＊積込み・積降しはトラックの駐車ブレーキを確実に掛けてください。
＊あゆみ板はフックが付いているものを使用し，トラックの荷台に段差のないように確実に掛けてください。また，あゆみ板は，段差の4倍以上の長さで，すべり止めがあり，基準にあったものを使用してください。

あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	30cm以上
数　量	２枚
強　度	１枚が500kg以上の重量に耐えうる

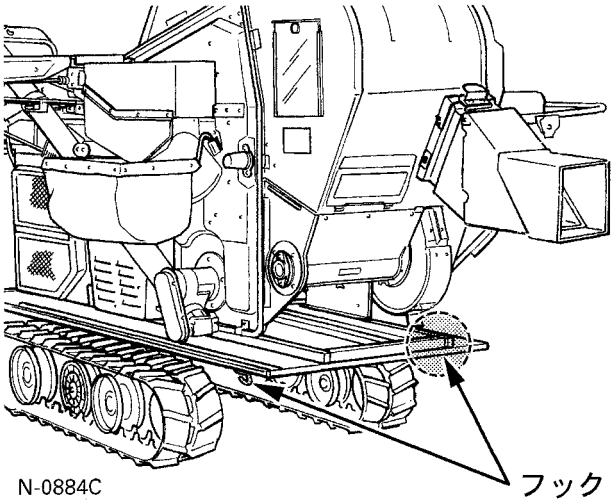


N-0716A改

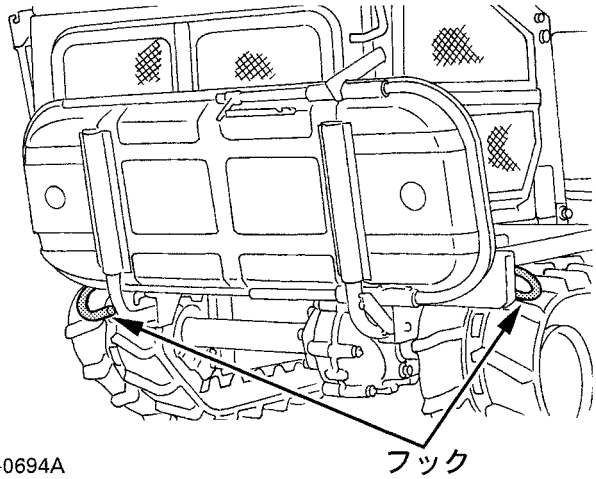
＊トラックへの積込み・積降しは，平地を選んで最低速で行なってください。このとき，運転者のほかに監視誘導する補助者を1名おいて，慎重に行なってください。
＊あゆみ板は平行で，安定していることを確認してください。
＊積込みは前進で，積降しは後進で行なってください。
＊あゆみ板の途中でサイド(操向)クラッチレバー・シャトルシフト(主変速)レバーを操作すると機械が急降下し，落下する危険がありますので絶対に操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台に戻って向きを正し，再度やり直してください。

■輸送時の注意

トラックやトレーラなどに積んで走るときは，ロープを掛けてください。ロープはフレームの所定のロープ掛け用の**“フック”**に掛けてください。



N-0884C



N-0694A

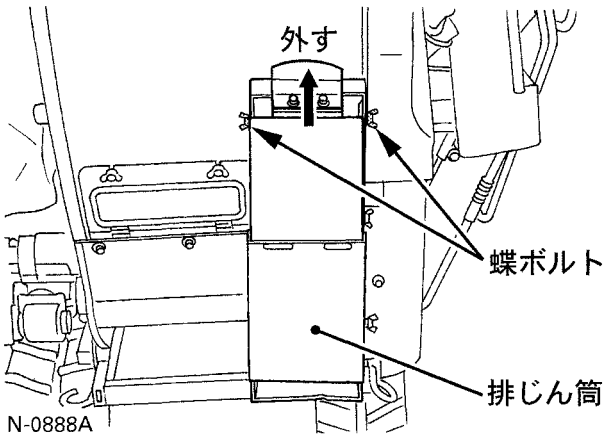
重　要

＊輸送中の急発進・急ブレーキ・急ハンドルは荷動きが生じ危険ですから，絶対しないでください。

補　足

＊長距離運搬する場合，供給台が倒れるおそれがありますので，ロープを必ず掛けてください。

＊排じん筒を外してトラック輸送するときは，蝶ボルトを外して取外したあと，失くさないように保管しておいてください。



N-0888A

上手な収穫作業のしかた

ハーベスタが作業できる作物とほ場の状態

作物とほ場の状態が下記の条件より悪いときは，正常なハーベスタ作業はできません。

■作物の条件

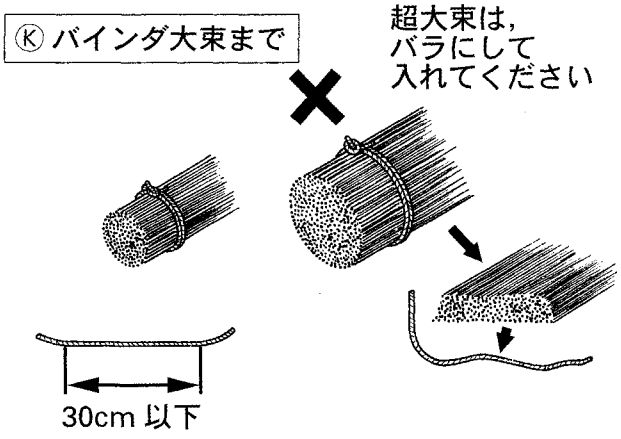
1. 乾いていること。

N-0332A

補　足

＊ぬれていたり，水分が高いと作業能率の低下をまねくと共に，選別不良や脱こく内部の詰まりの原因となりますので，じゅうぶん乾かしてから作業を開始してください。

2. 束の大きさは，ひも周長30cmまで(クボタバインダの大束結束まで。)



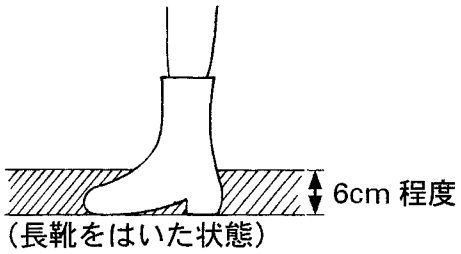
N-0382A

補　足

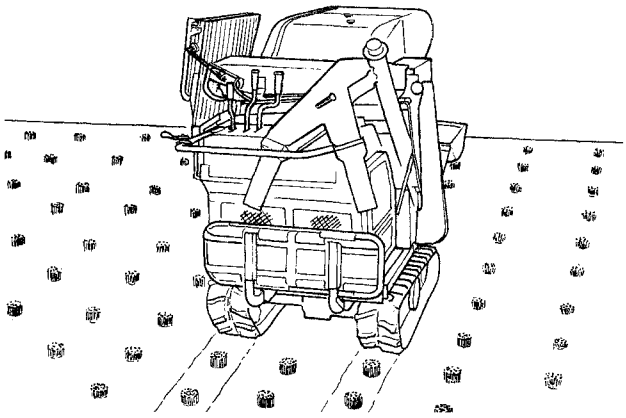
＊超大束の状態で脱こくしますと，こぎ残しや能率低下，選別不良，脱こく部の詰まりの発生をまねくと共に，脱こく部の破損にもつながりますので，超大束はバラにして入れてください。

■ほ場の条件

1. 人間の足が6㎝程度沈下するところまでが，作業の限度です。



M-0218A



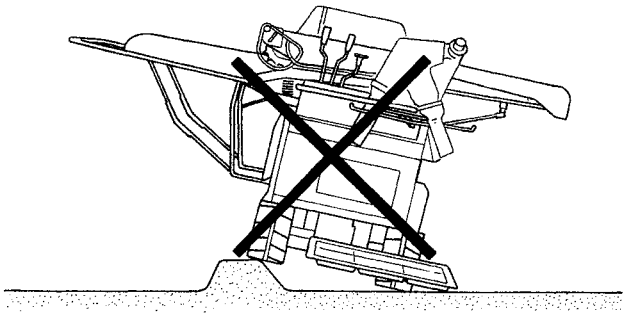
N-0695A

補　足

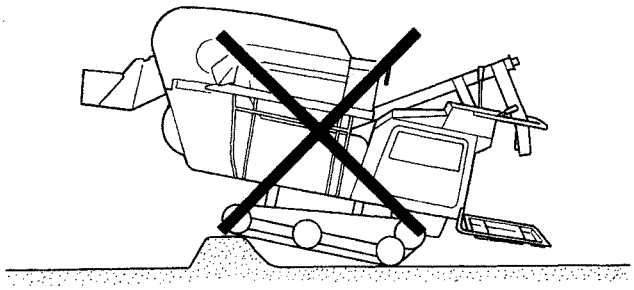
＊湿田で走行する場合は，クローラが刈株の上を走るようにすると，沈下量が少なくなります。

ハーベスタが作業できる作物とほ場の状態

2. 機体が傾斜しない平らなところで作業してください。



N-0696A改



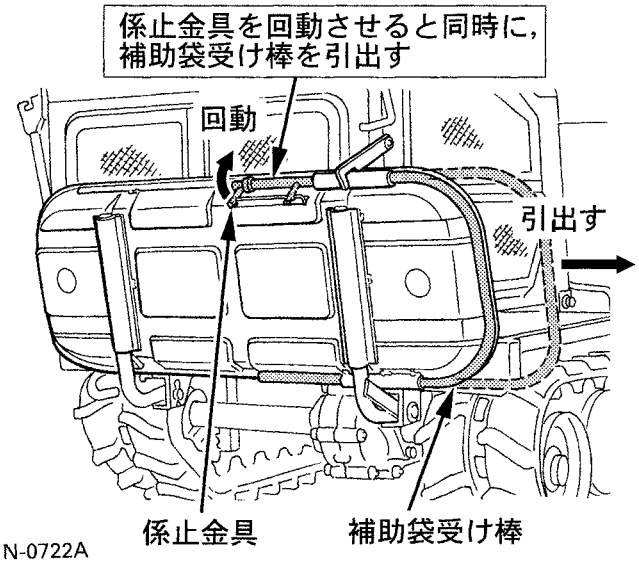
N-0697A改

重 要

＊脱こくの詰まり，選別不良の原因になりますので，平たんな場所で作業してください。

作業前の準備

1.補助袋受け棒の引出し



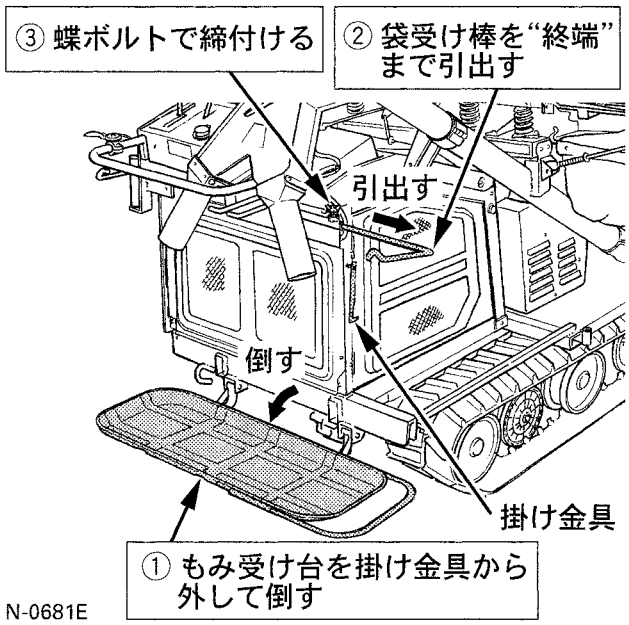
N-0722A

補 足

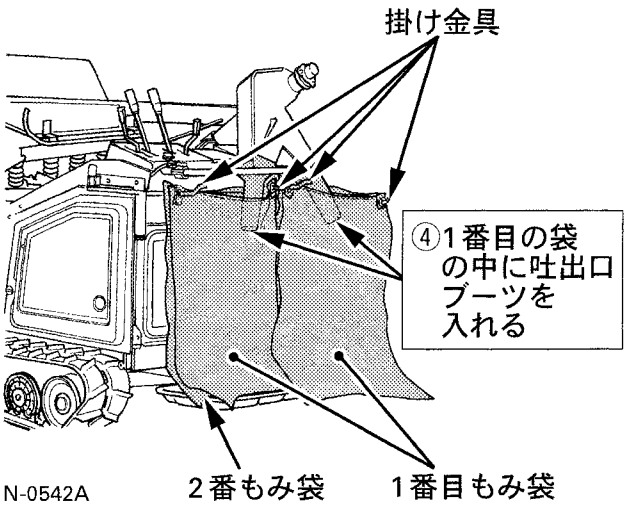
＊もみ受け台を格納した状態で，補助袋受け棒を引出すと楽です。

＊移動走行時は必ず収納してください。

2.もみ袋の取付け



N-0681E

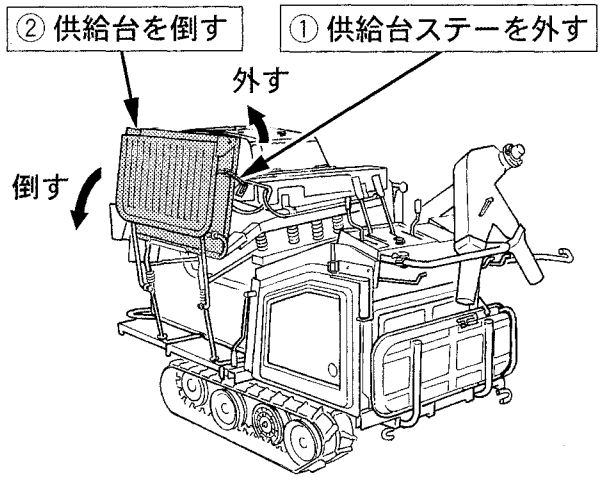


N-0542A

補　足

＊両側共，同じ枚数を掛け入れてください。
＊袋のチャックは，すべて開けてから取付けてください。
＊袋は掛けすぎないようにしてください。
外れて脱落するおそれがあります。

3.供給台のセット

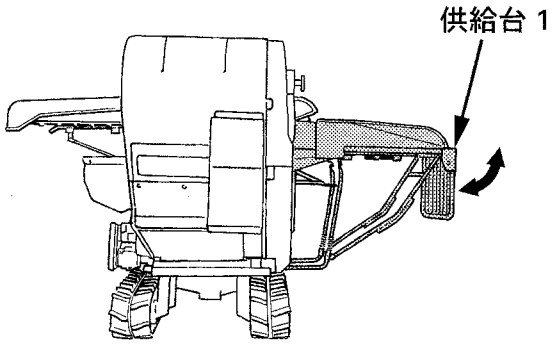


N-0692B

◆供給台の取扱い

1. 供給台は２段折りたたみができます。１人作業を行なうときは供給台１を下側に折ると便利です。

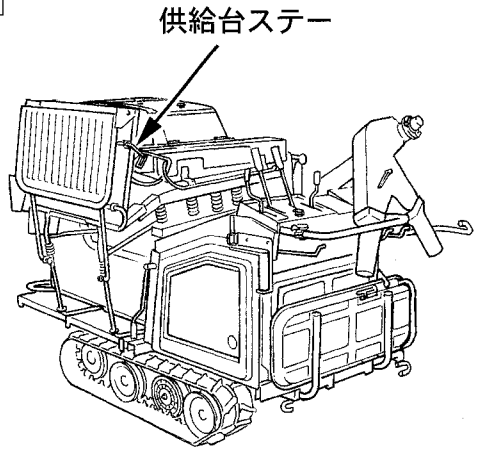
１人作業時



N-0699A

2. 移動走行時は，必ず供給台を折りたたんで供給台ステーで止めてください。

走行時

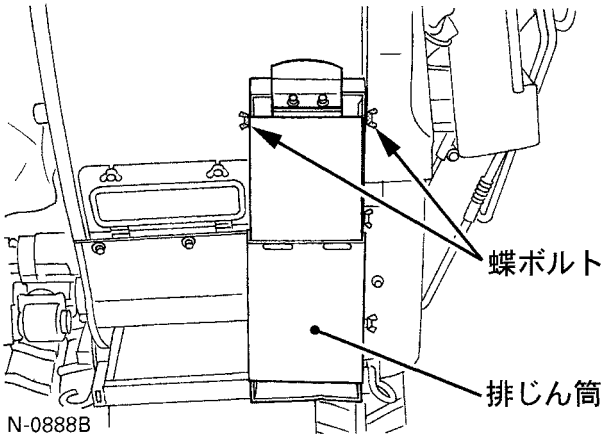


N-0692C

4.排じん筒の取付け・取扱い

◆取付け

排じん筒を取外しているときは，蝶ボルト２本で取付けてください。

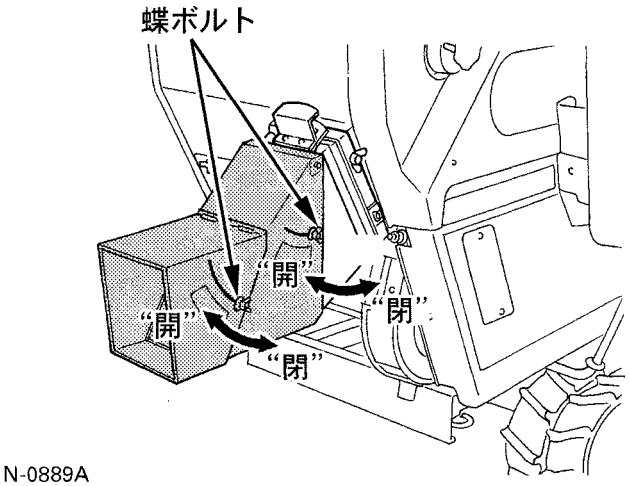


N-0888B

◆取扱い

工場を出荷するときは，下向きにたたんであります。

1. 脱こく作業をするときは２段折りたたみのため，蝶ボルト２本をゆるめ，上向きいっぱい上げたあと蝶ボルトで確実に固定してください。

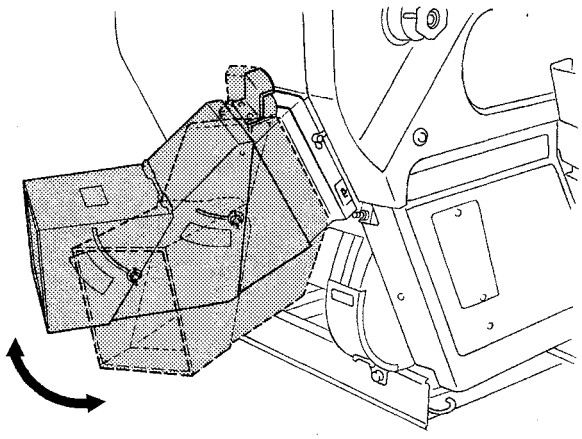


N-0889A

補　足

＊中途の位置では，排じん物の出口が狭くなり選別不良や詰まりの原因になります。

2. 風向きにより排じん筒を左右に動かして調節してください。



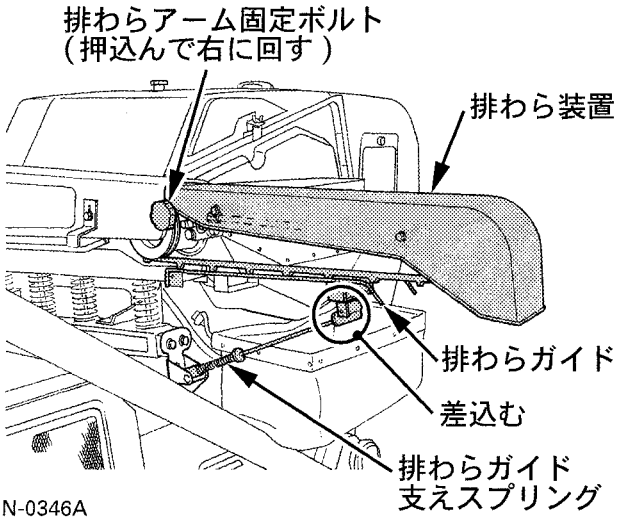
N-0890A

5.排わら装置の取扱い

警 告

＊排わら装置の取付け・点検・調整は，エンジンを必ず停止してから行なってください。

工場を出荷するときは，下側にたたんであります。脱こく作業をするときは，上側に上げて水平にし，排わらアーム固定ボルトで固定してください。排わらガイドは，ワンタッチで差込んで組立てできるようになっています。
(納品時，排わらガイド支えスプリングに巻いてあるスポンジは外してください。)



N-0346A

重 要

＊排わら装置を収納した状態で，“脱こくクラッチ”を入れると故障の原因になりますので絶対に入れないでください。

ハーベスタ作業のしかた

警 告

＊作業中には，脱こくの回転部に，手や体を近づけないようにしてください。
＊異常が発生したときは，エンジンを必ず停止してから点検してください。
＊外装品(安全カバー)を取外しての作業は絶対にしないでください。

注 意

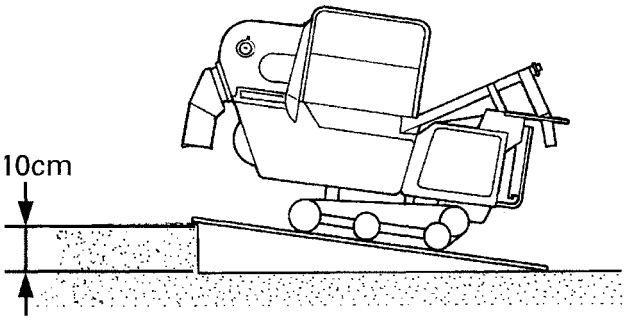
＊エンジンを始動したり，各クラッチを入れるときは，共同作業者に合図して，安全を確認してください。
＊わらくずの上で作業又は停止しないでください。機体フレーム下に排気管があり火災の原因になります。
＊脱こく作業終了後は，脱こく機内のわらくずを完全に排出してください。
＊脱こく作業を終えてシートを機械にかけるときは，火災の原因になることがありますので，エンジン，マフラがじゅうぶん冷えてからにしてください。

■ほ場への乗り入れ・あぜ越え

注 意

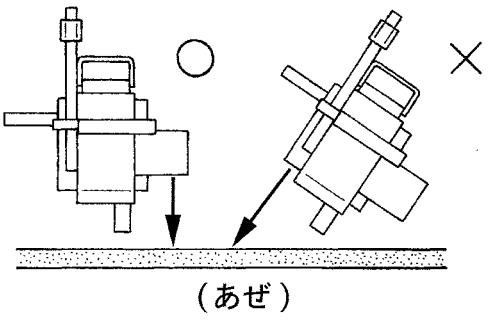
＊速度は低速で，エンストしない程度までエンジン回転を落として行なってください。

1. 10cm以上の高いあぜの場合は，あゆみ板を使用してください。



N-0718A改

2. あぜ越えは，エンストしない程度にエンジン回転を落として，あぜに直角に乗越えてください。



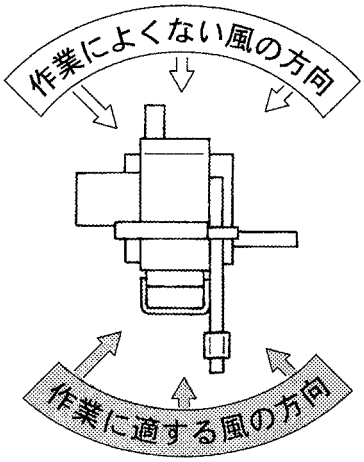
N-0337A

■作業に適した機械の方向

注 意

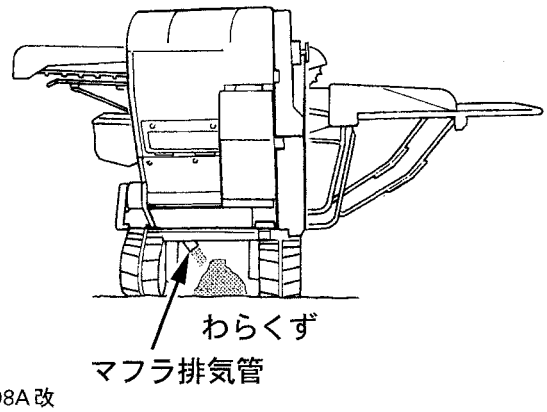
＊わらくずの上での作業はしないでください。

1. 風が吹く場所での脱こく作業は，下図のように**“風の方向”**を考慮して作業してください。



N-0337B

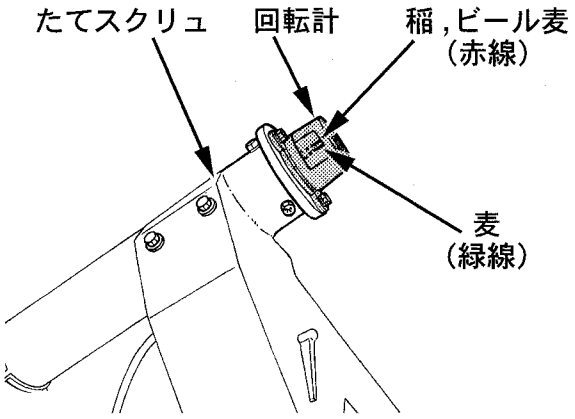
2. わらくずの上で連続作業はしないでください。機体フレームの下にマフラ排気管があり，火災の原因になります。



N-0698A改

ハーベスタ作業のしかた

■脱こくの操作のしかた



N-0704A

◆こぎ胴回転数のあわせ方

エンジンを始動し，脱こくクラッチレバーを**“入”**にし，アクセルレバーで下表のように調整してください。

	回転計表示
稲，ビール麦	赤　線
麦	緑　線

重　要

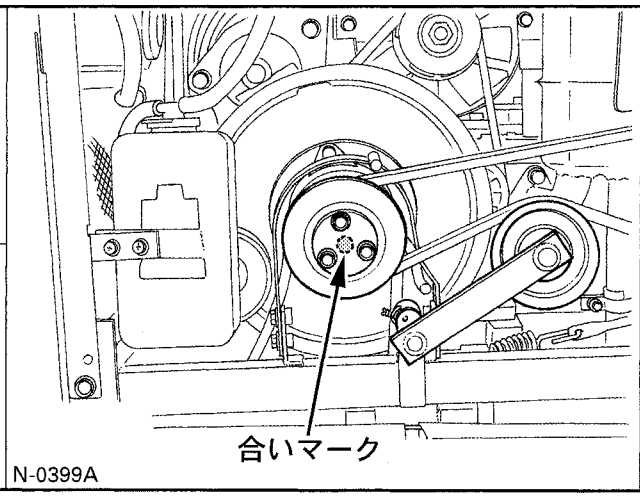
＊脱こくクラッチレバーは，エンジン回転が低速のとき**“入”**にしないでください。エンジン停止の原因になります。(アクセルレバーを**“高(高速)”**の位置にしてから，脱こくクラッチレバーを**“入”**にしてください。)

＊稲，ビール麦で脱ぷなどの損傷が目立つ場合は，エンジン回転計の指針を赤線より少し手前に合わせてください。

＊回転は無負荷にて合わせてください。

◆エンジン変速プーリの調節【451】

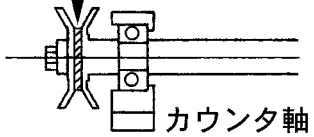
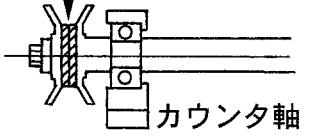
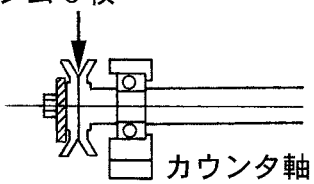
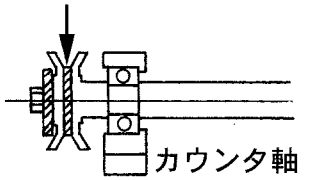
麦作業で１番口に穂切れ・ノゲ・稈の混入が多いときは，変速プーリを外して逆方向に取付けてください。

稲（出荷標準）	 N-0399A	合いマークを内側に向ける。
麦		合いマークを外側に向ける。

ハーベスタ作業のしかた

◆カウンタ割りプーリの調節(稲，麦回転調節)【651・751】

稲，麦の調整はカウンタ出力プーリのシム調節により，脱こく回転を調整します。

	651		751	
稲・ビール麦（標準出荷）	シム１枚  	シム１枚	シム２枚  	シム２枚
麦	シム０枚  	シム０枚	シム１枚  	シム１枚

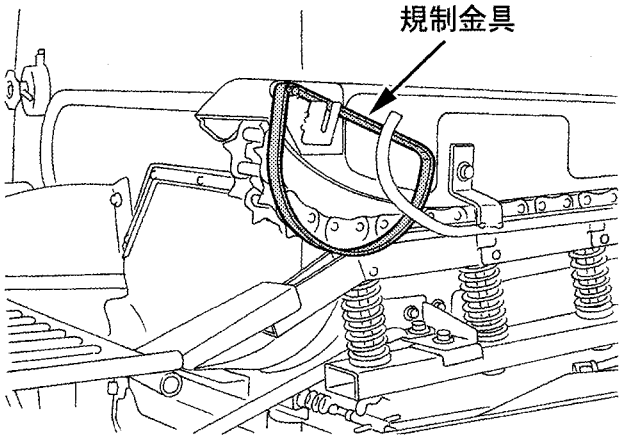
N-0448A

ハーベスタ作業のしかた

◆わら束の供給のしかた

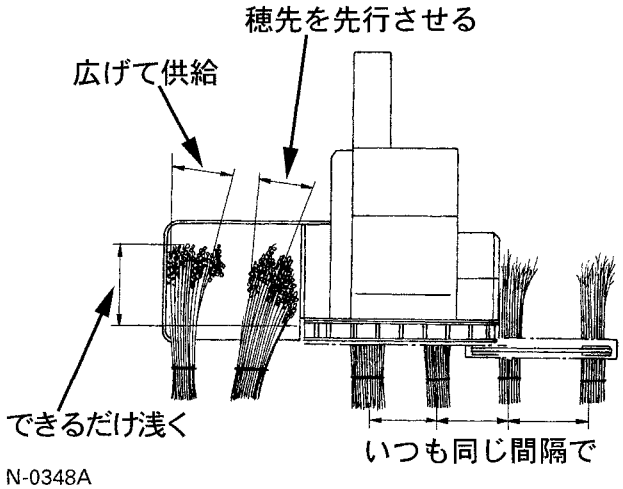
注 意

＊わら束を供給するとき，手・腕をチェーンにはさまれケガをするおそれがあるので，規制金具より奥に手を絶対に入れないでください。



N-0723A

1. 穂先を先行させるようにして，束を広げて等間隔に供給してください。
2. 供給深さはこぎ残しのでない範囲で浅く供給してください。

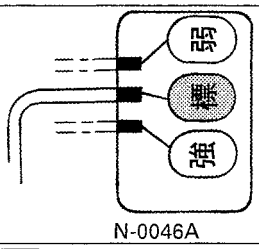


N-0348A

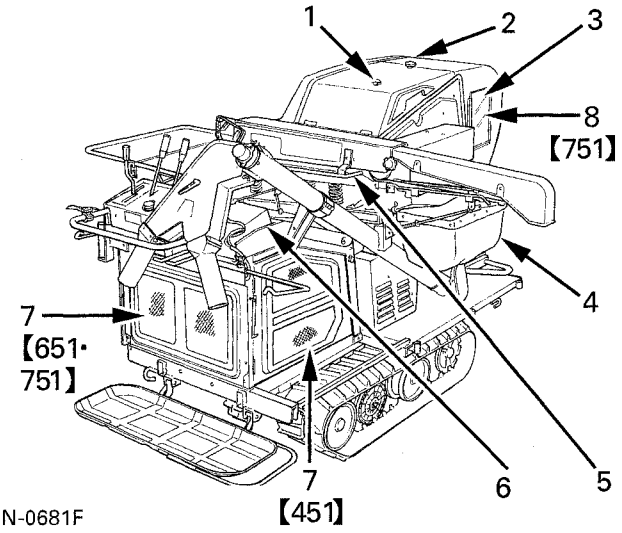
守らないと！	こうなります！
● **“穂先が先”** になるように供給してください。	(1) わらがいたみます。 (2) 排じん量が多くなります。 (3) こぎ残りが出やすくなります。
● **“束が大きい”** とき広げて供給してください。	(1) 馬力を多く要します。 (2) こぎ残りの原因になります。 (3) 能率が低下します。 (4) こぎ胴，フィードチェーンでの詰まりの原因になります。
● **“回転にむら”** の生じないように，常に一定の速度で作業してください。	(1) 詰まりの原因になります。 (2) 安定した性能が発揮できない場合があります。
●脱こく中や後仕末のときは，**“工具類，石，棒切れ”** などをわらくずと一緒に供給しないように注意してください。	(1) 機械の破損を生じます。 (2) 異物混入の原因になります。
● **“水分が高い（生こぎ）場合”** の作業時には，束の供給量を少なくしてください。	(1) 能率が上がりません。 (2) 詰まりの原因になります。

ハーベスタ作業のしかた

■作業に適した調節のしかた（◎印は，出荷標準です）

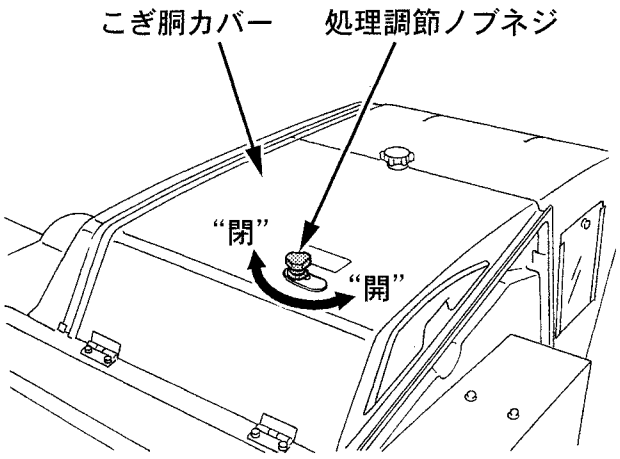
No.		調節範囲	適　　応
1	処理調節	開 閉	湿った稲，麦の脱こく **上記以外特に３番口に小枝梗付が出るとき**
2	ブロワ・吸引調節	 N-0046A	よく乾燥して３番飛散が多いとき **乾燥稲，ビール麦** 湿った稲，麦（ビール麦を除く） １番口に切わらが混入する
3	排じん仕切板の調節	排じん仕切 下 上 排じん仕切板取外す	よく乾燥して３番飛散が多いとき **乾燥稲，麦** 麦でわら発生が多く，詰まるとき
4	選別調整板の調節 （１番流し板）	上 中 下	こく粒のいたみが多いとき **乾燥しているとき** 選別が悪く，長わらが多く入るとき
5	案内パイプの調節	上 中 下	大　束 **標　準** バラこぎ，引きぬきが多いとき
6	株元ガイドの調節 **【651・751】**	前 後	短かんで大束 縦スクリュパイプに束があたる場合 **長かんで縦スクリュパイプに束があたる場合**
7	エンジン変速プーリの調節**【451】** カウンタ割りプーリの調節**【651・751】**	稲 麦	**稲，ビール麦** 小麦，大麦で１番口に切わらや**“ノゲ”**が混入するとき
8	排じんガイド３の調節 **【751】**	上 中 中	わら発生が多く，詰まるとき **標　準【751】**
9	供給位置の調節	上 下	大　束 標　準

ハーベスタ作業のしかた



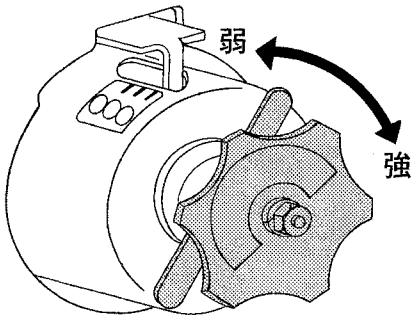
N-0681F

1.処理調節



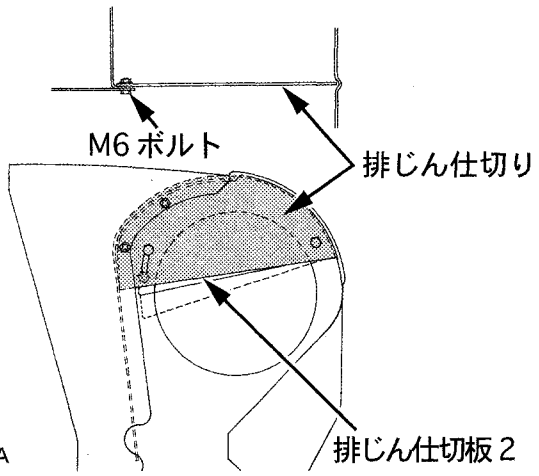
N-0706A

2.ブロワ・吸引調節



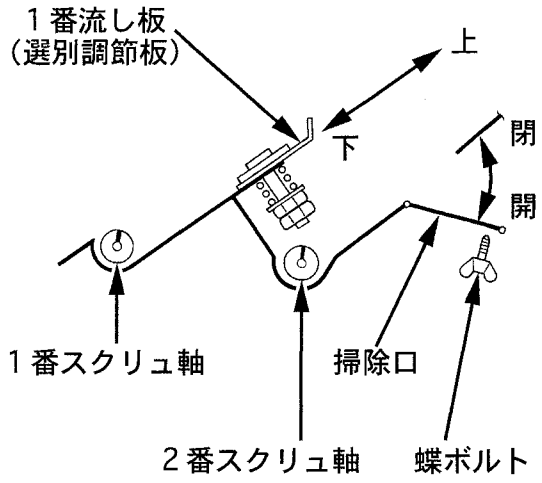
N-0046B

3.排じん仕切板の調節



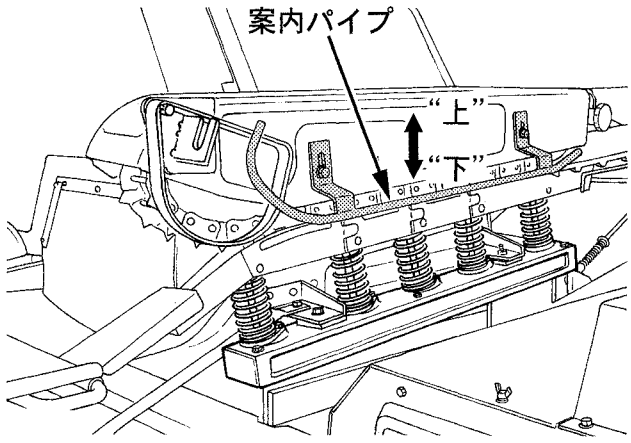
N-0084A

4.選別調節板の調節



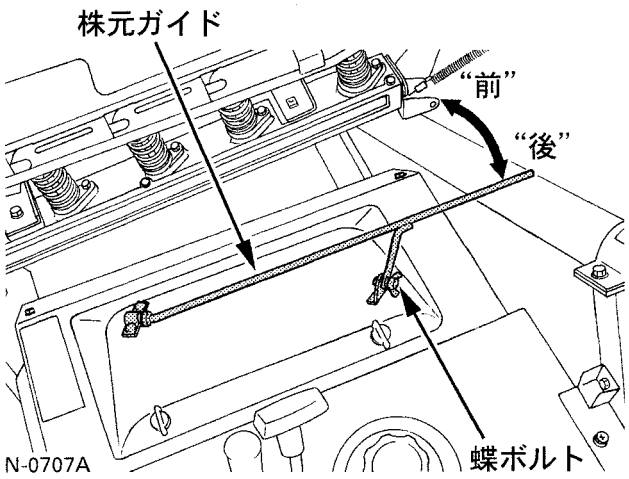
N-0548A

5.案内パイプの調節



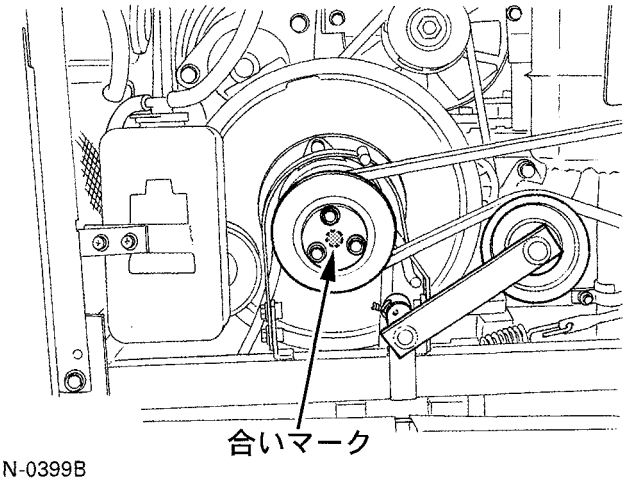
N-0687B

6.株元ガイドの調節【651･751】



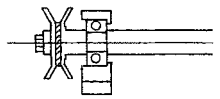
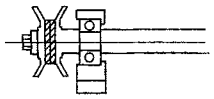
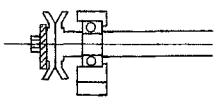
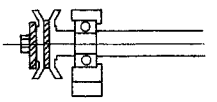
N-0707A

7.エンジン変速プーリの調節【451】



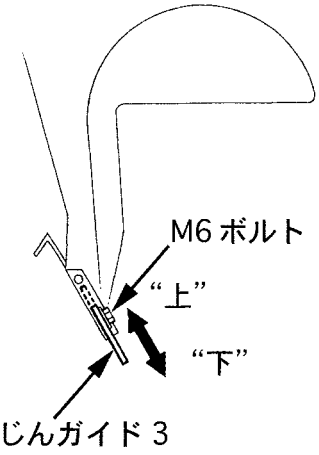
N-0399B

7.カウンタ割りプーリの調節【651･751】

	651		751	
稲		シム1枚		シム2枚
麦		シム0枚		シム1枚

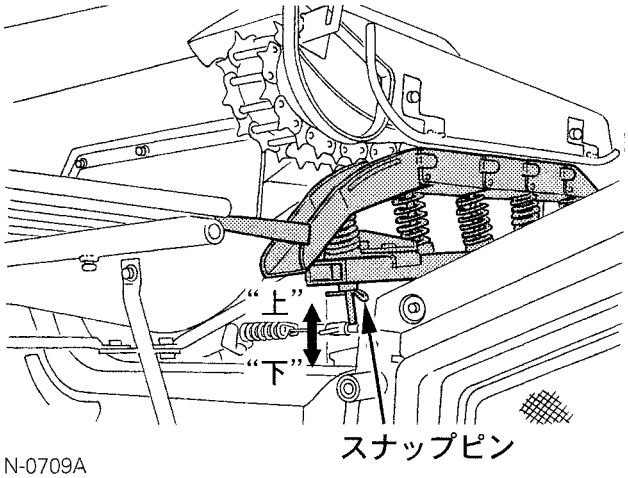
N-0448B

8.排じんガイド３の調節【751】



N-0514A

9.供給位置の調節



N-0709A

メンテナンス

警 告

＊各部の調整・点検・交換を行なうときは，エンジンを必ず停止させ，各レバー類を“切”にして，回転部を止めてから作業をしてください。
＊取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，必ず取付けてから作業をしてください。
＊バッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。

注 意

＊機械は平たんで，回りにわらくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。配線及びマフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因となります。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをすることがあります。【451･651･751】
＊エンジンカバーを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
1. エンジンを停止する。
2. エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
3. 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
エンジンが冷えてないとき，エンジンカバーを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部などより熱湯が噴出し，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。
＊燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。

重 要

＊ベルト類は亀裂又は帆布のはがれたとき必ず交換してください。
＊専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，ご購入先にご相談ください。

燃料・オイル量の点検・補給・交換

＊点検・補給・交換をするときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な燃料・オイル量の点検・補給・交換ができません。
＊使用するエンジンオイル，ミッションオイルは，指定の**“クボタ純オイル”**を必ず使用してください。

日常点検と定期点検一覧表

■点検と処置(給油(水)・注油・清掃・調整・交換)

項目		日常点検	定期点検（●）・交換（＊） ガソリン系【51・61】	定期点検（●）・交換（＊） ディーゼル系【451・651・751】	備考	参照ページ
エンジン部	燃料	補給	—		ガソリン系 …自動車用レギュラガソリン(無鉛)(7.0L) ディーゼル系 …ディーゼル軽油又は重油(7.0L)	44
	エンジンオイル（クランクケースオイル）	補給	＊初回 …20時間目 ＊２回目以降 …100時間ごと	＊初回 …50時間目 ＊２回目以降 …100時間ごと	ガソリン系 …クボタ純オイル G30,G20W20(冬期用) ディーゼル系 …クボタ純オイルD30(15℃以上),D10W30(15℃以下)	45
	テンションアーム	注油	—		—	47
	エアクリーナ	清掃	●１シーズン		軽くたたいたり，中性洗剤で洗って清掃	46
	エアクリーナ エレメント	—	＊300時間ごと			46
	ラジエータ 冷却水	補給	—	●１シーズンごと	清水を補充(LOWとFULLの間)	47
	ラジエータ フィン	清掃			水道水や圧縮空気で清掃	49
	フューエルフィルタ	—	●100時間ごと		使用燃料で洗浄	53
	フューエルフィルタ エレメント		＊450時間ごと		—	
	フューエルパイプ	—	●１シーズンごと ＊２年ごと		締付けバンドとパイプのゆるみ点検	55
	点火プラグ	—	●１シーズンごと	—	電極のすき間調整(0.9～1.0mm)	57
走行部	ワイヤ	注油	—		クボタ純オイルD30又はD10W30	47
	ミッションオイル	—	＊初回……50時間目 ＊２回目以降…100時間ごと		クボタ純オイルM80B又はM90	52
脱こく・マフラ部	排わらプーリ	注油	—		クボタ純オイルD30又はD10W30	47
	チェーンレール					
	わら切刃	—	●(＊)わら切れが悪くなったとき		—	60
	防じんあみ	清掃	—		—	49
	縦スクリュケース					
	１番，２番スクリュケース					
	脱こく排じん部					
	マフラ回り					
電装部	バッテリ 電解液	—	【セル仕様】 ●１シーズンごと		精製水を補充	57
	バッテリ コード				—	58
	ヒューズ	—	【セル仕様】 ＊切れたとき		同容量のものを補充	59
	ヒュージブルリンク				純正部品のを補充	
	電気配線 ワイヤハーネス	—	●１シーズンごと		—	

日常点検と定期点検一覧表

■点検と処置(調整・交換)

	項　目	定期点検（●）・交換（＊）		備　考	参照ページ
		【51・61・451】	【651・751】		
ベルト	エンジン⇔ミッション	●１シーズンごと		—	61, 62
	エンジン⇔脱こく	＊300時間ごと	—	テンションスプリング ……110mm	
	エンジン⇔カウンタ軸	—	●１シーズンごと ＊300時間ごと	—	
	カウンタ軸⇔トウミ軸			テンションスプリング ……229mm	
	トウミ軸⇔１番スクリュ軸			—	
	脱こく	●１シーズンごと ＊300時間ごと		テンションスプリング ……210 ～220mm	
	排わら			—	63
	ファン	【51・61】は除く ●１シーズンごと ＊250時間ごと		たわみ量 【451】……10～15mm 【651・751】……5～10mm	
ワイヤ	サイド（操向）クラッチ	●１シーズンごと ＊250時間ごと		遊びの量…０～５mm	65
	ブレーキ			ブレーキスプリング ……43.5mm	
	シャトルシフト（主変速）			調節ネジで調節	
	脱こくクラッチ			脱こくテンションスプリング 【51・61・451】 ……109～111mm 【651・751】 ……76mm	67
	フィードチェーン	●１シーズンごと ＊400時間ごと		—	60
	クローラ	●１シーズンごと		たわみ量…15mm以内	68

【注】バッテリ電解液は年間使用時間が100時間以内の場合，１年ごとに点検を行なってください。

重　要

＊処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡してください。

補　足

＊機械の使用条件(環境など)や処理能力によって，消耗部品の調整や交換時期は異なります。
（稼働時間については，**“主要諸元”**の**“作業能率”**を参照してください。）

日常点検

注 意

＊運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊使用前には必ずオイル，燃料を規定量，給油してください。
＊燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊エンジン，マフラ，脱こく機及び結束機のベルトカバー内，バッテリにわらくずがたまっていると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。

◆前日の異常箇所の点検

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆機体の回りを歩いての点検

1. ボルトやナットのゆるみ及び作業機取付けピンの脱落はないか。
2. 車体各部の変形や損傷はないか。
3. 油や水もれなど異常はないか。

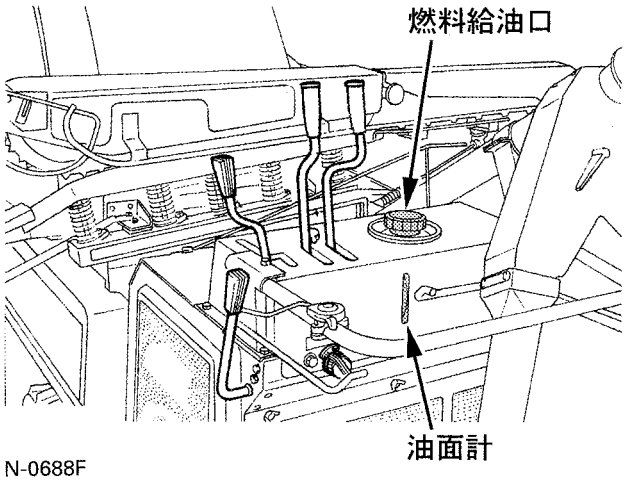
■燃料の点検・補給

警 告

＊燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。
＊燃料補給中は火気厳禁です。

51·61

燃料には“自動車用レギュラガソリン(無鉛)”を使用してください。



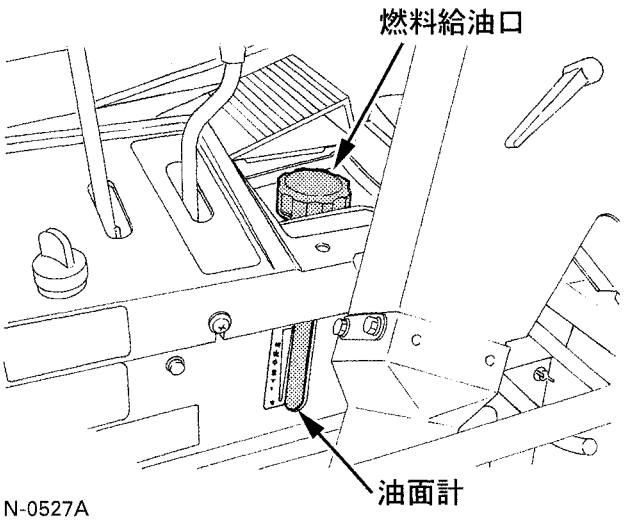
N-0688F

51·61

451·651·751

燃料には“ディーゼル軽油”を使用してください。
ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　　類	ディーゼル軽油の流動点(℃)
特 1 号	+5以上
1 号	0及び-5
2 号	-10
3 号	-15及び-20
特 3 号	-25及び-30



N-0527A

補　足

＊流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。

451·651·751

重　要

＊油面計を見ながら入れ，こぼさないこと。(火災の原因になります)

＊こぼした燃料がトレーなどにたまったときは，必ず布でふきとってください。

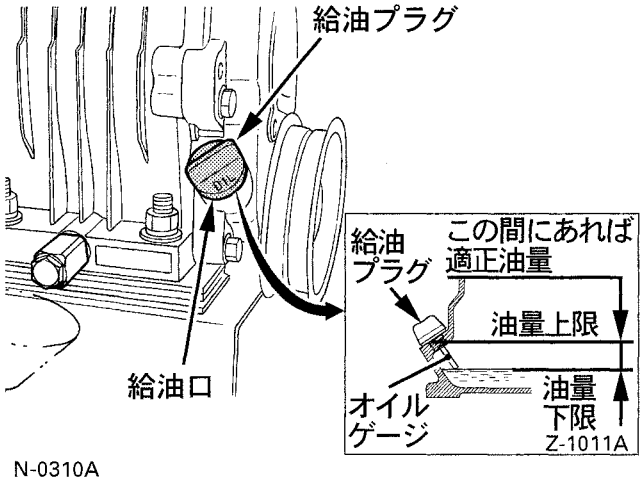
■エンジンオイルの点検・補給

警　告

＊オイルを補給するときは，エンジンを必ず停止してください。

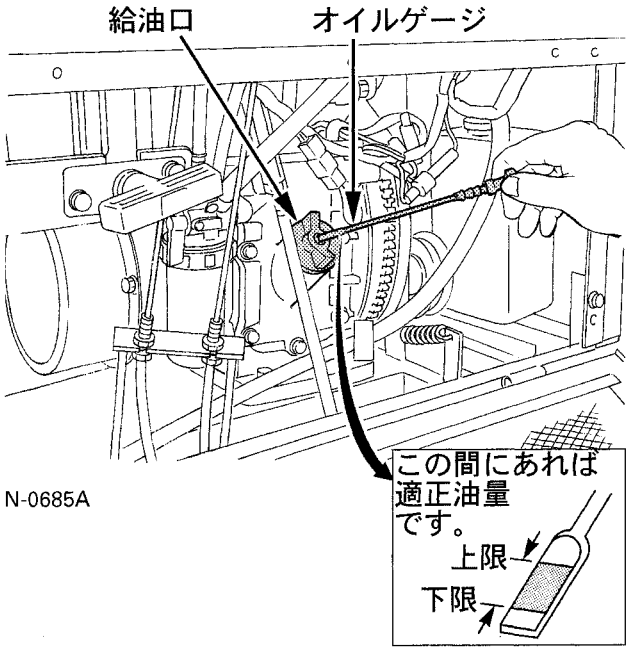
＊オイル補給中は火気厳禁です。

【51·61】



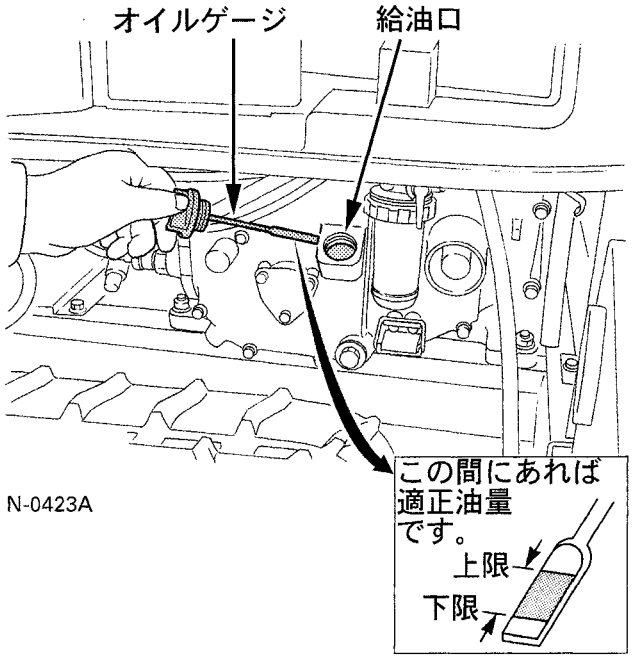
N-0310A

【451】



N-0685A

【651·751】



N-0423A

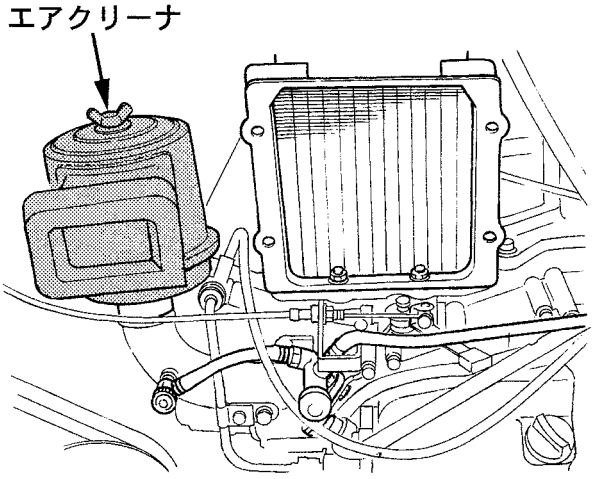
■エアクリーナの点検・清掃

ハーベスタ作業では，特にちりやほこりを吸いやすいので，必ずダストカップやエアクリーナカバーを点検し，内部にちりやほこりが半分以上たまらないように清掃してください。

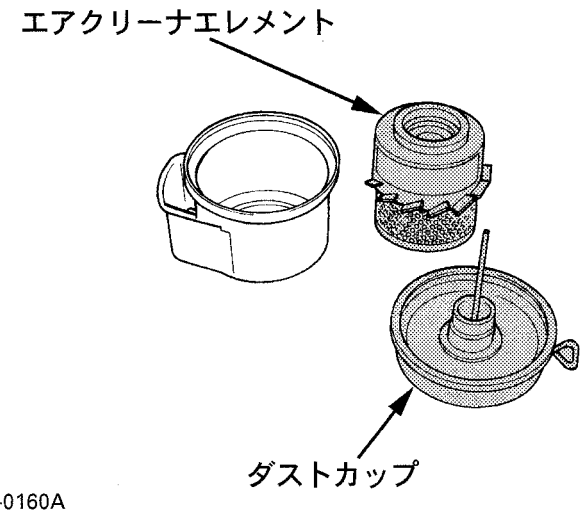
◆清掃方法

清掃方法は，エレメントの注意書にくわしく書いてありますので，参照してください。
エレメントの清掃は，ダストカップやエアクリーナカバーを外して，エレメントを取出し軽くたたきながらごみを落としてください。
カーボンや油分の場合は，中性洗剤に15分間浸してから，数回ザブ洗いを行ないザブ洗いのあと，清水でよくすすいでから，通風のよい場所で自然乾燥してください。

451·651·751



N-0431E

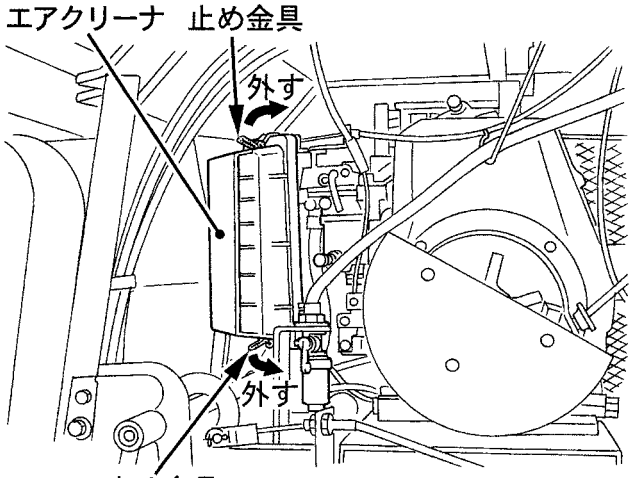


N-0160A

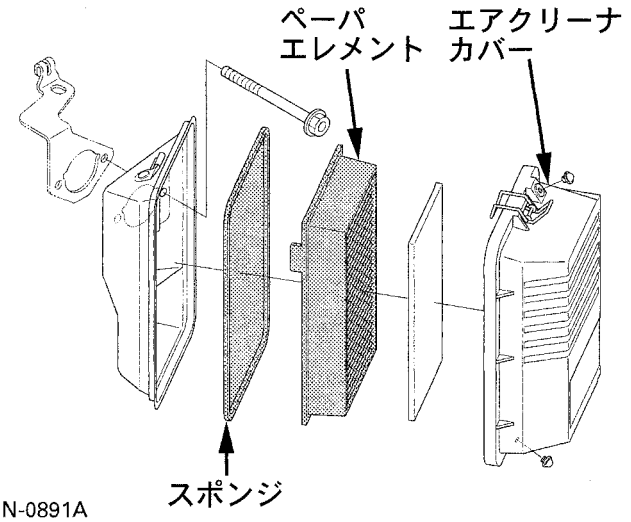
451·651·751

51·61

止め金具２個を外してください。



N-0886C



N-0891A

51·61

重 要

＊エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
＊エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。
＊乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊エレメントをたたいて変形させないでください。
変形するとほこりがエンジンに侵入し，エンジンを損傷することがあります。

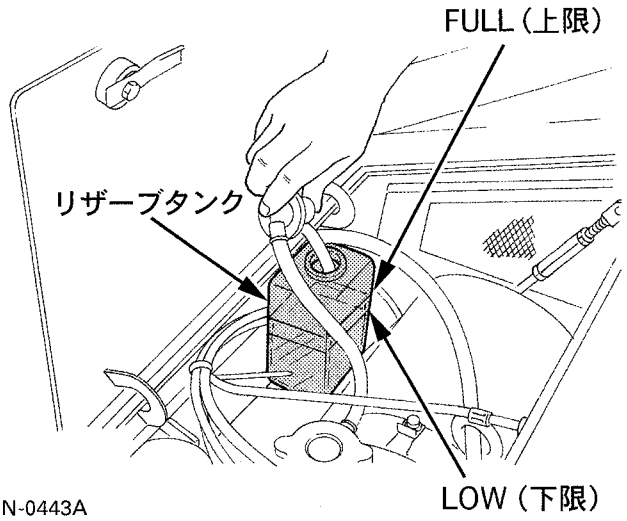
■ラジエータ冷却水の点検・補給

警 告

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。

冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。**“FULLからLOWの範囲”**であれば正常です。冷却水がLOW以下の場合は，清水を補給してください。



N-0443A

補 足

＊ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

＊FULL以上は入れないでください。

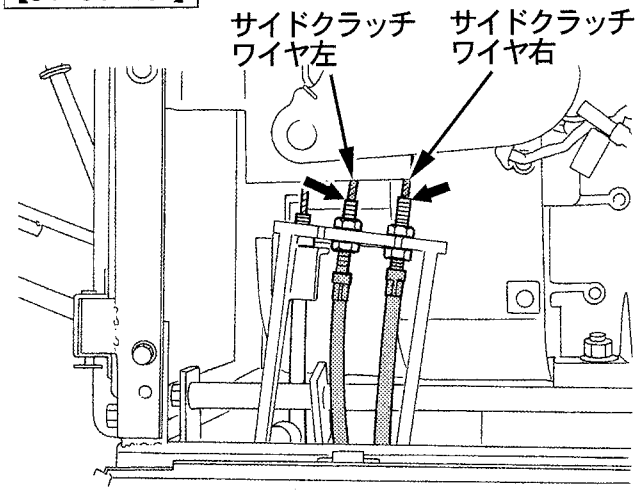
■ワイヤ・チェーン・プーリ・テンションアームの点検・注油

警 告

＊チェーンや回転物に衣服などが巻込まれるおそれがあり危険ですのでエンジンは必ず停止して行なってください。また取外したカバー類は必ず取付けてください。

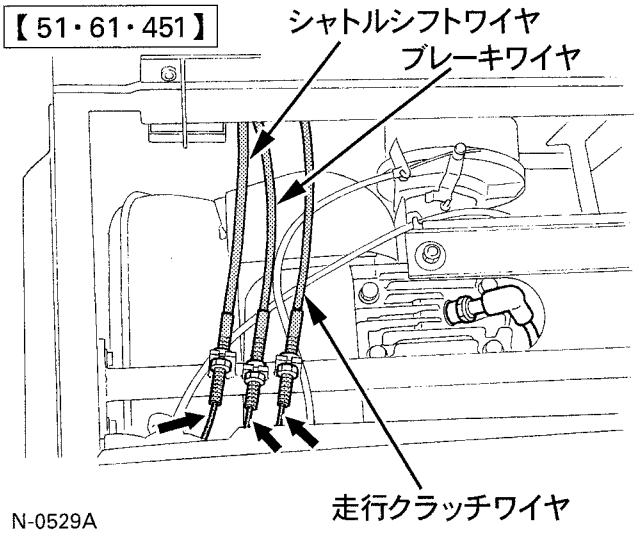
◆ワイヤ関係

【51・61・451】



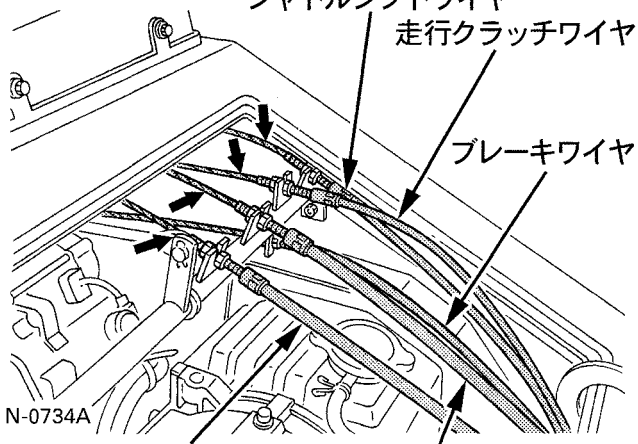
N-0686A

【51・61・451】

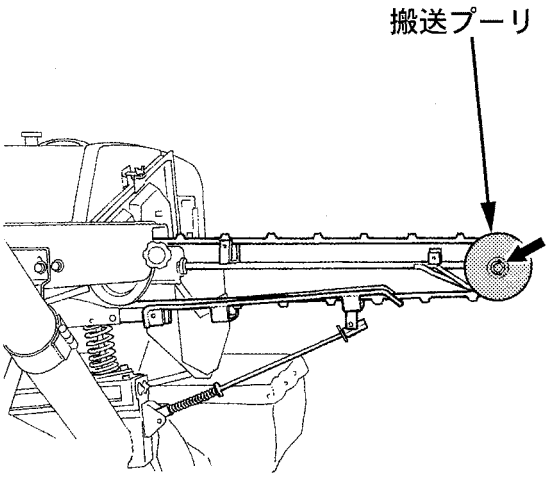


N-0529A

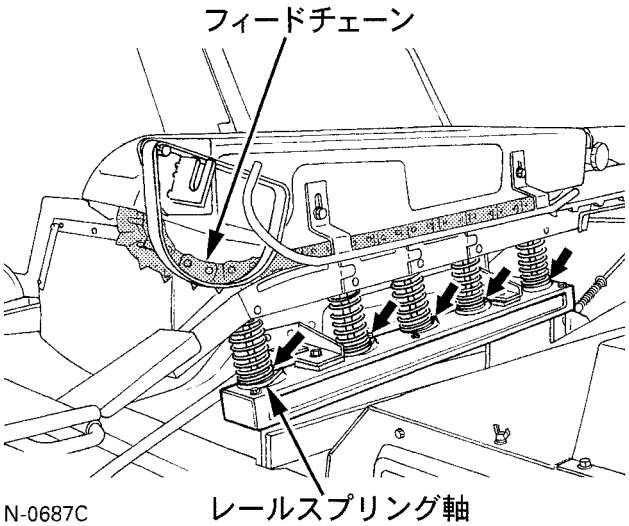
【651・751】



◆排わらプーリ関係

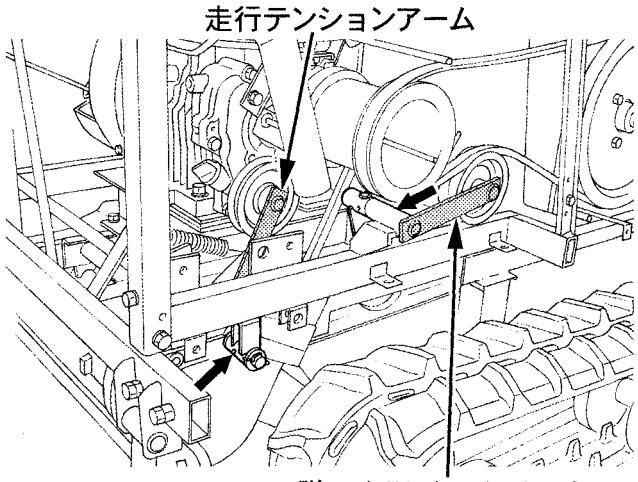


◆チェーンレール関係

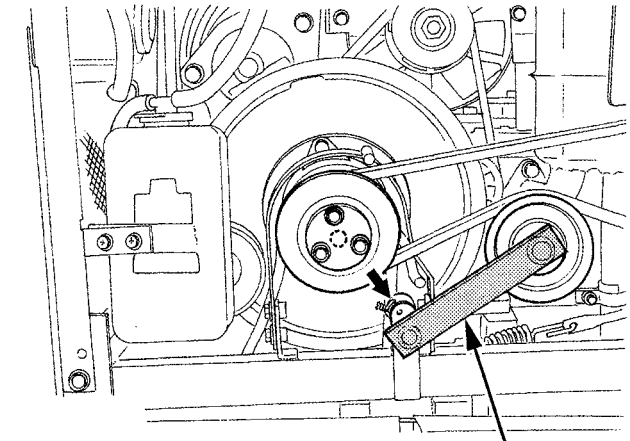


◆テンションアーム関係

【51・61】



【451】

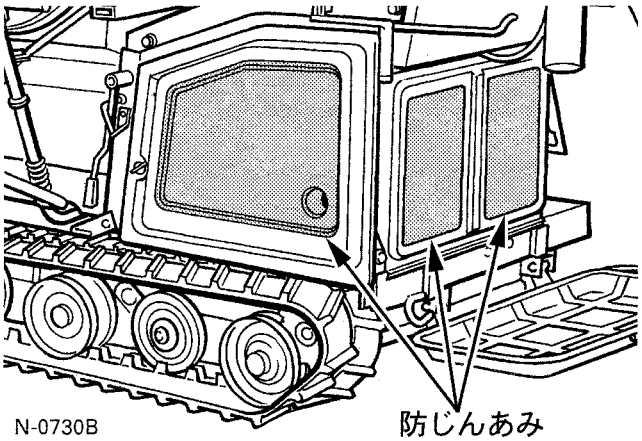


■ラジエータ防じんあみ，フィンの点検・清掃【451・651・751】

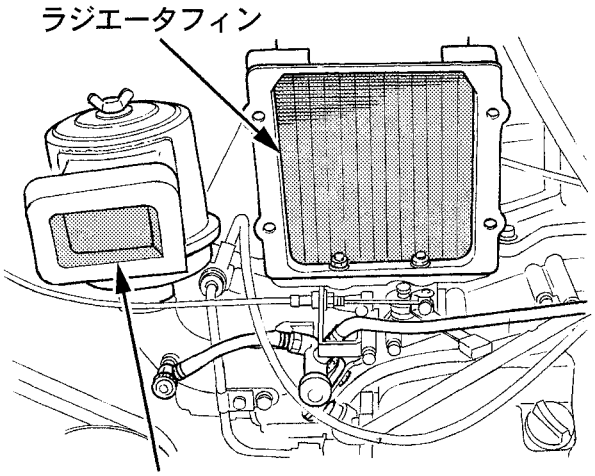
警 告

＊点検をするときは，エンジンを必ず停止してから行なってください。

ハーベスタを使用しているうちに，ラジエータの防じんあみにわらくずやごみが付着して，目詰まりを生じます。このような場合は冷却能力が低下しますので，防じんあみを開いて，目詰まりを洗い落としてください。
ラジエータフィンとチューブの間に詰まっているごみを，きれいに取除いてください。



N-0730B



N-0431D

重 要

＊ヘラやドライバなど固いもので清掃しないでください。特殊フィンを傷め，ラジエータの機能を低下させる原因になります。
＊エアクリーナの吸入口には絶対水をかけないでください。エンジン不調又は破損の原因となります。

補 足

＊圧縮圧気を利用すればすみずみまで清掃できます。

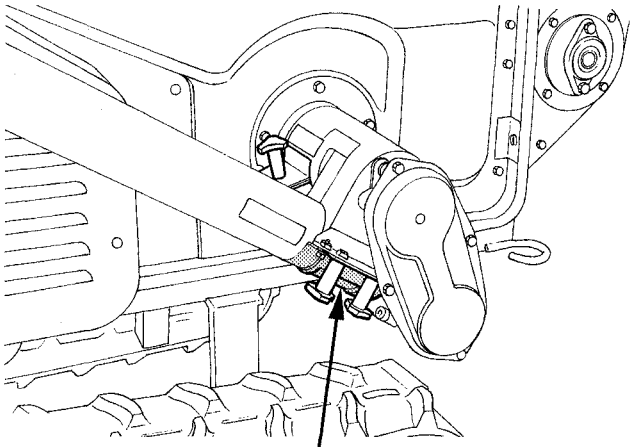
■機内，マフラ周りの点検・清掃

警 告

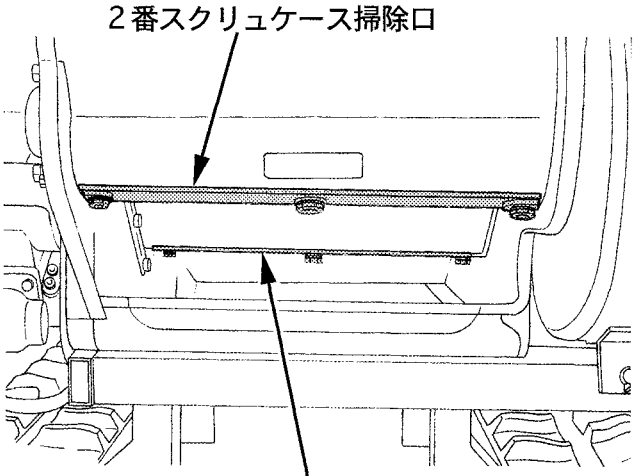
＊清掃する場合は，回転物などたいへん危険ですので，必ず脱こくクラッチを切り，エンジンを必ず停止してから行なってください。

注 意

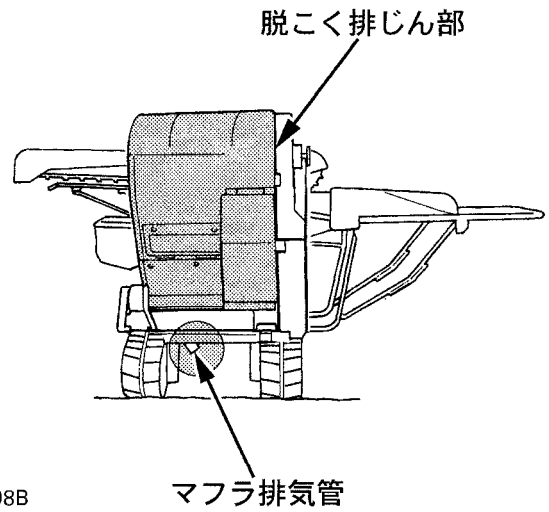
＊空運転するときは必ずこぎ胴をセットして，カッタを閉じてください。



N-0365A改



N-0366A



N-0698B

重　要

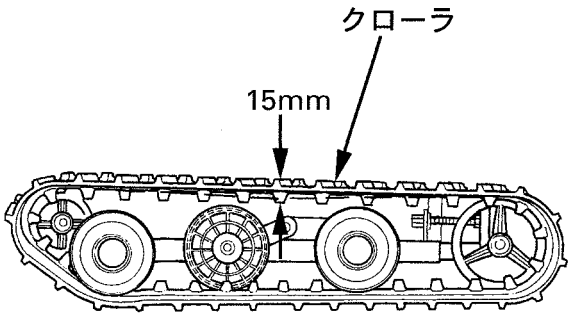
＊水洗するときは，電装品にできるだけ水をかけないようにしてください。故障の原因になります。
＊掃除口を閉じるときは，レバーを２・３回動かして掃除口にこく粒の付着がないことを確かめてから閉じてください。
＊機内はよく乾燥させてから掃除してください。もれているとこく粒が機内に付着して残留こく粒が多くなります。
＊掃除の後，掃除口には確実にふたをしておいてください。ふたを忘れるとこく粒が飛散します。

補　足

＊品種混合を避けたいときや，収穫シーズンが終ったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。
＊お手持ちの動力散布機や，コンプレッサ，電気掃除機を使用すれば，きれいに掃除できます。

■クローラの点検・調整

クローラの自重で15㎜以上のたわみになったら調節してください。（調整の詳細は68ページ参照）



N-0554A

■ベルトの点検・調整

警　告

＊各ベルトの点検・調整をするときはエンジンを必ず停止して行なってください。

各ベルトの点検・調整は61ページを参照してください。

定期点検

■エンジンオイルの点検・交換

警 告

＊オイルの交換をするときは，エンジンを必ず停止して，じゅうぶん冷えた状態で行なってください。
＊オイル交換中は火気厳禁です。

◆点検とオイルの種類

点検と適正油量については**“日常点検の点検・補給”**の項を参照してください。また使用オイルは下記のオイルを使用してください。

51・61

気　温	オイルの種類	オイル量
夏	クボタ純オイル G30	0.6L【51】 0.9L【61】
冬	クボタ純オイル G20W20	

51・61

451・651・751

オイルは，クボタが研究開発した，オールシーズン用クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用) D10W30をお使いください。
なお，クボタ純オイルの入手が困難な場合は，CC級以上のオイルをお使いください。この場合は気温により下表のように使い分けてください。

気　温	オイルの種類	オイル量
15℃以下	D10W30	0.9L【451】 2.3L【651・751】
15℃以上	D10W30 又はD30	

451・651・751

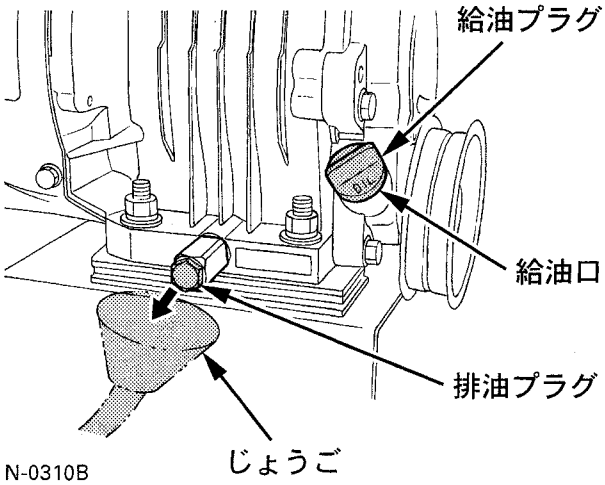
重　要

＊指定のオイル以外は使用しないでください。指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。

◆排油のしかた

51・61

エンジン下部にある排油プラグを外して，エンジンケース内のオイルを排出します。このときじょうごやオイル受けの皿を用意し排出してください。



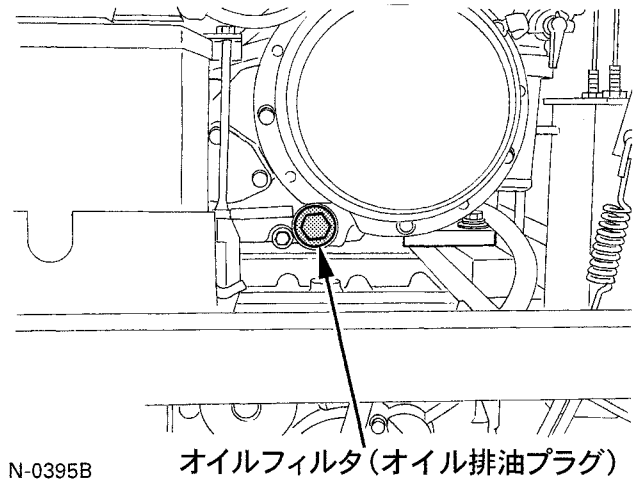
N-0310B

51・61

451・651・751

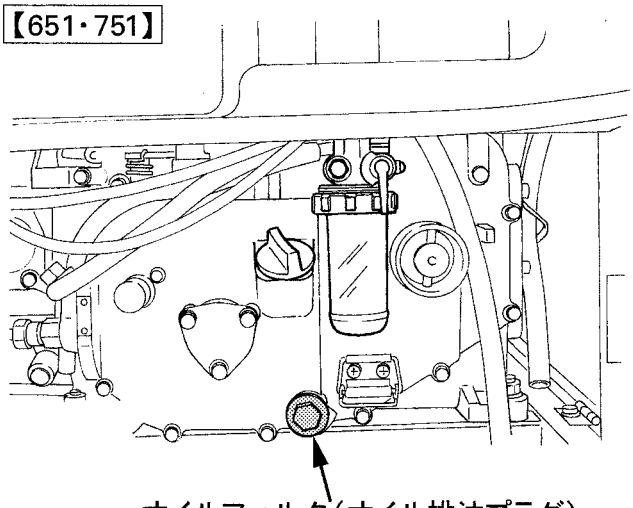
1. オイルフィルタを外して，エンジンケース内のオイルを全部排出します。このときじょうごやオイル受けの皿を用意し排出してください。
2. オイルフィルタとエンジンケース内を軽油で洗浄します。

【451】



N-0395B

【651・751】



N-0422D

451・651・751

◆給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から適量給油し，オイル給油プラグをきちんと締付けてください。

■トランスミッションケースオイルの点検・交換

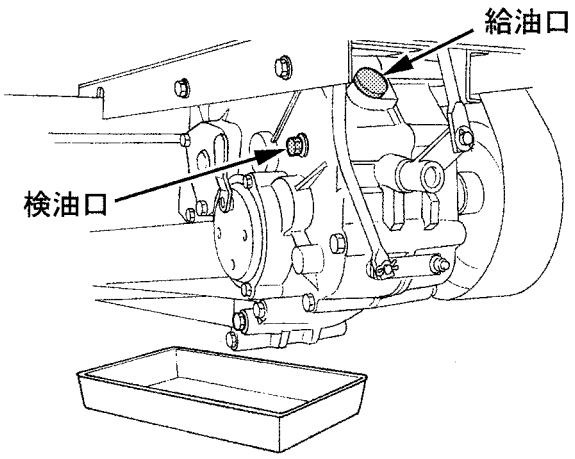
＊オイルの交換をするときはエンジンを必ず停止して，じゅうぶん冷えた状態で行なってください。
＊オイル交換中は火気厳禁です。

◆点検のしかた

オイルが少ない場合，検油口いっぱいまで補給してください。

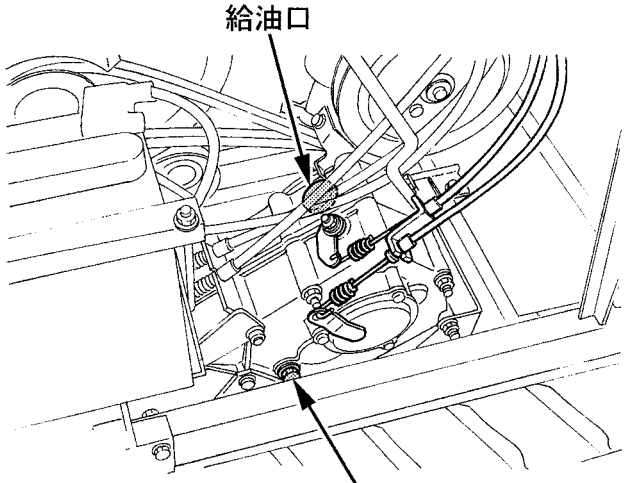
点検補給	交　換	
毎日使用前	第１回目	その後
	50時間目	100時間ごと

【51・61・451】



N-0525A

【651・751】



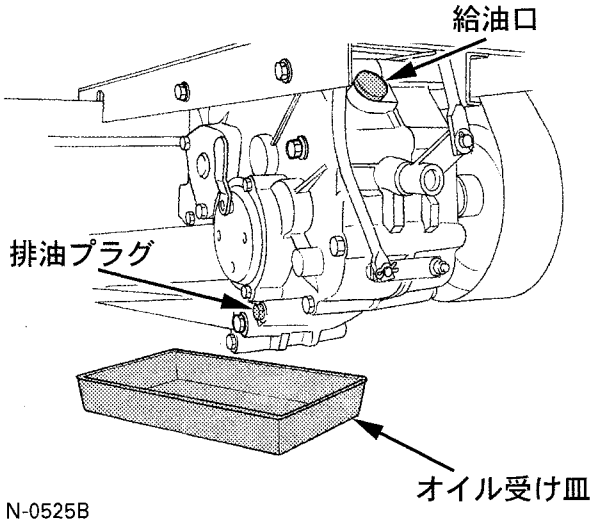
N-0526A

オイルの種類	オイル量
クボタ純オイル M80B又はM90 （ミッション用）	2.2L【51・61・451】 2.7L【651・751】

◆排油のしかた

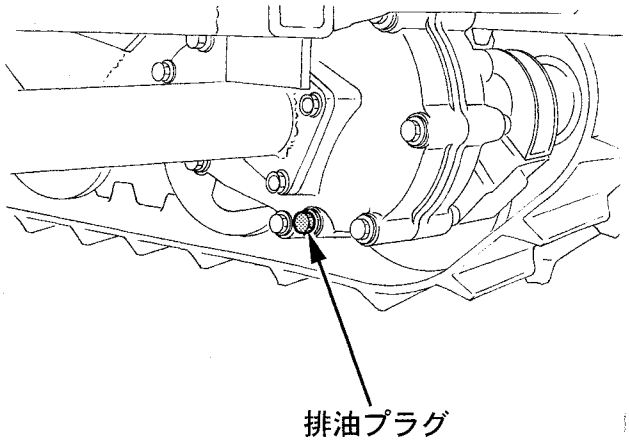
ミッションケース下部にある排油プラグを外して，ミッションケース内のオイルを排出します。このときオイル受け皿を用意し排出してください。

【51・61・451】



N-0525B

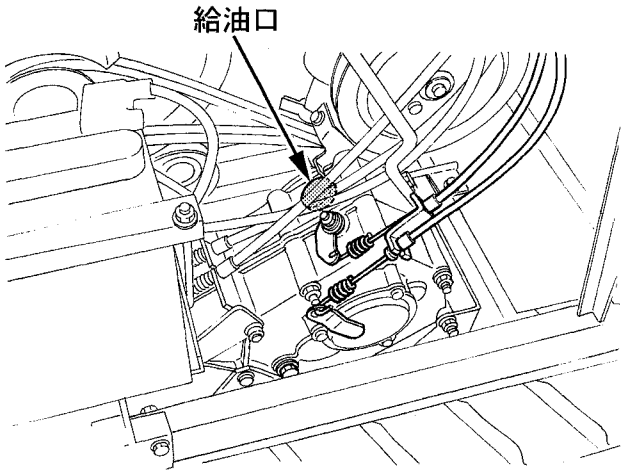
【651・751】



N-0436A

◆給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から適量給油し，オイル給油プラグをきちんと締付けてください。

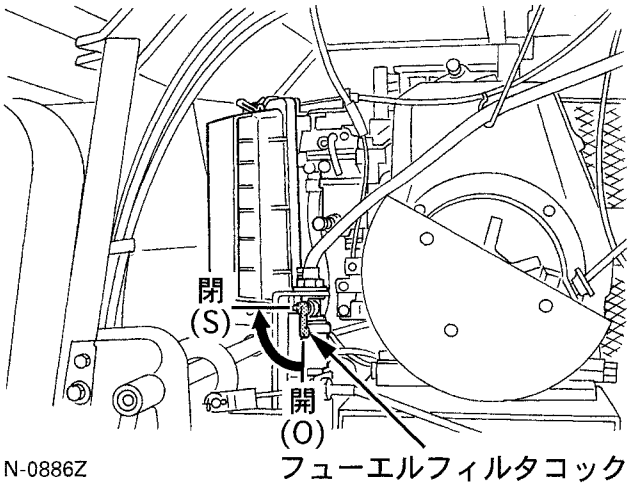


N-0526B

■フューエルフィルタの点検・清掃・交換

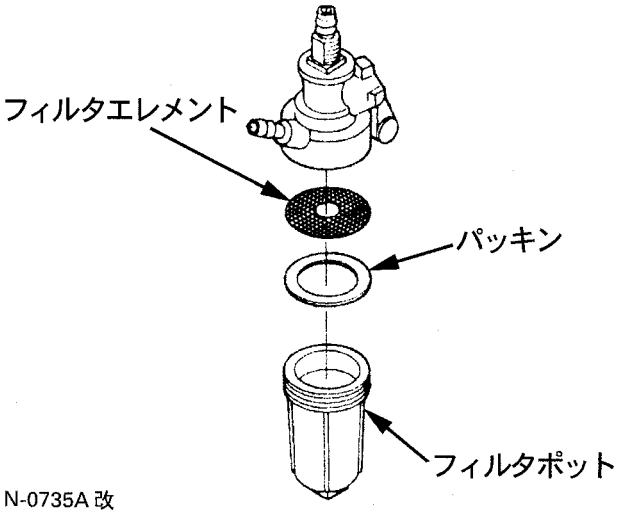
51・61

1. フューエルフィルタコックを“閉”(S)にしてください。



N-0886Z

2. フィルタポットをゆるめて取外し，内部及びパッキンをガソリンで洗浄します。
3. 新しいフィルタエレメントと交換します。(交換必要のとき)



N-0735A 改

4. フィルタポットを締付けます。このときフィルタエレメントとパッキンを忘れずに締付けてください。

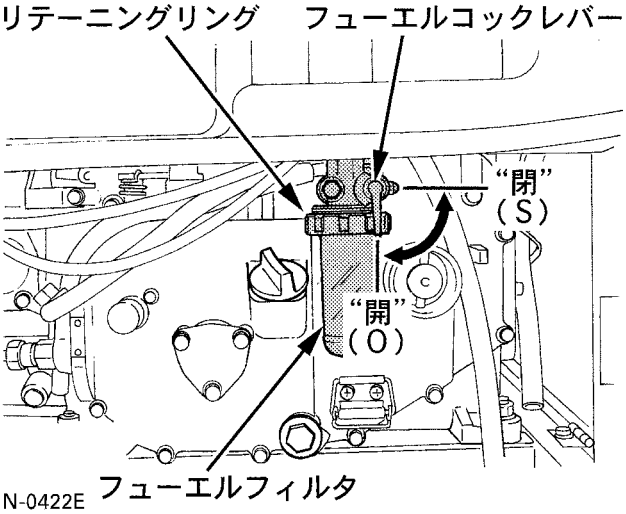
重　要

＊組付けるときは，ちりやほこりが付着しないように注意しましょう。

51·61

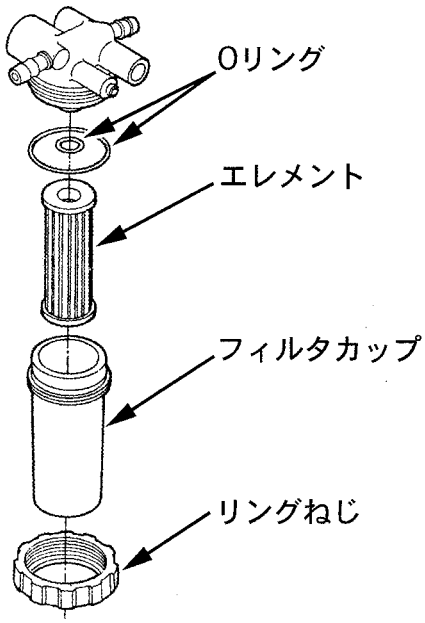
451·651·751

1. フューエルフィルタのコックを**“閉”(S)**にしてください。



N-0422E

2. リテーニング(リングねじ)をゆるめてフィルタカップを取外し内部及びOリング(2個)を軽油で洗浄します。
3. 新しいフィルタエレメントと交換します。(交換必要のとき)



N-0159A

4. フィルタカップを取付けたリテーニング(リングねじ)で締付けてください。このときOリング(2個)を忘れずに締付けてください。

重　要

＊燃料内にちりやほこりが混入すると，フューエルポンプや噴射ノズルが摩耗しますので，フューエルフィルタの洗浄には，特にちりやほこりが混入しないよう注意してください。
＊フューエルフィルタの清掃・交換後はエア抜きを必ず行なってください。

451·651·751

補　足

＊清掃の場合も同じ要領で行なってください。

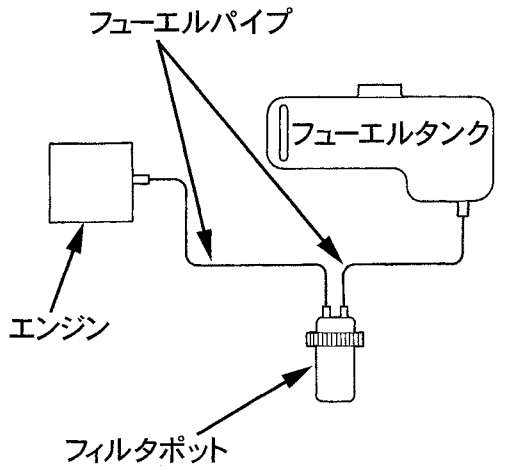
■フューエルパイプの点検・交換

警 告

＊ゴムホースが損傷していると，燃料もれを起します。

燃料系ゴムホースは，使わなくとも老化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごと又は，傷んだときには新品と交換する必要があります。

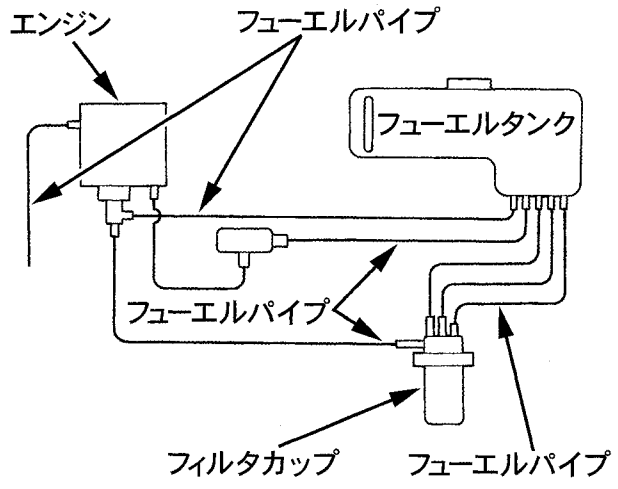
51·61



N-0556A

51·61

451·651·751



N-0557A

重 要

＊交換時にパイプや，噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

＊フューエルパイプ交換後は，エア抜きを必ず行なってください。

451·651·751

■燃料のエア抜き【451·651·751】

燃料のエア抜きは次項のようなときに行なう必要があります。

- フューエルフィルタ及びフューエルパイプを取外したとき。（清掃・交換後など）
- 燃料切れが起きたとき。
- 長時間使用しなかったとき。

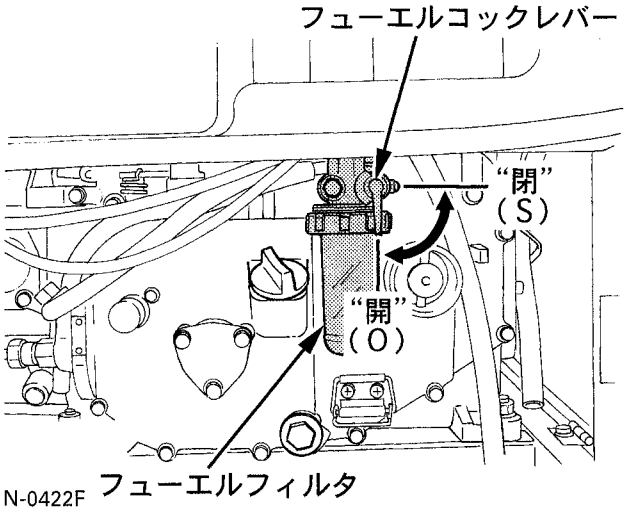
◆エア抜きのしかた

1. フューエルコックレバーを“閉”(S)から“開”(O)の位置にして約20秒待ちます。

補 足

＊自動エア抜き装置付きですのでフューエルコックレバーを開くとパイプ・フィルタ内のエアが自動的に抜けます。

2. 運転は“開”(O)の位置で行ないます。



N-0422F

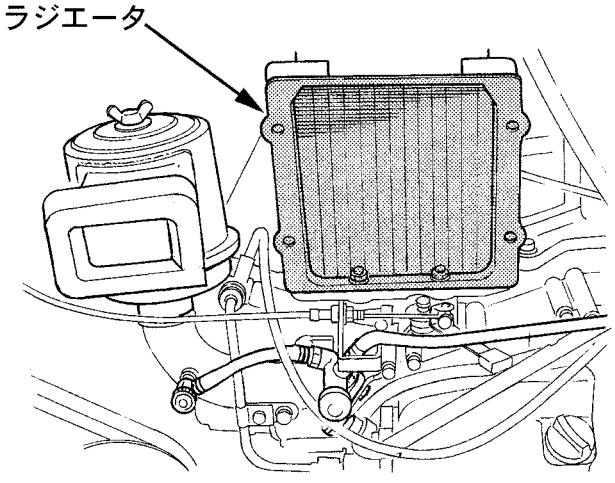
■ラジエータの点検【451･651･751】

警 告

＊点検をするときは，エンジンを必ず停止してから行なってください。
＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。
＊異なるメーカの不凍液を混用しないでください。

作業中，溢水が止まらずにラジエータ内の水管上端が露出するほど水が減るような場合は，次の点検をしてください。

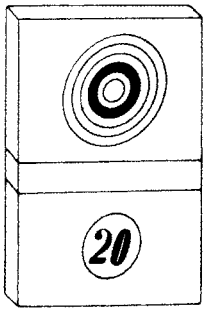
1. ハーベスタを使用しているうちに，ラジエータの防じんあみにわらくずやごみが付着して，目詰まりを生じます。このような場合は冷却能力が低下しますので，防じんあみを開いて，目詰まりを洗い落としてください。
2. ラジエータフィンとチューブの間に詰まっているごみを，きれいに取除いてください。
3. ファンベルトがゆるんでいれば張ってください。（63ページ参照）
4. ラジエータ水管に水あかがたまっていれば，ラジエータ洗浄剤で洗浄を行なってください。



N-0431F

補 足

＊洗浄には，**“クボタラジエータ洗じょう剤No.20”**を使用すれば，水あかなどきれいに洗浄できます。
＊２年使用ごと
＊不凍液を混入するとき
＊不凍液混入から水だけに変えるとき
などに使用してください。



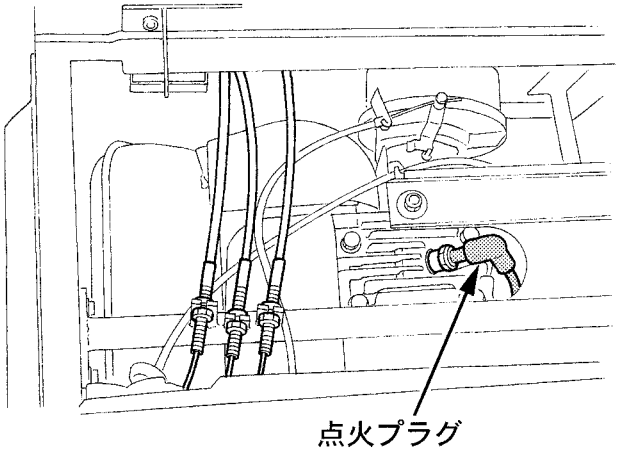
Z-1009A改

＊冷却水の交換については70ページを参照してください。

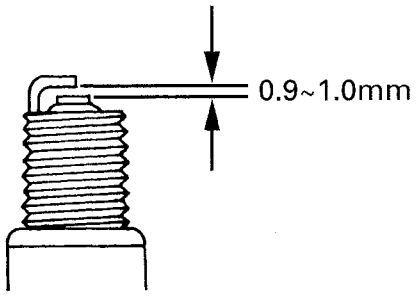
■点火プラグの点検・調整【51・61】

1. 点火プラグがカーボンで汚れている場合には，プラグクリーナ，又はワイヤブラシなどで汚れを落としてください。
2. 電極のすき間が広いときは，0.9～1.0㎜(ハガキ2～3枚分の厚さ)に調整してください。

使用プラグ	NGK BP4HS-10又は デンソー W14FP-UL10
品　　番	13742-6771-0



N-0529B



Z-1012A

■バッテリの点検【セル仕様】

危　険

＊バッテリのガスは爆発のおそれがありますので近くに裸火(マッチ，ライター，タバコの火など)は絶対に近づけないでください。
＊バッテリ液(希硫酸)の取扱いはじゅうぶん注意し，目，皮ふ，衣服にもし付着した場合はすぐ水で洗い流してください。状況によっては医師の治療を受けてください。
＊バッテリ取扱い時は必ず保護具を着用してください。（保護めがねや手袋など）

警　告

＊バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止してください。

◆バッテリの取付け，取外し

注　意

＊バッテリを取外すときは，バッテリ⊖コードを最初に外し，次に⊕コードを外してください。
＊取付けるときは，必ず⊕側から取付けます。
逆にすると，工具が当たった場合にショートします。

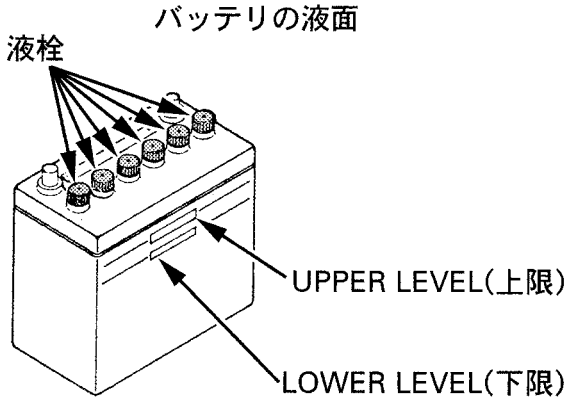
◆バッテリ液の点検

警　告

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの2種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。

＊バッテリは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。

バッテリの電解液が液面線にあるかどうか点検し，不足のときは精製水を補充してください。



F-1009B

◆補水のしかた

1. バッテリ上ふたの液栓を外します。
2. 6個の補水穴から精製水を均一に上側の線(レベル)まで補水します。
3. 液栓をもとの穴にねじ込みます。

重 要

＊電解液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。
＊電解液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸，井戸水，泥水などは絶対に入れないでください。
＊精製水を多く入れすぎるとこぼれ出て，機体を傷めます。必ず液面線内に入れてください。
＊エンジンの始動がしにくくなってきましたら，早めに補充電をしてください。
＊使用しているバッテリの型式は，
【61・451】…… “26A19L(12N24-3)”
(容量5時間率，21Ah)
【651・751】…… “38B20L”
(容量5時間率，28Ah)
です。
＊指定外のバッテリは使用しないでください。

◆補充電のしかた

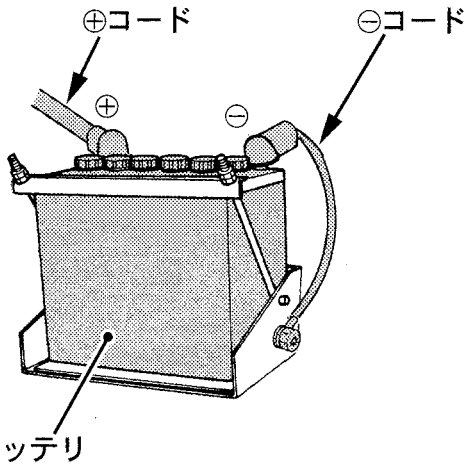
警 告

＊バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
バッテリは充電中可燃ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

- バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電はできるだけ避けてください。急速充電を行なった場合は，なるべく早く普通の充電を行なってください。
- バッテリコードを接続するときは，⊕と⊖を間違えないようにしてください。間違えるとバッテリと電気系統が故障します。
- 充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕側に，バッテリの⊖を充電器の⊖側にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。
コードの接続をまちがわないように注意してください。

◆バッテリコードの点検

バッテリコード（⊕，⊖）が損傷していると，ショートを起すので点検して，交換してください。



N-0454A

■電気配線とヒューズの点検・交換

注 意

＊点検・交換をするときは，エンジンを必ず停止してから行なってください。
＊ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートを起すので必ず点検してください。

◆電気配線の点検

配線のターミナル(端子)部のゆるみは接続不良になり，また配線が損傷していると電気部品の性能をそこなうだけでなくショート(短絡)，ろう電又は焼損など思わぬ事故になることがあります。傷んだ配線は早めに交換・修理してください。

重 要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙等で代用せず，ご購入先で点検，修理してください。

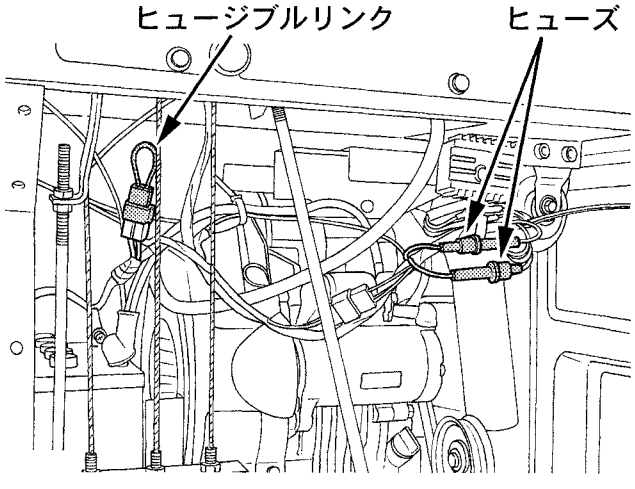
◆ヒューズの点検・交換【セル仕様】

1. ヒューズを外す。
2. 切れたものと同容量のヒューズと交換する。

◆ヒュージブルリンクの交換【セル仕様】

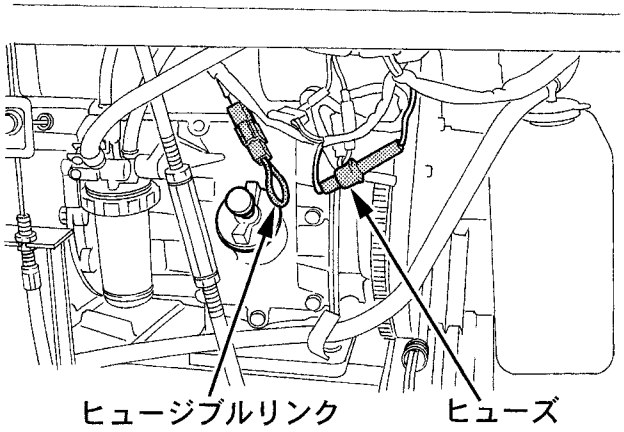
“ヒュージブルリンク”は，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。

【61】



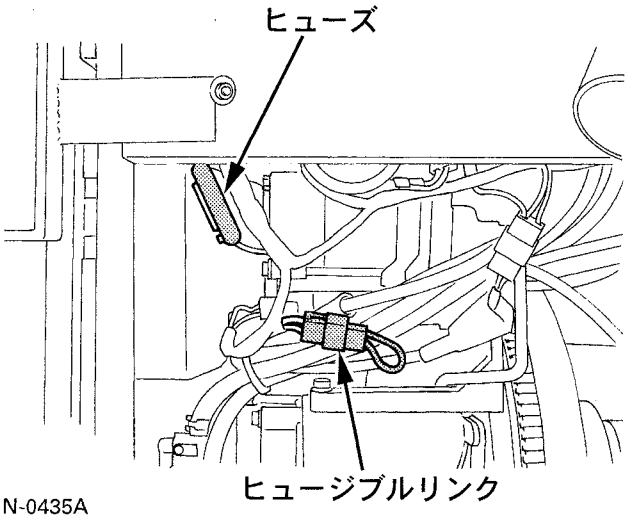
N-0353A

【451】



N-0396A

【651・751】



N-0435A

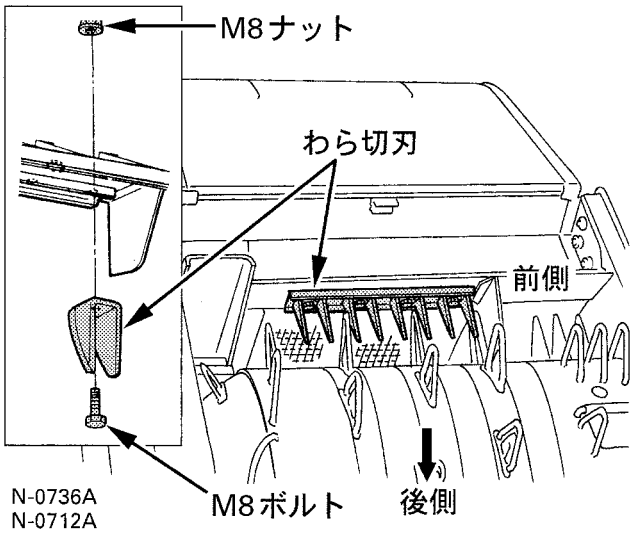
■わら切刃の点検・交換

警 告

＊わら切刃の点検・交換をするときは，エンジンを必ず停止してから行なってください。

◆交換のしかた

1. 脱こく部のこぎ胴カバーを開けてください。
2. わら切刃締付けボルト・ナットをゆるめてわら切刃を外してください。
   - 【51・61・451・651】前側…３個　後側…２個
   - 【751】　　前側…４個　後側…２個
3. 取付けは，ボルト・ナットを確実に締付けてください。



N-0736A
N-0712A

◆研摩のしかた

わら切刃が切れなくなると，こぎ胴室内に発生するわらくずを細かく切断できなくなるため，わらくずの移動が悪くなり，必要以上の動力を消費するばかりでなく，排じん選別室に送られたわらくずがブロワに吸引されにくくなって，２番スクリュに巻ついたり，２番スロワに詰まったりしますので，50～100アール使用ごとに研摩をしてください。

研摩はわら切刃を外して行なってください。

■フィードチェーンの点検・調整

警 告

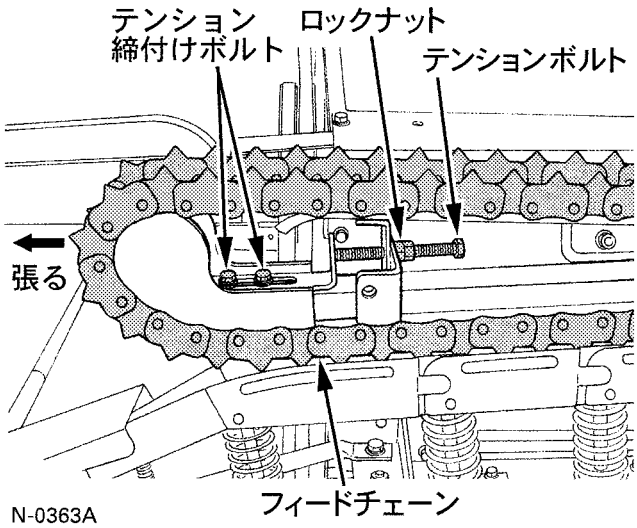
＊フィードチェーンの調整をするときは，エンジンを必ず停止して行なってください。

◆フィードチェーンの張り方

1. 案内パイプを外す。
2. チェーンカバーを外す。
3. テンション締付けボルトをゆるめる。
4. ロックナットをゆるめ，テンションボルトを締付ける。(フィードチェーンを張る)
5. ロックナット及びテンション締付けボルトを締め，チェーンカバーと案内パイプを取付ける。

重 要

＊フィードチェーンがゆるんだ状態で使用すると，チェーンがスプロケットに乗り上げたりして故障の原因になります。



N-0363A

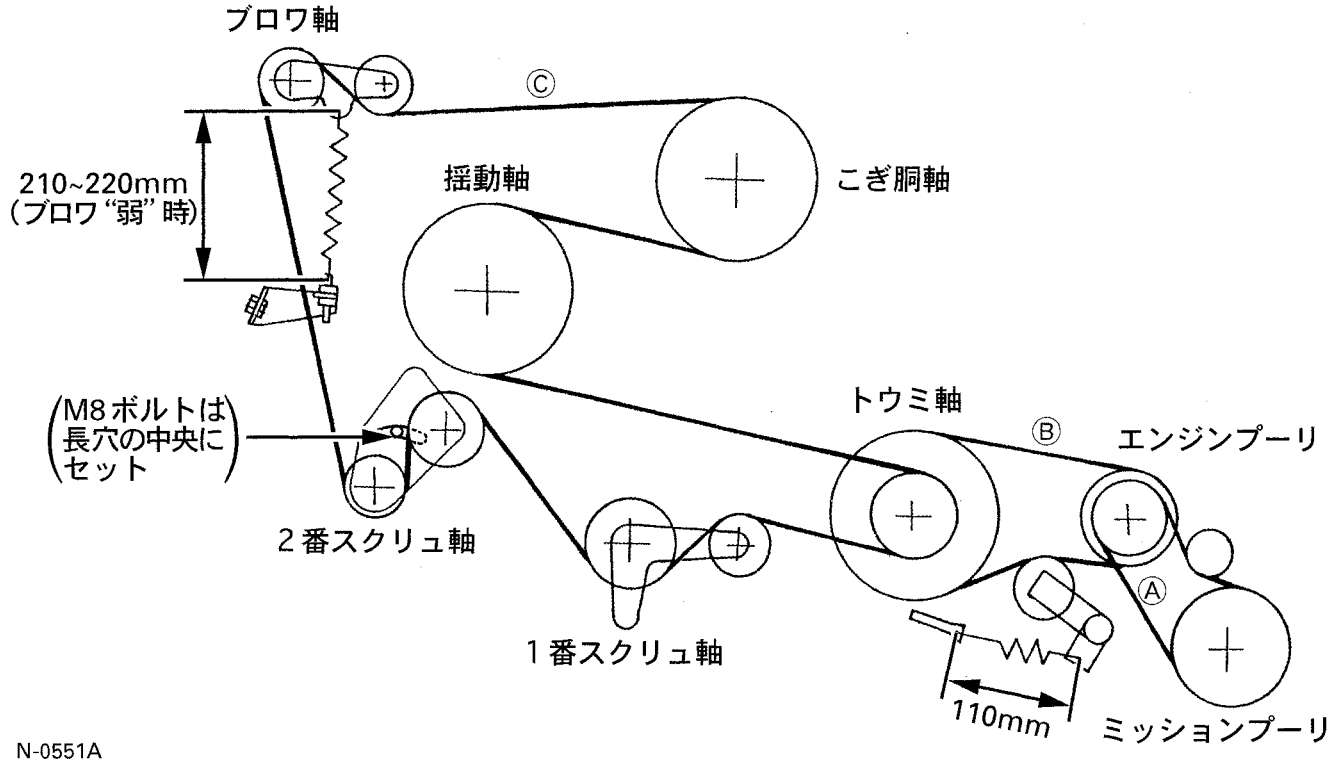
定期点検

■各部ベルトの張り点検・調整

警 告

＊各ベルトの張り調整・交換をするときは，エンジンを必ず停止して行なってください。

【51・61・451】

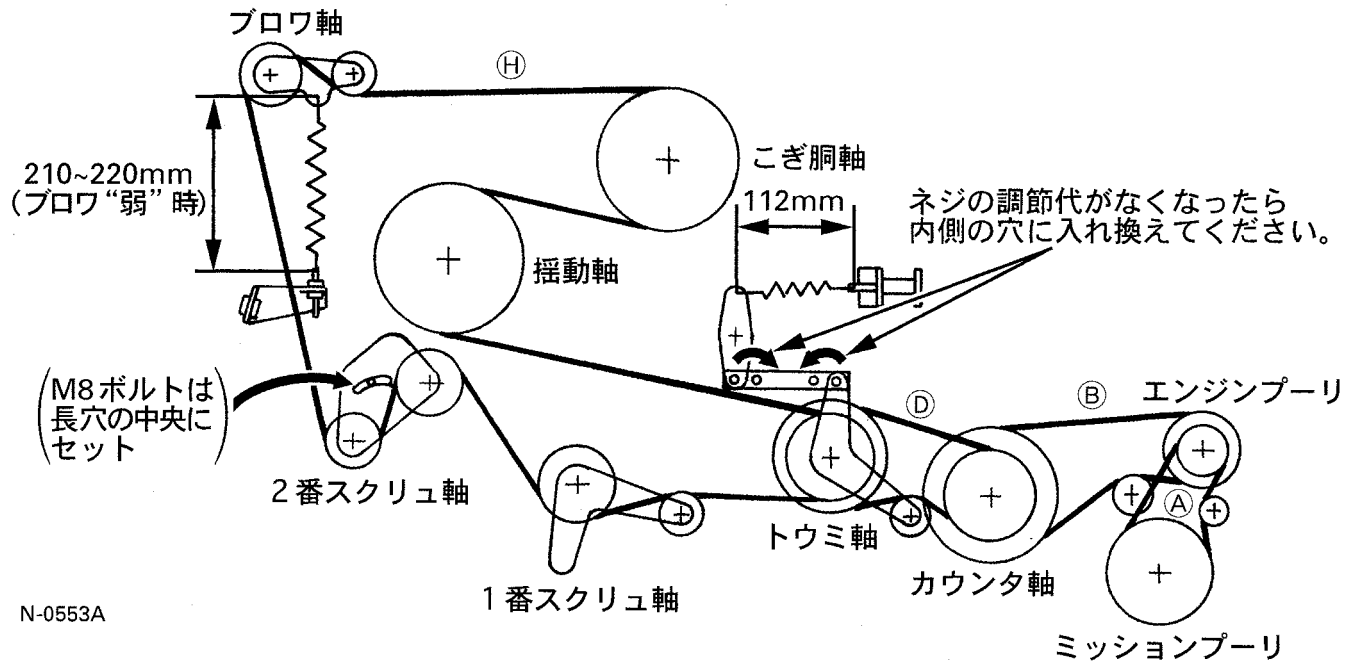


N-0551A

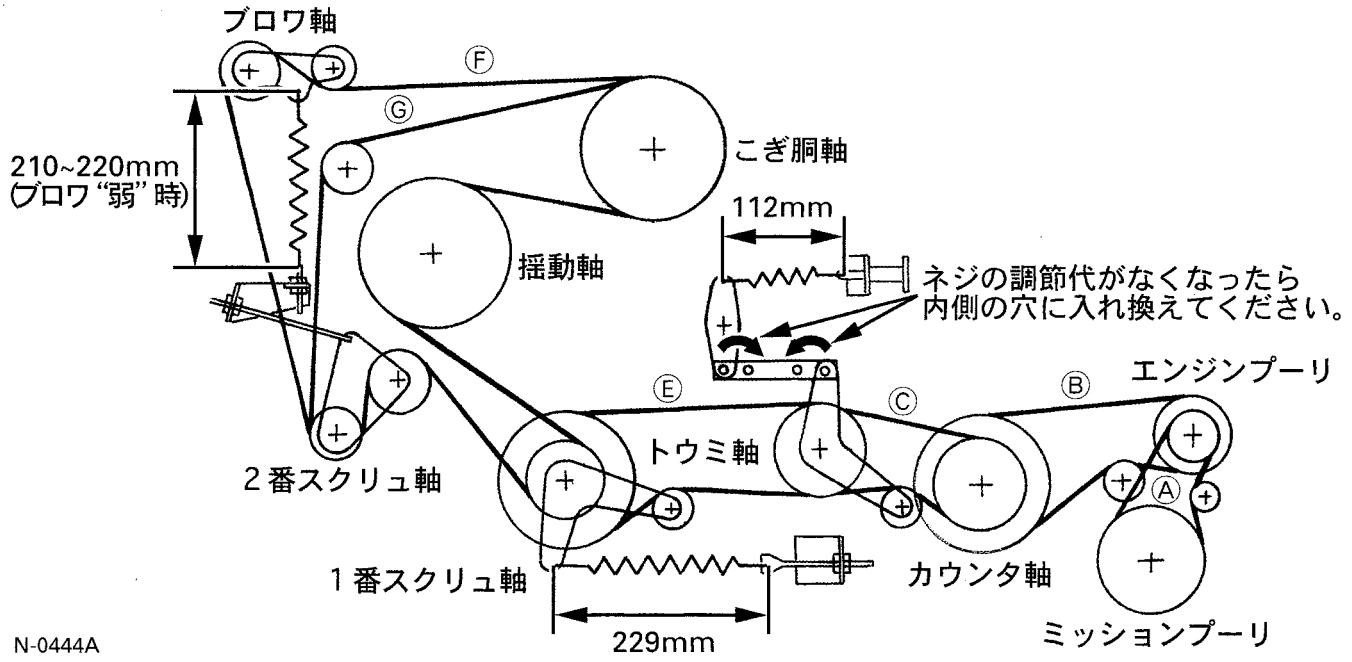
	51	61	451
エンジン↔ミッション	Ⓐ特B43		Ⓐ特B37
エンジン↔脱こく	Ⓑ 特B56 ホワイトイエロ		Ⓑ特B62
脱こく	Ⓒ特B165	Ⓒ 特B165 ホワイトイエロ	Ⓒ特B165

定期点検

【651】



【751】



	651	751
エンジン↔ミッション	Ⓐ特B39	
エンジン↔カウンタ軸	Ⓑ特C49.5	
カウンタ↔トウミ軸	Ⓓ特B44	Ⓒ特C40
トウミ↔1番スクリュ軸	—	Ⓔ特C53
脱こく	Ⓗ 特B165 特ホワイトイエロ	Ⓕ特B133, Ⓖ特B120

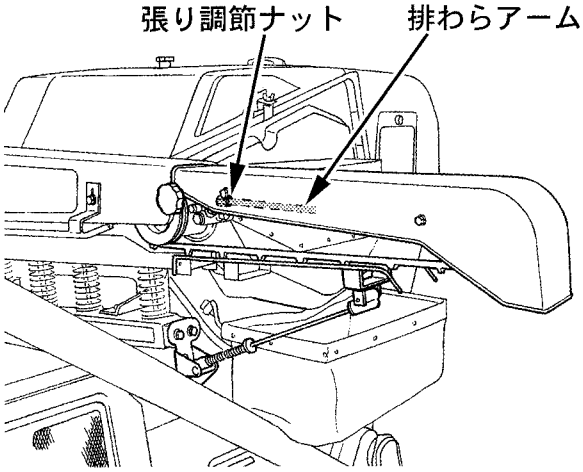
定期点検

◆脱こくベルト

脱こく駆動ベルトがスリップするときは，脱こくクラッチレバーを**“入”**にして各スプリングを下記図にあわせて張りボルトで調節してください。
(**【51・61・451】**はテンションスプリングが110㎜になるように張りボルトで調節してください)

◆排わらベルト

長時間使用すると，排わらベルトが伸びてきますので，セットボルトをゆるめ，排わらアームをナットにてベルトを張ってください。
張り調整後はセットボルトを締付け，ロックナットで確実に固定してください。



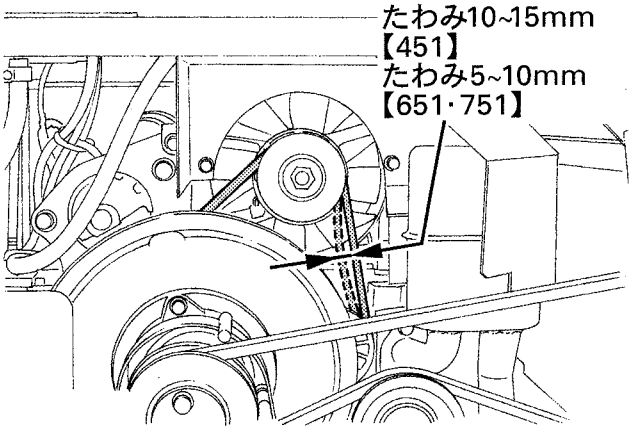
N-0346B

重　要

＊張りすぎますと，アームが曲ってしまいますので，張りすぎには注意してください。

◆ファンベルト【451・651・751】

ファンベルトは，プーリとプーリの間を指で押えて，**【451】**は10～15㎜，**【651・751】**は５～10㎜たわむ程度に張ってください。
張るときは，ボルトをゆるめ，ドライバなどでベルトを張ってから，ボルトを固く締付けてください。



N-0416A

重　要

＊ベルトの張りが弱いまま運転すると，ベルトがスリップし，エンジンの冷却能力が低下するだけでなく，寿命を短くするので，常に点検して適正な張りを保ってください。
＊ファンベルトが切れた場合は，切れてからしばらくするとラジエータ内の蒸気が噴出し続けるのですぐにエンジンを停止してベルトを交換してください。

■ワイヤの点検・調節

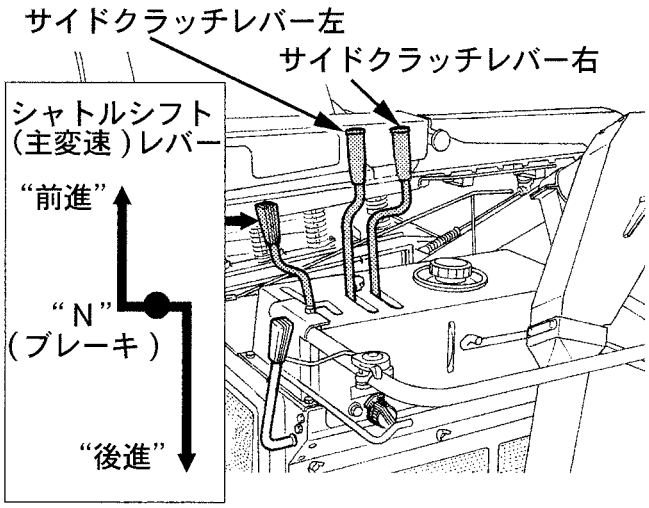
警 告

＊ワイヤの調節・交換を行なうときは，エンジンを必ず停止してください。

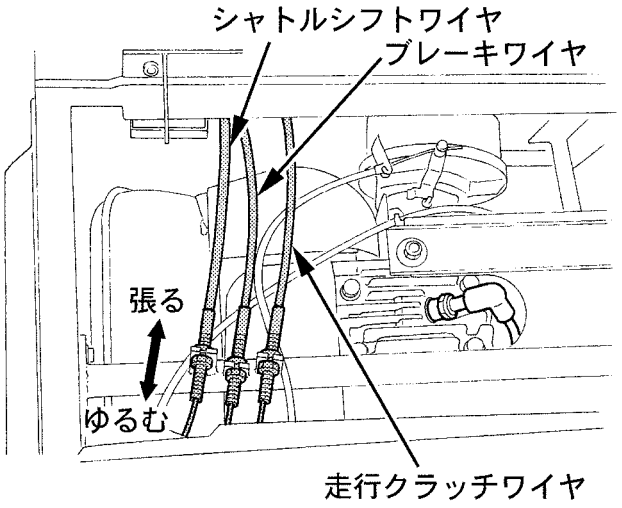
● レバーとワイヤの関係とワイヤの調節方向

1. シャトルシフト(主変速)レバーを“前進”“後進”に操作すると，走行クラッチワイヤとブレーキワイヤが作動します。
2. シャトルシフト(主変速)レバーを“N(中立)”(ブレーキ)の位置で左右に操作すると，シャトルシフトワイヤが作動します。
3. サイド(操向)クラッチレバー左・右を操作するとサイドクラッチワイヤ左・右が作動します。

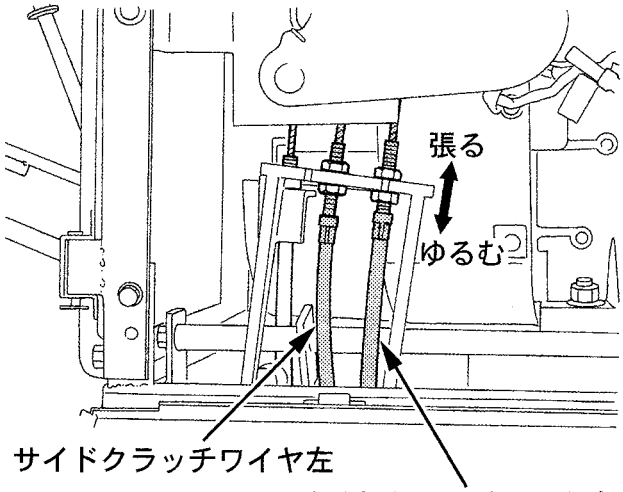
51・61・451



N-0688G



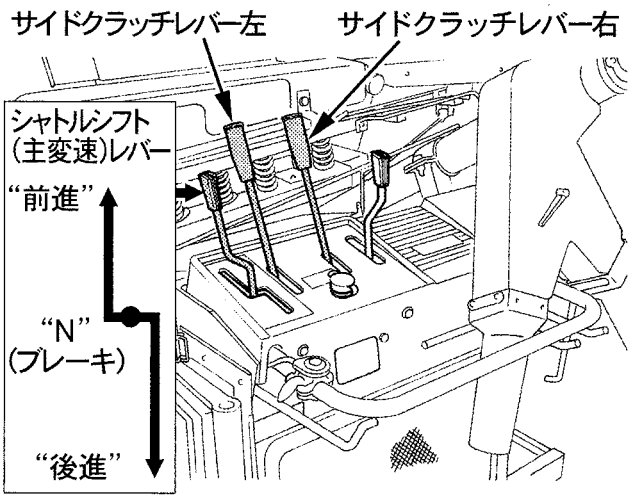
N-0529C



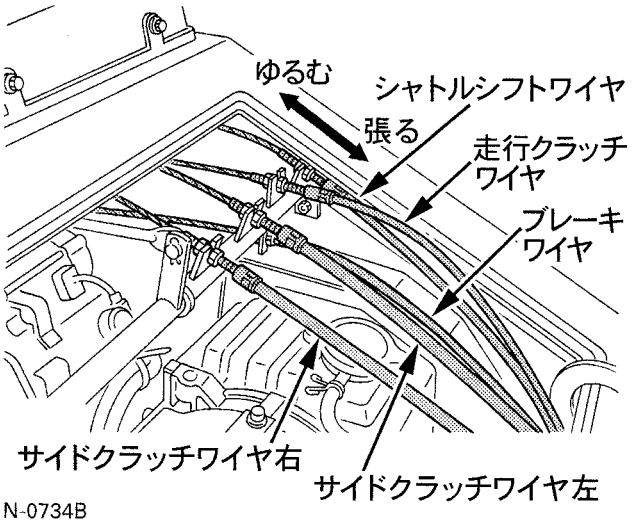
N-0686B

51・61・451

651・751



N-0679I



N-0734B

651・751

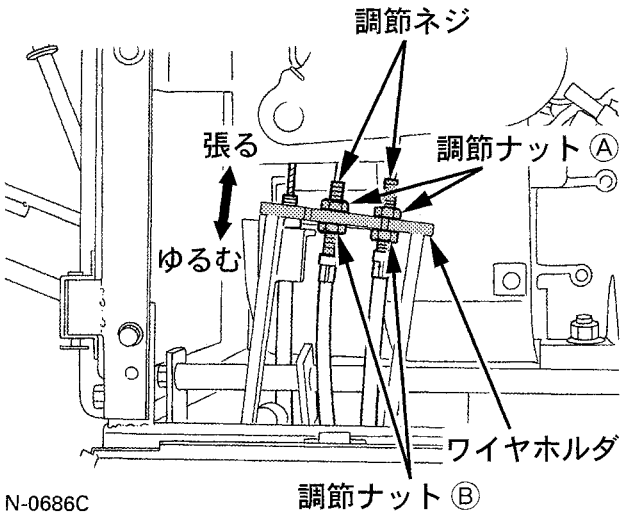
●調節のしかた

各ワイヤの調節は，ワイヤホルダの前後２箇所の調節ナット(ロックナット)と調節ネジで調節します。

各ワイヤの基準に合わせて調節を行なってください。

1. 調節ナット（ロックナット）Ⓐ とⒷをゆるめます。
2. 調節ナット（ロックナット）Ⓐを締付け（右回転）るとワイヤは **“ゆるみ”** ます。調節ナット（ロックナット）Ⓑを締付け（右回転）るとワイヤは **“張り”** ます。
3. 調節後は必ず前後２箇所の調節ナット（ロックナット）を確実に締付けてください。

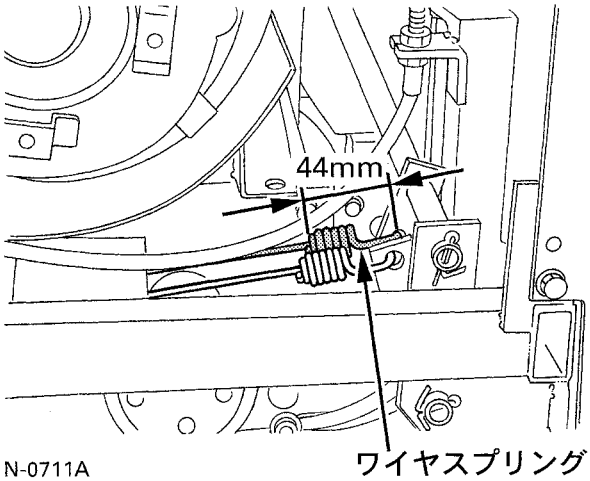
【例】



N-0686C

◆走行クラッチワイヤ

走行ベルトがスリップするときは，シャトルシフト(主変速)レバーを **“前進”** にして，ワイヤのスプリングが44㎜になるように調節してください。



N-0711A

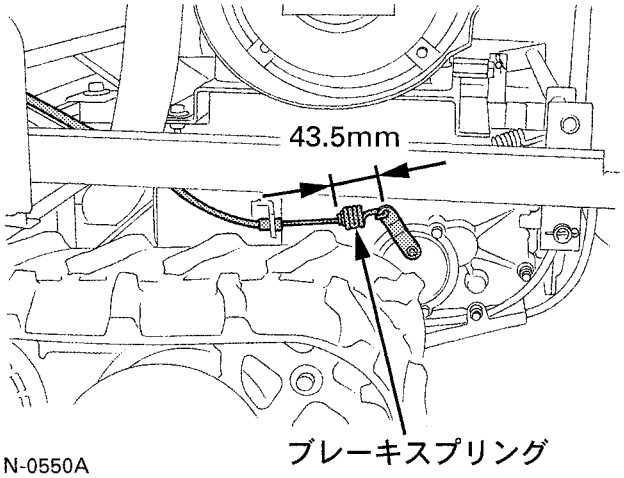
◆ブレーキワイヤ

シャトルシフト(主変速)レバーを **“N(中立)”** (ブレーキ)にしたとき，ブレーキスプリングが43.5㎜になるように調節してください。

43㎜以下…… ブレーキがきかなくなります。

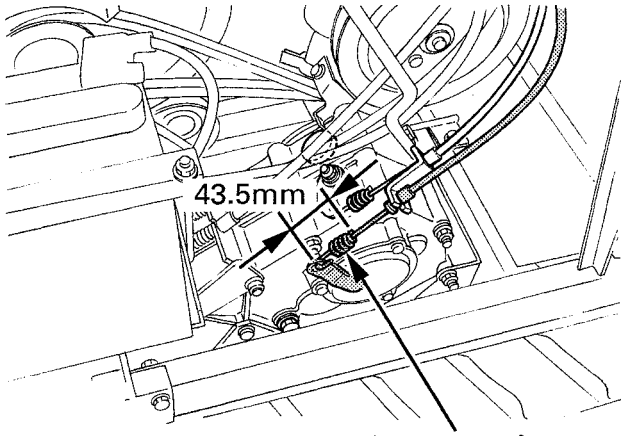
44㎜以上…… 走行クラッチが切れない間にブレーキが早く入り，走行ベルト，ブレーキシューが早くいたみます。

【51・61・451】



N-0550A

【651・751】



N-0526C

補　足

＊走行クラッチと連動のため，確実に調節してください。

◆シャトルシフトワイヤ

シャトルシフト(主変速)レバーを**“後進”**に入れても前進する場合，又はシャトルシフト(主変速)レバーを**“前進”**に入れても後進する場合は，次の事項について調整してください。

1. シャトルシフト(主変速)レバーを**“後進”**側に倒したとき，ミッション内部で**“カチカチ”**と音が出るまで調節してください。(爪クラッチが入るときの音)
2. シャトルシフト(主変速)レバーを**“N(中立)”**に戻して，さらに調節ネジを**“張る”**方向に，3～3.5回転回してください。

重　要

＊調節ネジを長く出しすぎると，シャトルシフト(主変速)レバーを**“前進”**に入れても後進し，調節ネジを短くねじ込みすぎると，シャトルシフト(主変速)レバーを**“後進”**に入れても前進します。

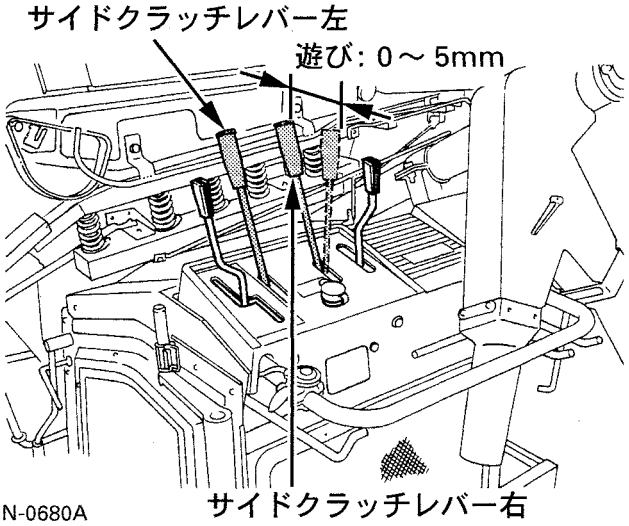
◆サイドクラッチワイヤ右・左

サイド(操向)クラッチレバーの遊びが多くなったら，サイド(操向)クラッチワイヤ右・左の調節ネジを**“張る”**方向へ調節してください。

レバーの遊び

5㎜以上……　サイド(操向)クラッチレバーを引いても旋回しません。

0㎜以下……　サイドクラッチの爪(ミッションの内部)が外れ，動かなくなります。

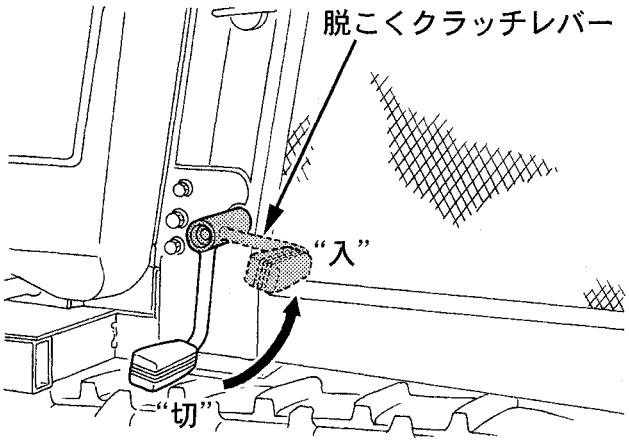


N-0680A

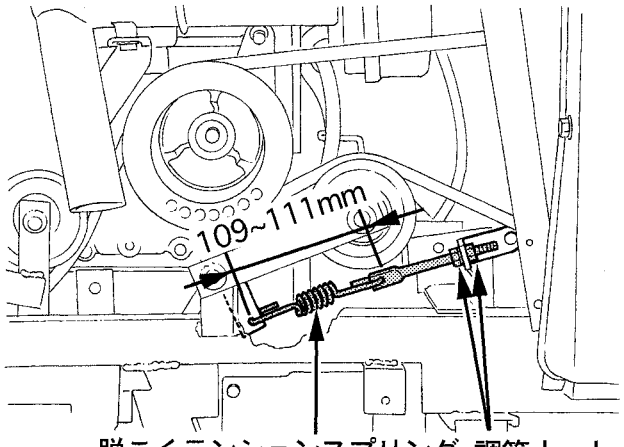
◆脱こくクラッチワイヤ

51·61·451

エンジン←→脱こく駆動ベルトがスリップする場合は，脱こくクラッチレバーを**“入”**にして脱こくテンションスプリングが109～111㎜になるように張り，ボルトを調整してください。



N-0885C

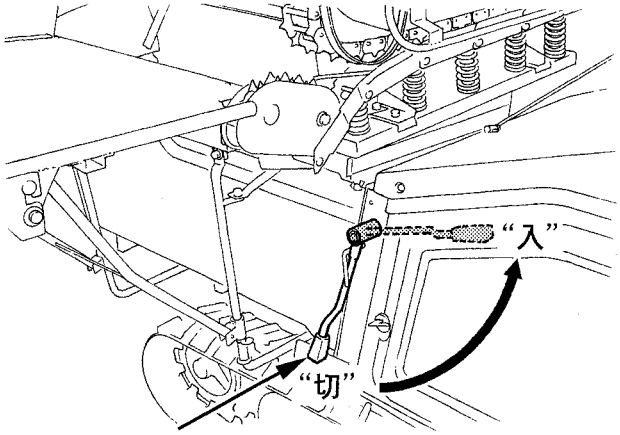


N-0565A

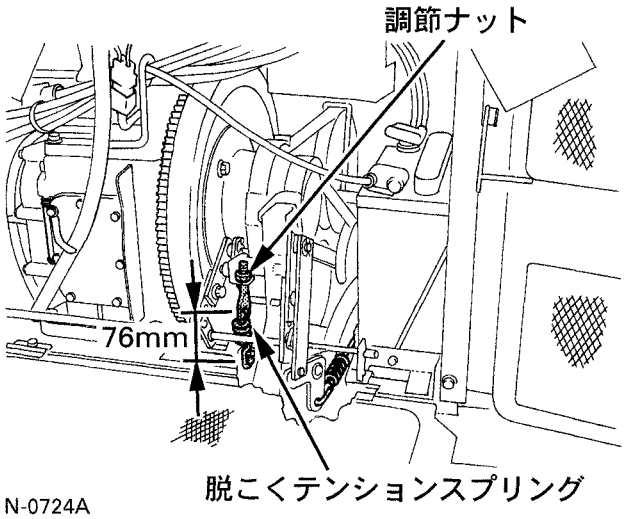
51·61·451

651·751

エンジン←→カウンタベルトがスリップする場合は，脱こくクラッチレバーを**“入”**にして脱こくテンションスプリングが76㎜になるように張り，ボルトを調整してください。



N-0731D



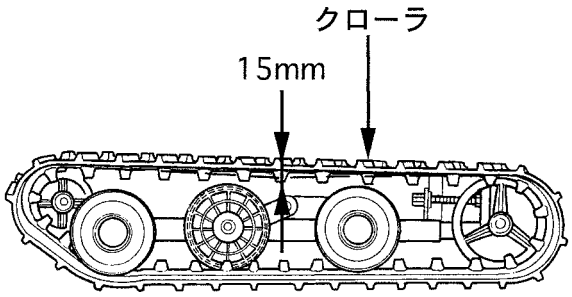
N-0724A

651·751

■クローラの点検・調整

◆クローラの点検

クローラの自重で15㎜以上のたわみになったら調節してください。



N-0554B

重　要

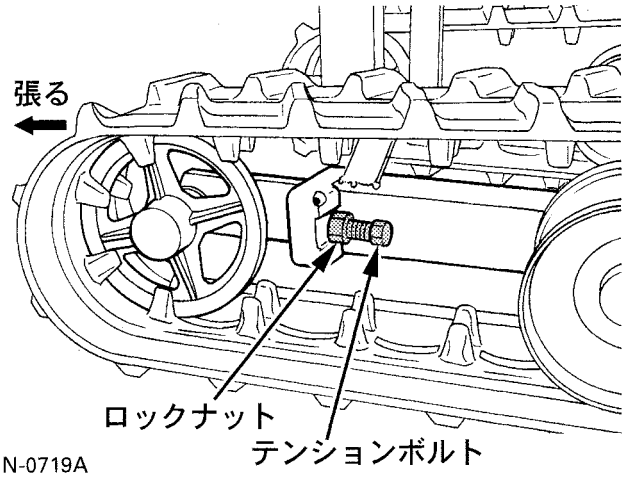
＊左右のクローラの張り強さは，必ず同じになるように調節してください。
ロックナットを締め忘れると走行中にクローラがゆるんできて危険です。【51・61・451】

＊ベータピンと回り止め板をつけ忘れると走行中にクローラがゆるんできて危険です。【651・751】

◆クローラの張り方

51・61・451

1. ロックナットをゆるめます。
2. テンションボルトを，スパナで回してクローラを張ります。
3. ロックナットを確実に締付けます。

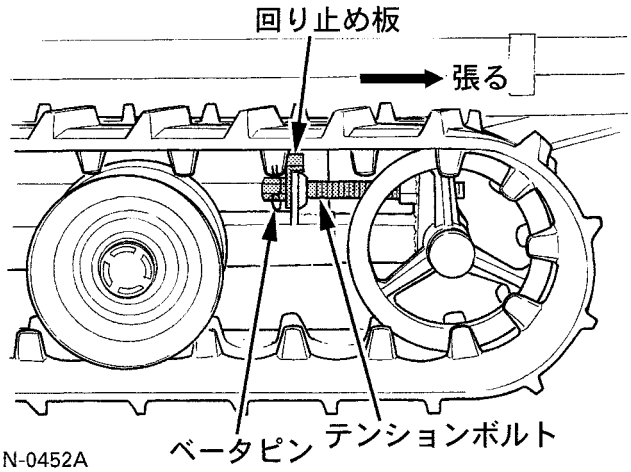


N-0719A

51・61・451

651・751

1. テンションボルトに組付けているベータピンと回り止め板を外します。
2. テンションボルトを，スパナで回してクローラを張ります。
3. 回り止め板を取付け，ベータピンを差込みます。



N-0452A

651・751

長期格納のしかた

警 告

＊掃除は平たんな場所で，エンジンを必ず停止してから行なってください。

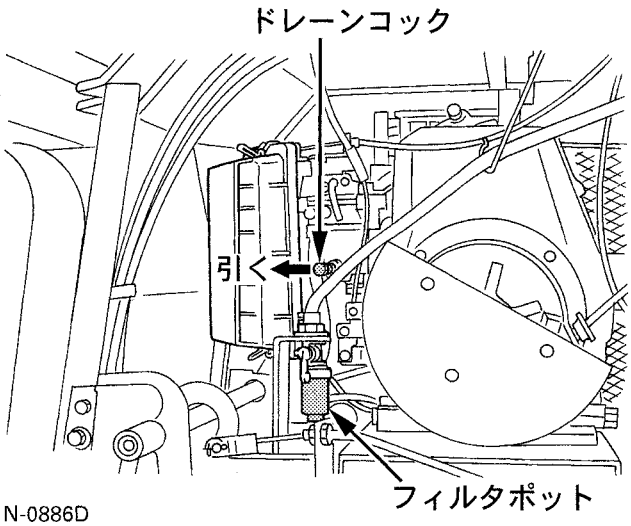
ハーベスタをいつまでも長持ちさせ，性能を低下させないために，使用後は必ず掃除と手入れをしてください。

■各部の清掃

1. 各部に付着した雑草やわらくずを完全に取除き泥等の汚れを水できれいに洗い落とし，そのあと水分が残らないようにふき取っておきます。水洗いのときには脱こく機内部に水が入らないように注意してください。
2. 各回転部分，摩擦しゅう動部分，サイド(操向)クラッチレバー支点及び各チェーンなどは，きれいに清掃したあとじゅうぶん注油して，錆びたり，硬着したりしないようにしてください。
3. 脱こく機各部に，こく粒やわらくずが残っているとネズミが入り込むのできれいに取除いてください。
4. 塗料のはげたところには補修塗料を塗って，錆びがでないようにしてください。
5. 摩耗がひどくて取換える必要のある部品は，ご購入先に連絡して修理，交換してください。

■エンジン関係

1. 部屋に格納しようとするときは火災の危険があるため，エンジンが冷えてからにしてください。
2. クランクケース内のよごれたエンジンオイルを排出し，新しいオイルを入れ，５分間エンジンを空運転させ，各部にオイルをゆきわたらせてください。
3. 各部に付いたわらくず，雑草を取除いてください。特に気化器とマフラ，及びシリンダヘッド，リコイルスタータ，スタートハンドルに付いたわらくずは完全に取除いてください。
4. エアクリーナを掃除してください。
5. 燃料タンク内の燃料を抜き，フューエルフィルタを掃除してください。
6. エンジンは，アクセルレバーをいっぱい戻して止めておいてください。
7. 作業終了後，格納の際は必ずフューエルコックレバーを**“閉”(S)**の位置にしてください。
8. 点火プラグ穴よりエンジンオイルを約10cc注入し数回空転後，点火プラグを取付け，スタータを引いて圧縮のあるところで止めてください。**【51･61】**
9. ガソリンを入れたままにしておくと，気化して，次の始動が困難になります。
   燃料タンク内はポンプなどで，気化器のフロートチャンバ内のガソリンは，ドレーンコックを引いて排出し，燃料タンク内はポンプなどで全部抜取ってください。**【51・61】**
10. フィルタポットを外し，こしあみをガソリンできれいに洗浄してください。**【51・61】**



N-0886D

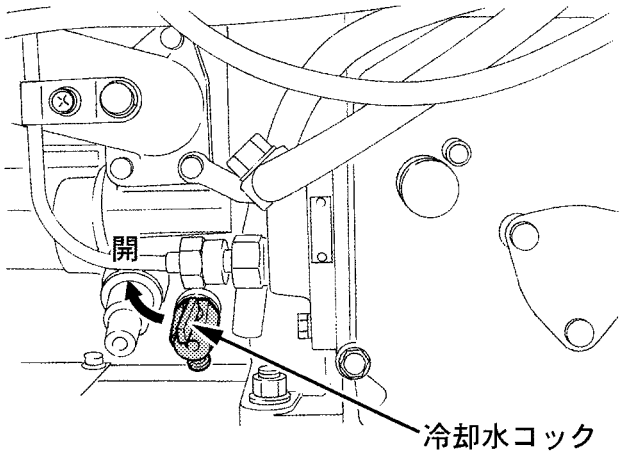
■ラジエータ冷却水【451·651·751】

注 意

＊運転中及び停止直後にキャップを開けると熱湯が噴出してヤケドをしますから，キャップを外すのは，停止後30分以上たって冷えてからにしてください。

重 要

＊ラジエータから冷却水を抜くときは，シリンダヘッドの下にある冷却水コックを開けて，次に圧力キャップを開けますと，冷却水はほとんど全部排出されます。凍結のおそれがあるとき(不凍液を使わない場合)は必ず排出してください。



N-0437A

1. 不凍液をいれていないときは，冬期気温が，0℃以下になるとエンジンの凍結割れが生じますので，必ず冷却水を抜取ってください。シリンダヘッド下部にある冷却水コックを開き，圧力キャップを外して完全に冷却水を排出し，冷却水コックは開いたままにしておき，圧力キャップに**“水なし”**と書いた札をかけておくと次に使用するときに給水を忘れません。

重 要

＊冷却水コックは開いたままにしておいてください。上の方に水がたまって完全に抜けていないことがあります。

2. リザーブタンク下のバンドをゆるめてパイプを抜取り，リザーブタンクの水を抜いてください。また，同時にパイプの水も抜いてください。水が完全に抜けたら，パイプをリザーブタンクにじゅうぶん押込み，バンドがタンクのパイプ部分にかかる位置で締付けてください。
3. ほこりを防ぐため，カバーをし，場所は湿気やほこりのないところを選んでください。エンジンのシリンダ内に湿気が入りますと，来季での始動が非常に困難となりますので，リコイルスタータ及びスタートハンドルは圧縮位置にしておいてください。

■その他

1. スタータスイッチのキーは，抜取って保管してください。
2. バッテリは機体から取外して，液を規定量にしてから充電し，直射日光の当たらない乾燥したところに保存してください。
   バッテリは保存中でも自然放電するので，夏は1カ月に1回，冬は2カ月に1回補充電する必要があります。また本機に取付けたまま保管するときは，必ずアース側(1側)を外してください。
3. 脱こくクラッチレバーは**“切”**にしてください。
4. 室外におく場合は，雨水がかからないようにシートを掛けてください。マフラ，エンジンが冷えてからシートを掛けてください。

重 要

＊機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにし，整備がすむとカバーを掛けて，ほこりの少ない乾燥した場所に格納してください。

使用者が行なってはいけない修理

下記部分に異状があるときは，ご購入先の修理工場に依頼してください。

- エンジン本体
- トランスミッションケース
- ギヤー(ベベルギヤを含む)を内蔵したケース類
- 電気部品と電気系統

使用済廃棄物の処分について

機械の廃油や，使用後のフィルムなどの廃棄物をむやみに捨てると環境汚染になります。
機械から廃油を抜く場合は，容器に受けてください。
地面へのたれ流しや川，沼への廃棄は絶対にしないでください。
廃油・燃料・冷却水・ブレーキ液・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは，販売店，又は産業廃棄物処理業者に依頼してください。

不調時の点検と処置

■本機

状　態	原　因	処　置　方　法	参照ページ
3　番　口（排じん筒）からこく粒の飛散が多い。	①こぎ胴の回転速度が速すぎる。	回転計を見ながらエンジンの回転速度を調節する。	35
	②ブロワの回転速度が速すぎる。	ブロワを調節して回転速度を遅くする。	38,39
	③エンジンの回転変動が大きい。	エンジンを点検,調節する。 正しいこぎ方をする。	35,46,53,55,57
	④2番スクリュ上にわらくずがたまっている。	機械を止め，きれいにわらくずを取除く。	49
	⑤こぎ方にムラがある。	供給間隔を一定にする。	37
こぎ残りが出る。	①こぎ深さが不適当。	こぎ深さを適正にして,正しいこぎ方をする。	37
	②こぎ胴の回転速度が遅い。	回転計を見ながらエンジンの回転速度を調節する。	35
	③こぎ胴駆動ベルトがスリップしている。	脱こく伝導ベルトの張りを調節する。	61,62
	④回転変動が大きい。	エンジンを点検,調節する。 正しいこぎ方をする。	35,46,53,55,57
1　番　口（もみ出口）の選別が悪い。	①こぎ胴の回転速度が遅い。	回転計を見ながらエンジンの回転速度を調節する。	35
	②ブロワの回転速度が遅い。	ブロワを調節して回転速度を速くする。	38,39
	③こぎ方にムラがある。	供給間隔を一定にする。	37
	④穂切れ,ノゲ,稈が多い。（麦作業）	回転計の指針をアクセスレバーで緑線(麦)に合す。**【51・61】**	35,38,39
		エンジン変速プーリの取付方向を麦仕様にする。**【451】**	
		カウンタ割りプーリのシム調節を麦仕様にする。**【651・751】**	
籾(しいな)粒が循環する。	①こぎ胴の回転速度が遅い。	回転計を見ながらエンジンの回転速度を調節する。	35
	②ブロワの回転速度が遅い。	ブロワを調節して回転速度を速くする。	38,39
	③こぎ室のわら移動が悪い。	わら切刃をよく研摩する。	60
		処理調節を**“開”**にする。	39
	④2番還元量が多い。	選別調節板を上げる。	38,39
		排じん仕切板2を上げる。	39

状　態	原　因	処置方法	参照ページ
もみが損傷(脱ぷ)する。	①こぎ胴の回転速度が速すぎる。	回転計を見ながらエンジンの回転速度を調節する。	35
	②脱ぷしやすい品種である。	規定回転速度より少し低めで作業をする。	35
	③こぎ室内でのわら移動が悪い。	わら切刃をよく研摩する。	60
	④2番還元量が多い。	選別調節板を上げる。	38,39
もみが出てこない。	①ぬれたもみが流こく板から流れない。	ぬれたもみは脱こくしないこと。	29
	②揺動装置が止まっている。	ベルト及びテンションプーリを点検し,調節する。	61,62
	③たてスクリュが詰まっている。	たてスクリュ掃除口を開けて掃除をする。	49
排じん部及び2番スロワが詰まる。(＊)	①こぎ胴回転速度が遅い。	回転計を見ながらエンジンの回転速度を調節する。	35
	②ブロワの回転速度が遅い。	ブロワを調節して回転速度を強くする。	38,39
	③回転変動が大きい。	エンジンを点検,調整する。 正しいこぎ方をする。	35,46,53,55,57
	④長わらの発生が多い。	わら切刃をよく研摩する。	60
	⑤ブロワベルトがスリップしている。	ベルトの張りを強くする。	61,62
	⑥作物がぬれている。	乾いてから脱こくする。	29
動力がかかりすぎる。(馬力を喰う)	①深こぎしすぎる。	こぎ深さを浅くし，正しいこぎ方をする。	37
	②こぎ胴室内にわらがたまりすぎる。	わら切刃をよく研摩するか,ブロワの回転速度を速くする。	38,39,60
	③2番スロワが詰まっている。	上記(＊)の2番スロワの項参照。	——
旋回性能が悪い。	①サイドクラッチワイヤが伸びている。	調整ネジによりワイヤを調整する。	64
もみ出口のブザーが鳴らない。	①配線が切れている。	点検して接続し直す。	——

■エンジン

状態	原因		処置方法	参照ページ
エンジンがかからない【セル仕様】	セルスタータは回る	点火プラグが汚れている。	点火プラグを外して掃除する。【51・61】	57
		燃料送油系統に，空気や水が混入している。	エア抜き，水抜きをする。【451・651・751】	54, 55
		燃料がない。	燃料があるか点検し，ない場合は補給する。	44
		燃料がある。	＊フューエルフィルタの目詰まりがないか点検し洗浄する。 ＊フューエルパイプの折れ，破損の点検。 ＊自動車用レギュラガソリン（無鉛）を補給したか。【51・61】 ＊ディーゼル軽油を補給したか。【451・651・751】	44, 53
	セルスタータが回らない	シャトルシフト（主変速）レバーが“前進”又は“後進”の位置にある。	シャトルシフト(主変速)レバーを“N(中立)”(ブレーキ)の位置にする。(安全装置を解除する。)	9
		脱こくクラッチレバーが“入”の位置にある。	脱こくクラッチレバーを“切”の位置にする。(安全装置を解除する。)	10
		バッテリが上がっている。	＊補充電をする。 ＊バッテリ液を点検し不足の場合は，市販のバッテリ補充液を補給する。	57
		ヒューズがきれている。(予備ヒューズ袋 / ヒュージブルリンク)	点検し，切れている場合は予備ヒューズと交換する。	59

＊わからない場合は，ご購入先にご相談ください。

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

【451・651・751】

現　象	原　因	処　置
始動の困難な場合	(1)燃料が流れない。	(1)燃料タンク・フューエルフィルタの点検し，沈殿している不純物や水分を除く。 (2)使用する燃料は，すべてフィルタでこされるため，フィルタには不純物や沈殿物が付着しやすくなっています。付着物があればフィルタを交換する。
	(2)燃料送油系統に，空気や水が混入している。	(1)フューエルパイプ継手ボルト・袋ナットなどにゆるみがないかを点検する。 (2)エア抜き・水抜きをする。
	(3)寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い。	(1)ラジエータに熱湯をそそぐ。 (2)気温によってオイルの使い分けをする。
エンジン出力が不足の場合	(1)燃料不足。	燃料系統を点検する。
	(2)エアクリーナの目詰まり。	エレメントを清掃する。
エンジンが突然停止した場合	燃料不足。	(1)燃料を補給する。 (2)燃料系統を調べる。(空気・水の混入に注意)
排気色が悪い場合	燃料が悪い。	良質の燃料と交換する。

■警笛が鳴った場合【451·651·751】

注 意

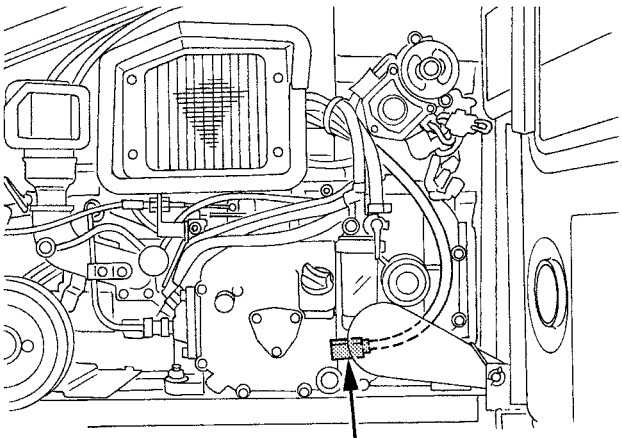
＊エンジンが冷えていないとき，エンジンカバーを開けると，ラジエータ部・リザーブタンク部などより熱湯が噴出し，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

警笛が鳴った場合，又は警笛より水や蒸気が出てきた場合やオーバヒートになった場合は，防じんカバーを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。

1. エンジンを停止する。
2. エンジン停止後30分以上経過してから防じんカバーを開ける。
3. 点検・整備でラジエータやエンジン内部に触れるときは，じゅうぶん冷えていることを確認する。

● ヤケドなどの危険性がなくなってから，次の点検・整備を行なってください。

(1) 防じんカバーとラジエータフィンのわらくずやごみを取除く。
(2) ラジエータが冷えてから，ラジエータとリザーブタンクに冷却水を規定量まで補給する。
(3) ファンベルトがゆるんでいないか点検する。
(4) ラジエータ水管の中に，水アカがたまっていないか点検する。
(5) 冬期でないときに，不凍液が入っている場合は清水と交換する。



N-0710A

付　表

主要諸元

農機型式名			RH400	RH500		
名称			HS-51	HS-61		
区分			標準	標準	W	S
機体寸法	全長(mm)	格納時	2285			
		作業時	2800			
	全幅(mm)	格納時	1225			
		作業時	2435			
	全高(mm)	格納時	1400	1400		
		作業時	1290	1290		
機体質量〔重量〕(kg)			345	355	360	365
エンジン	型式名		GH200-MA1	GH250-MA1		GH250-MA1-S
	種類		空冷4サイクル立形ガソリンエンジン			
	総排気量(L{cc})		0.194 {194}	0.247 {247}		
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)		3.5 {4.8} / 1800〔最大：5.0 {6.8}〕	4.4 {6.0} / 1800〔最大：6.3 {8.5}〕		
	使用燃料/タンク容量(L)		自動車用レギュラガソリン(無鉛) / 7.0			
	始動方式		リコイル			セル
	バッテリ(V·Ah)		——			12·21
	始動安全装置		メカ式			電気式
走行部	クローラ	接地長x幅(mm)	790 x 170		790 x 220	790 x 170
		平均接地圧(kPa{kgf/cm²})	12.6 {0.128}	12.9 {0.132}	10.1 {0.103}	13.2 {0.135}
	変速段数		前進2段，後進1段			
	走行速度(m/s)	前進	0.33，0.94			
		後進	0.28			
脱こく部	こぎ胴	径x幅(mm)	420 x 420			
		回転速度(rpm)	稲480，麦530			
	選別方式		稲動，圧風，吸引〔ダブルサイクロン方式〕			
	揚こく方式		スクリュ揚こく式			
	こく粒吐出口		2口手動切換式			
操作部	ブロワ調節		無段〔ネジ式〕			
	稲麦切換		アクセルレバー調節			
	掃除口		1番·2番スクリュケース，縦スクリュケース，接続ケース			
	排じん筒調節		4方向切換え収納式（ノンツール脱着可能）			
	駐車ブレーキ		シャトルシフト〔主変速〕レバーと連動			
わら処理部	円板カッタ〔単体〕		有〔オプション〕			
	円板ドロッパカッタ		なし	有〔オプション〕		
	大束結束機		なし	有〔オプション〕		
作業能率〔計算値〕(a/hr{分/10a})			15～8 {40～75}	15～10 {40～60}		

付　表

主要諸元

農機型式名			RH450		
名称			HS-451		
区分			標準	W	S
機体寸法	全長(mm)	格納時	2285		
		作業時	2800		
	全幅(mm)	格納時	1225		
		作業時	2435		
	全高(mm)	格納時	1400		
		作業時	1290		
機体質量〔重量〕(kg)			368	373	378
エンジン	型式名		E40-MH		E40-MHB
	種類		水冷４サイクル横形ディーゼルエンジン		
	総排気量(L{cc})		0.212 {212}		
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)		2.9 {4.0} / 2600		
	使用燃料/タンク容量(L)		ディーゼル軽油　/　7.0		
	始動方式		リコイル		セル(リコイル付き)
	バッテリ(V·Ah)		——		12 · 28
	始動安全装置		メカ式		電気式(メカ式)
走行部	クローラ	接地長x幅(mm)	790 x 170	790 x 220	790 x 170
		平均接地圧(kPa{kgf/cm²})	13.4{0.137}	10.4{0.107}	13.8{0.141}
	変速段数		前進２段，後進１段		
	走行速度(m/s)	前進	0.33，0.94		
		後進	0.28		
脱こく部	こぎ胴	径x幅(mm)	420 x 420		
		回転速度(rpm)	稲 480，麦 530		
	選別方式		揺動，圧風，吸引〔ダブルサイクロン方式〕		
	揚こく方式		スクリュ揚こく式		
	こく粒吐出口		２口手動切換式		
操作部	ブロワ調節		無段〔ネジ式〕		
	稲麦切換		アクセルレバー組替式		
	掃除口		１番・２番スクリュケース，縦スクリュケース，接続ケース		
	排じん筒調節		４方向切換え収納式（ノンツール脱着可能）		
	駐車ブレーキ		シャトルシフト〔主変速〕レバーと連動		
わら処理部	円板カッタ〔単体〕		有〔オプション〕		
	円板ドロッパカッタ		有〔オプション〕		
	大束結束機		有〔オプション〕		
作業能率〔計算値〕(a/hr{分/10a})			15～8 {40～75}		

主要諸元

農機型式名			RH650		RH750	
名称			HS-651		HS-751	
区分			標準	S	標準	S
機体寸法	全長 (mm)	格納時	2280			
		作業時	2570			
	全幅 (mm)	格納時	1225		1315	
		作業時	2435		2615	
	全高 (mm)	格納時	1455			
		作業時	1340			
機体質量〔重量〕(kg)			457	472	482	497
エンジン	型式名		EA7-MH	EA7-MHB	EA8-MH	EA8-MHB
	種類		水冷４サイクル横形ディーゼルエンジン			
	総排気量 (L{cc})		0.340 {340}		0.376 {376}	
	出力/回転速度 (kW{PS}/rpm)		4.4 {6.0} / 2400		5.1{7.0} / 2400	
	使用燃料/タンク容量 (L)		ディーゼル軽油　/　7.0			
	始動方式		クランクハンドル	セル	クランクハンドル	セル
	バッテリ (V·Ah)		——	12·28	——	12·28
	始動安全装置		メカ式	電気式	メカ式	電気式
走行部	クローラ	接地長x幅 (mm)	850 x 200			
		平均接地圧 (kPa{kgf/cm²})	13.2{0.134}	13.5{0.138}	13.9{0.142}	14.3{0.146}
	変速段数		前進３段, 後進１段			
	走行速度 (m/s)	前進	0.30, 0.61, 0.98		0.33, 0.66, 1.06	
		後進	0.30		0.33	
脱こく部	こぎ胴	径x幅 (mm)	420 x 420		420 x 510	
		回転速度 (rpm)	稲 480, 麦 530			
	選別方式		揺動, 圧風, 吸引〔ダブルサイクロン方式〕			
	揚こく方式		スクリュ揚こく式			
	こく粒吐出口		２口手動切換式			
操作部	ブロワ調節		無段〔ネジ式〕			
	稲麦切換		シム調節〔カウンタ出力プーリ〕			
	掃除口		１番·２番スクリュケース, 縦スクリュケース, 接続ケース			
	排じん筒調節		４方向切換え収納式（ノンツール脱着可能）			
	駐車ブレーキ		シャトルシフト〔主変速〕レバーと連動			
わら処理部	円板カッタ〔単体〕		有〔オプション〕			
	円板ドロッパカッタ		有〔オプション〕			
	大束結束機		有〔オプション〕			
作業能率〔計算値〕 (a/hr{分/10a})			15～10{40～60}		20～15{30～40}	

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊保証書	1	＊工具	
＊取扱説明書	1	8-10スパナ	1
＊本機カバー	1	12-14スパナ	1
＊ヒュージブルリンク	1	17-19スパナ	1
【セル(S)仕様】		ドライバ	1
＊ヒューズ　10A，15A	各1	プライヤ	1
【セル(S)仕様】		オイル差し	1
		じょうご	1
		給油パイプ	1

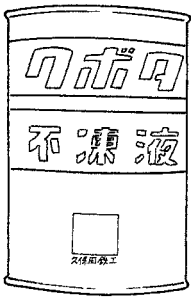
別途購入アタッチメント一覧表

品　番	品　名	型　式	適　応　機　種
57083-00000	円板カッタ	SH75R-1	【51・61・451】
57093-00000		SH75RD-1	【651・751】
57424-00000	円板ドロッパカッタ(拡散装置付)	S601-75R1	【61・451】
57425-00000		S601-75RD1	【651・751】
57445-00000	大束結束機	HK-4R	【61・451・651・751】

ラジエータの用品

■不凍液

冷却水が氷結するとシリンダやラジエータを破損することがあります。気温が0℃以下になるようなときは使用後，冷却水を抜取るか，不凍液を混入してください。



Z-1007A改

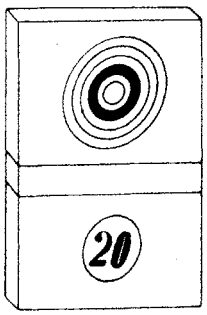
1. 不凍液は，クボタ不凍液(ロングライフクーラント)を御使用ください。
2. 冷却装置の洗浄後はじめて不凍液を使用する場合は，ラジエータに２～３回清水を入れて，抜き捨てる操作を繰返し，内部を洗浄します。
3. 不凍液の場合は，気温によって異なりますので，使用の際は，使用量，使用方法などをご購入先に御相談ください。
   ラジエータの冷却水有効容量

【451】	1.0L
【651】 【751】	1.3L

4. 不凍液の注入
   不凍液は水とよく混合させてから入れてください。
5. 不凍液の補給
   蒸発により減った場合は水だけ補給します。
   漏れた場合は，はじめの比率どおり不凍液を調合してから補給をしてください。
6. 不凍液は吸湿性がありますから，使用後容器のふたは完全にしめて保管してください。

■ラジエータ洗浄剤

不凍液を混入したり，不凍液混入から水だけに換える場合は，ラジエータ内部を洗浄してください。洗浄にはクボタラジエータ洗浄剤No.20を使用すると，たまった水あかがきれいに洗い落とせます。
その他，水に赤錆びが混入しているときに使用してください。



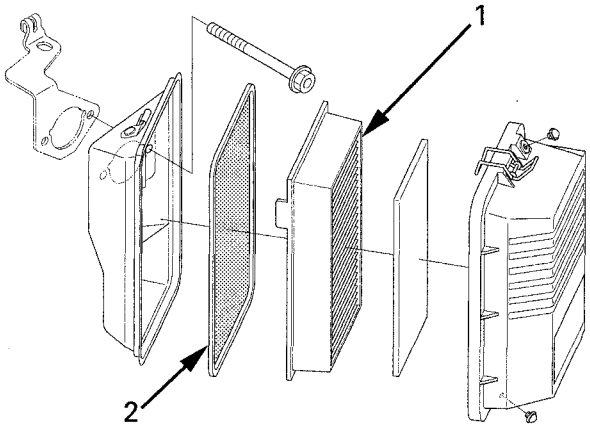
Z-1009A改

消耗部品（純正部品を使いましょう）

■本機部

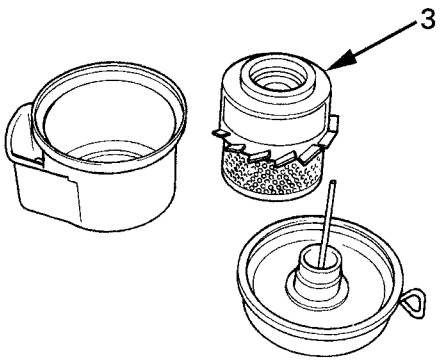
図番	品　　名	品　　番	個数
1	ペーパエレメント	16667-1118-0	1
2	スポンジ	16667-1132-0	1
3	エアクリーナエレメント 【451・651・751】	14971-1118-0	1

【51・61】



N-0891B

【451・651・751】



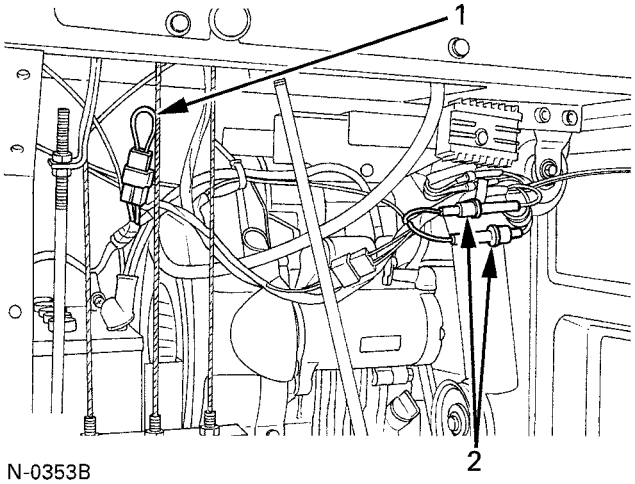
N-0160B

消耗部品（純正部品を使いましょう）

【セル(S)仕様】

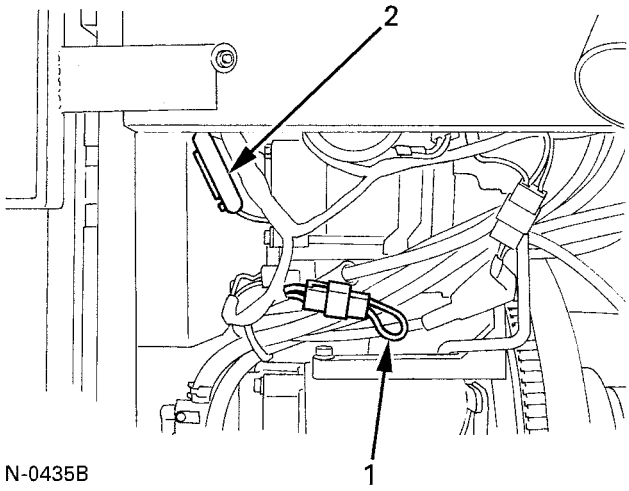
図番	品　　名	品　　番	個数
1	ヒュージブルリンク	59460-4171-0	1
2	5Aカンヒューズ【61】	54611-4172-0	2
	5Aカンヒューズ【451・651・751】		1

【61】



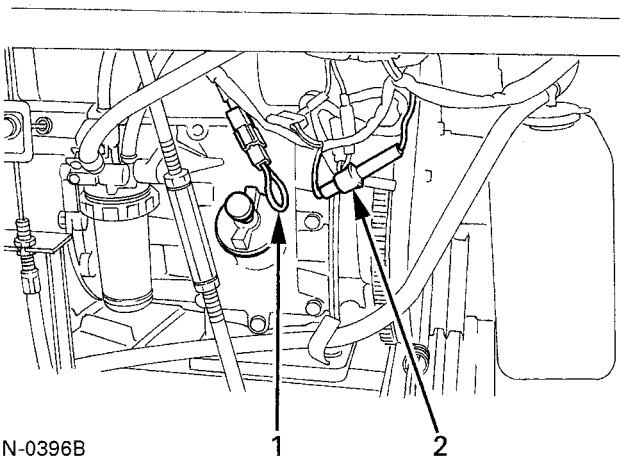
N-0353B

【651・751】



N-0435B

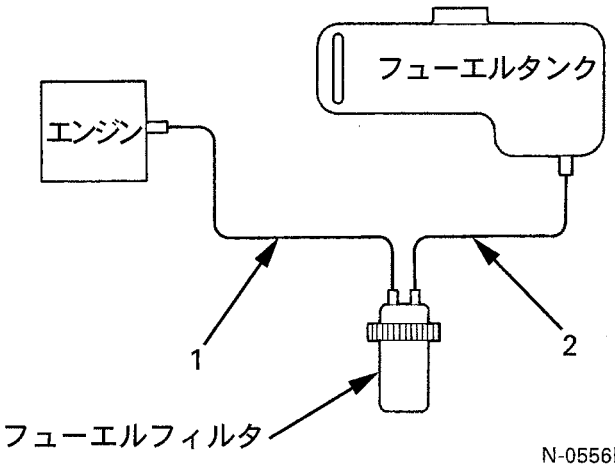
【451】



N-0396B

【51・61】

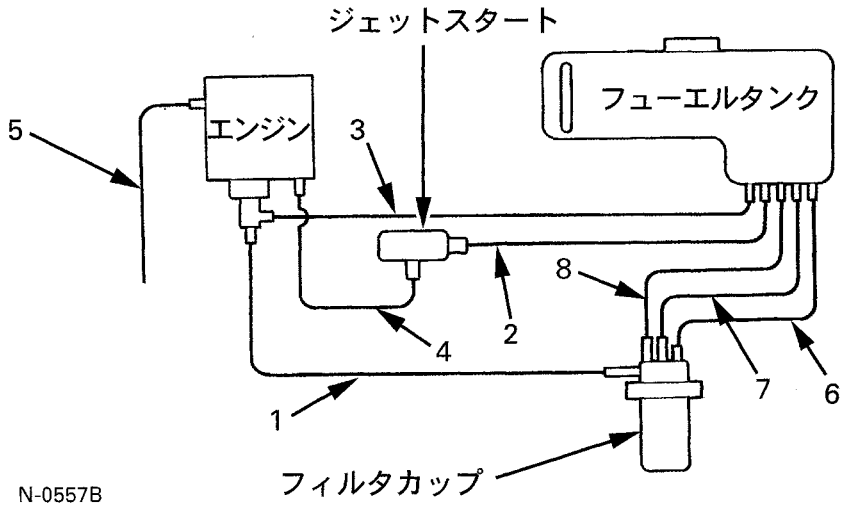
図番	品　　名	品　　番	個数
1	フューエルパイプアッシ【51】	12546-4217-2	1
	フューエルパイプアッシ【61】	12236-4218-0	1
2	フューエルパイプ【51】	5C000-3521-0	1
	フューエルパイプ【61】	5C001-3521-0	1



N-0556B

消耗部品（純正部品を使いましょう）

【451・651・751】



N-0557B

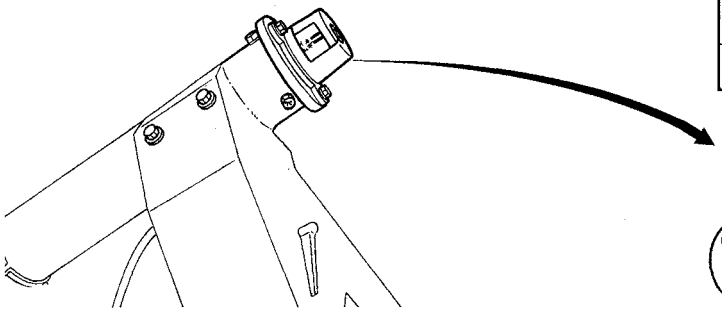
図番	品　名	品　番	個数
1	フューエルパイプ2アッシ【451】	14531-4202-0	1
	フューエルパイプ2アッシ【651・751】	11131-4202-0	1
2	フューエルパイプ3【451】	56331-3517-0	1
	フューエルパイプ2【651・751】	56363-3516-0	1
3	フューエルパイプ3【451】	56331-3517-0	1
	フューエルパイプ3【651・751】	56363-3517-0	1
4	ジェットスタートパイプ【451】	56331-3521-0	1
	エアーベントパイプ2アッシ【651・751】	11151-4220-0	1

図番	品　名	品　番	個数
5	ブレザパイプ【451】	11151-0551-0	1
	ブレザパイプ【651・751】	14531-0551-0	1
6	フューエルパイプ1【451】	56331-3515-0	1
	フューエルパイプ1【651・751】	56363-3515-0	1
7	エアーベントパイプ2アッシ【451】	14952-4220-0	1
	エアーベントパイプアッシ【651・751】	11136-4205-0	1
8	エアーベントパイプ2アッシ【451】	14952-4220-0	1
	エアーベントパイプアッシ【651・751】	11136-4205-0	1

付　表

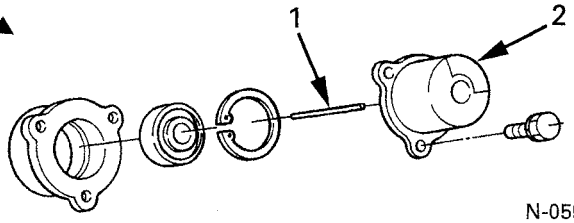
消耗部品（純正部品を使いましょう）

■脱こく部



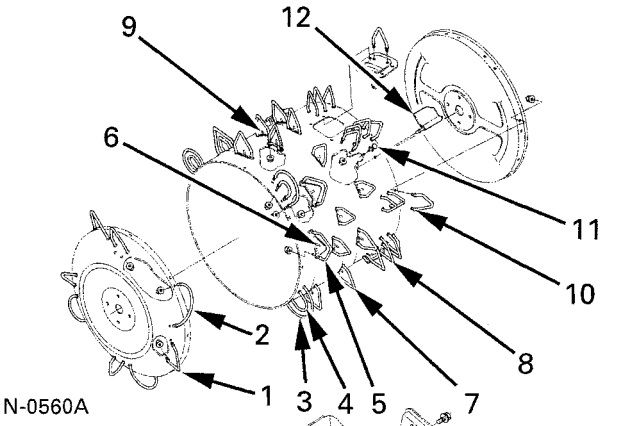
N-0704B

図番	品　　名	品　　番	個数
1	インナケーブル	53511-2151-0	1
2	カイテンケイ	53455-8111-3	1

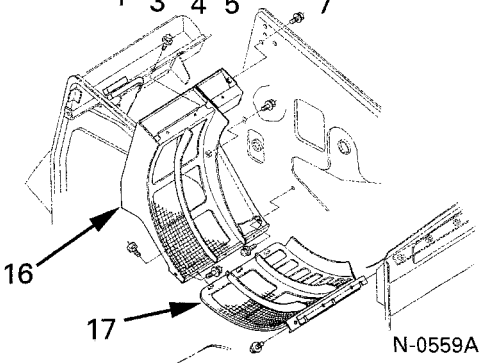


N-0558A

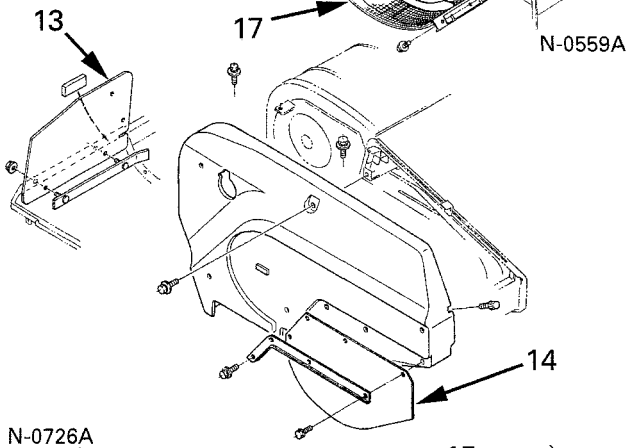
図番	品　　名	品　　番	個数
1	ダイ１セイソシ	53582-7212-0	4
2	ダイ２セイソシ	53582-7213-0	4
3	ダイ３セイソシ	53582-7214-0	4
4	ダイ３セイソシショウ	53514-7213-0	4
5	ダイ１ホキョウシ	53582-7216-0	4
6	ダイ２ホキョウシ	53582-7217-0	4
7	イタホキョウシ	53567-2146-0	8
8	ナミハ【51・61・451・651】	53582-7219-0	38
	ナミハ【751】		52
9	イタコキハ【451・651】	53567-2147-0	20
	イタコキハ【751】		28
10	ナミハ２	53415-2144-0	4
11	コキドウハネクッションゴム	53650-2219-0	1
12	コキドウハネ	53455-2143-0	1
13	イリグチヒサンボウシ２	53468-6121-2	1
14	イリグチヒサンボウシ	53465-6122-0	1
15	ワラキリハ【51・61・451・651】	53713-1322-0	5
	ワラキリハ【751】		6
16	９ミリウケアミ１【451・651】	53415-1341-4	1
	９ミリウケアミ１【751】	53418-1341-0	1
17	９ミリウケアミ２【451・651】	53415-1342-0	1
	９ミリウケアミ２【751】	53418-1342-0	1



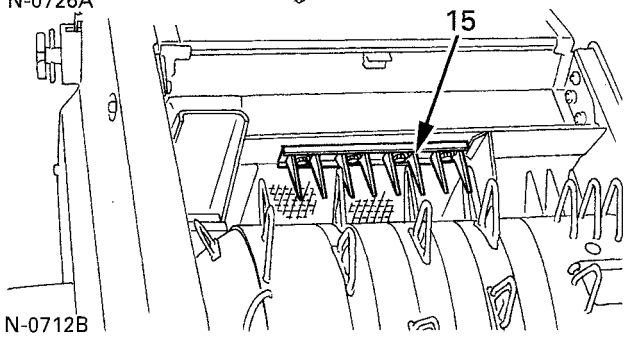
N-0560A



N-0559A

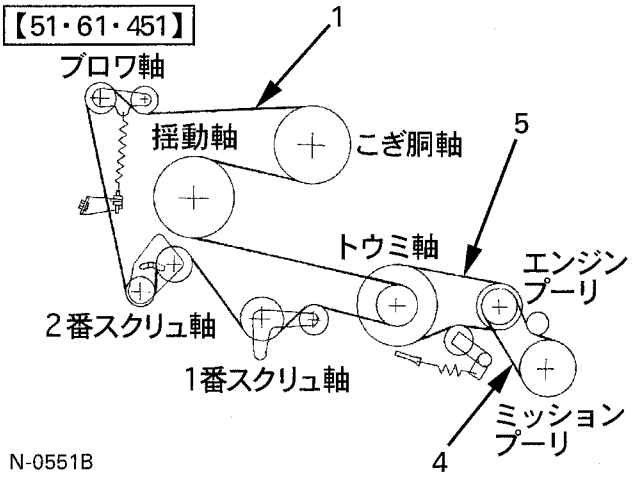


N-0726A

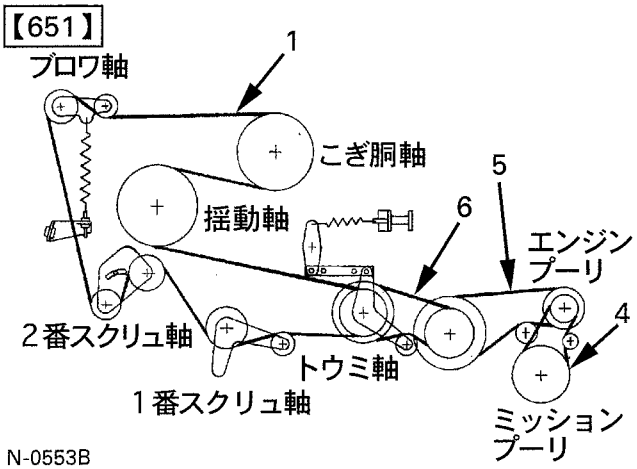


N-0712B

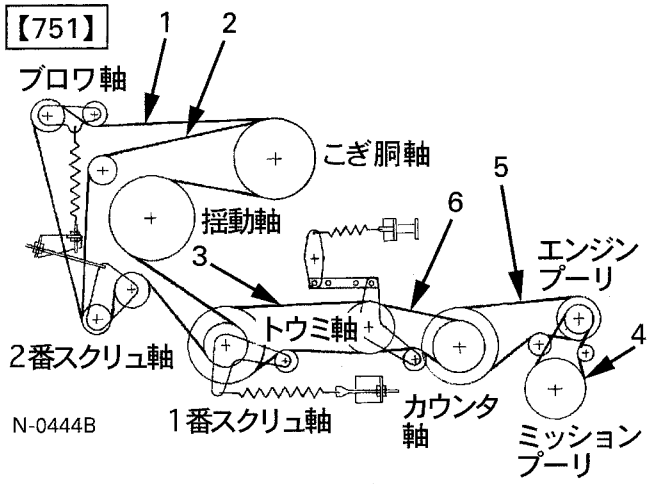
消耗部品（純正部品を使いましょう）



N-0551B

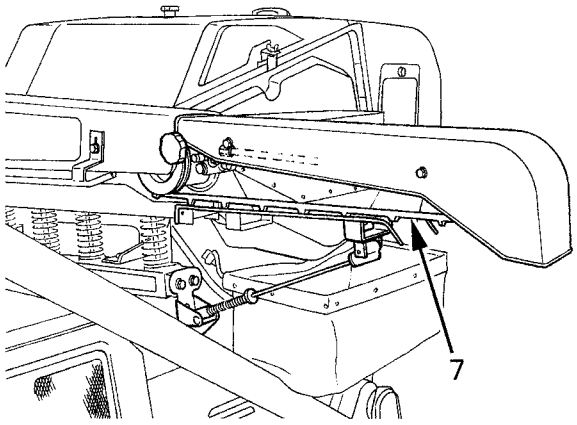


N-0553B



N-0444B

図番	品　　名	品　　番	個数
1	ブイベルトトクビィ165【51・451】	53465-5611-0	1
	ブイベルトトクビィ165【61・651】	53443-5611-0	1
	ブイベルトトクビィ133【751】	53468-5613-0	1
2	ブイベルトトクビィ120【751】	53468-5614-0	1
3	ブイベルトトクシィ53【751】	53468-5612-0	1
4	43ブイベルト【51・61】	55311-1165-0	1
	37ブイベルト【451】	56331-1214-0	1
	ブイベルトトクビィ39【651・751】	56363-1211-0	1
5	ブイベルトトクビィ56【51・61】	53457-5621-0	1
	62ブイベルト【451】	56331-1117-0	1
	ブイベルトトクシィ49.5【651・751】	56363-1221-0	1



N-0346C

図番	品　　名	品　　番	個数
6	ブイベルトトクビィ44【651】	53485-5611-0	1
	ブイベルトトクシィ40【751】	53468-5611-0	1
7	ハイワラベルト	56501-3413-3	1

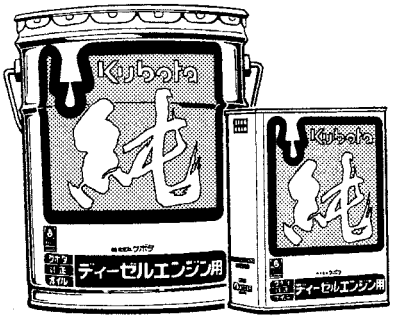
クボタ純オイル

■オイルは　クボタ純オイル　をお使いください。

オイルは，ハーベスタの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切なハーベスタの寿命を縮めることがあります。

お買求めは，販売店またはＪＡ農協へご用命ください。

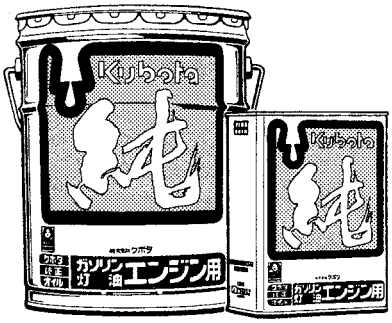
● D30又はD10W30（ディーゼルエンジン用）



20L　4L

Z-1025

● G30又はG20W20
（ガソリン・灯油エンジン用）



20L　4L

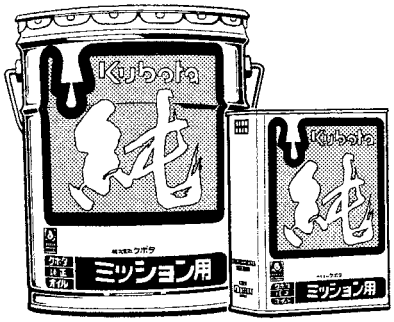
Z-1022

● M80B（ミッション・各ギヤケース用）

20L　4L

Z-1024

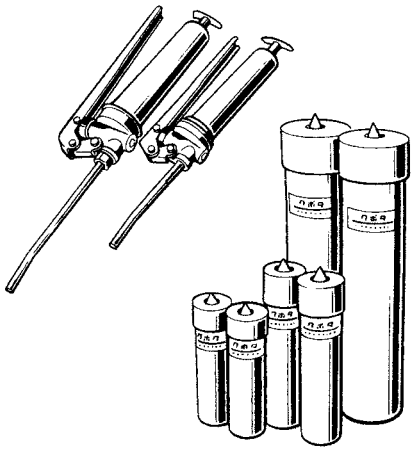
● M90（各ギヤケース用）



20L　4L

Z-1023

■ クボタスペアグリース



60　100　400

Z-1026

5C000-6131-1(カラー)最終頁

修理・取扱い・手入れなどてご不明の点はまず，購入先へ　ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名　　担当　　電話（　　）　　－		
ご購入日	型式名	区分
車台番号(製造番号)	エンジン型式　　エンジン番号	

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121　〒063-0061　札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所：電(048)862-1121　〒338-0832　さいたま市西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所：電(072)241-8506　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
機械福岡事務所：電(092)606-3161　〒811-0213　福岡市東区和白丘２丁目２番76号

クボタ機械サービス株式会社

本社営業技術部：電(072)241-8092　〒590-0823　堺市石津北町64番地
北海道営業技術推進部：電(011)662-2121　〒063-0061　札幌市西区西町北16丁目１番１号
秋田営業技術推進部：電(018)845-1601　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162　〒981-1221　名取市田高字原182番地の１
東京営業技術推進部：電(048)862-1588　〒338-0832　さいたま市西堀５丁目２番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1263　〒950-0992　新潟市上所上１丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121　〒924-0038　松任市下柏野町956-１
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111　〒491-0031　一宮市観音町１番地の１
大阪営業技術推進部：電(072)241-8551　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
米子営業技術推進部：電(0859)33-5011　〒683-0804　米子市米原７丁目１番１号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511　〒703-8216　岡山市宍甘275番地
高松営業技術推進部：電(087)874-5091　〒769-0102　香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３
福岡営業技術推進部：電(092)606-3673　〒811-0213　福岡市東区和白丘２丁目２番76号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181　〒861-4147　熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１

株式会社クボタアグリ東日本

東北系統推進部：電(018)845-1601　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
関東・甲信越系統推進部：電(048)862-1124　〒338-0832　さいたま市西堀５丁目２番36号

株式会社クボタアグリ西日本

中部・近畿系統推進部：電(072)241-8550　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
中四国系統推進部：電(087)874-5091　〒769-0102　香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３

株式会社クボタアグリ九州

九州系統事業推進部：電(092)606-3725　〒811-0213　福岡市東区和白丘２丁目２番76号

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
TEL.06-6648-2111
FAX.06-6648-3862

品番　5C000-6131-1